



陽だまりの竜、
夕暮れの鴉、

HIDAMARI NO
RYUU,

YUGURE NO
KARASU



陽だまの竜、
夕暮れの鴉、

HIDAMARI NO
RYUU,

YUURE NO
KARASU



目次

第1話	4
第2話	34
第2.5話	48
第3話	54
第4話	82
第4.5話	88
第5話	90
第6話	100
第6.5話	122
第7話	128
第8話	150
第8.5話	200

※ページの左右調整のため
何も描かれていないページが
ありますが仕様です

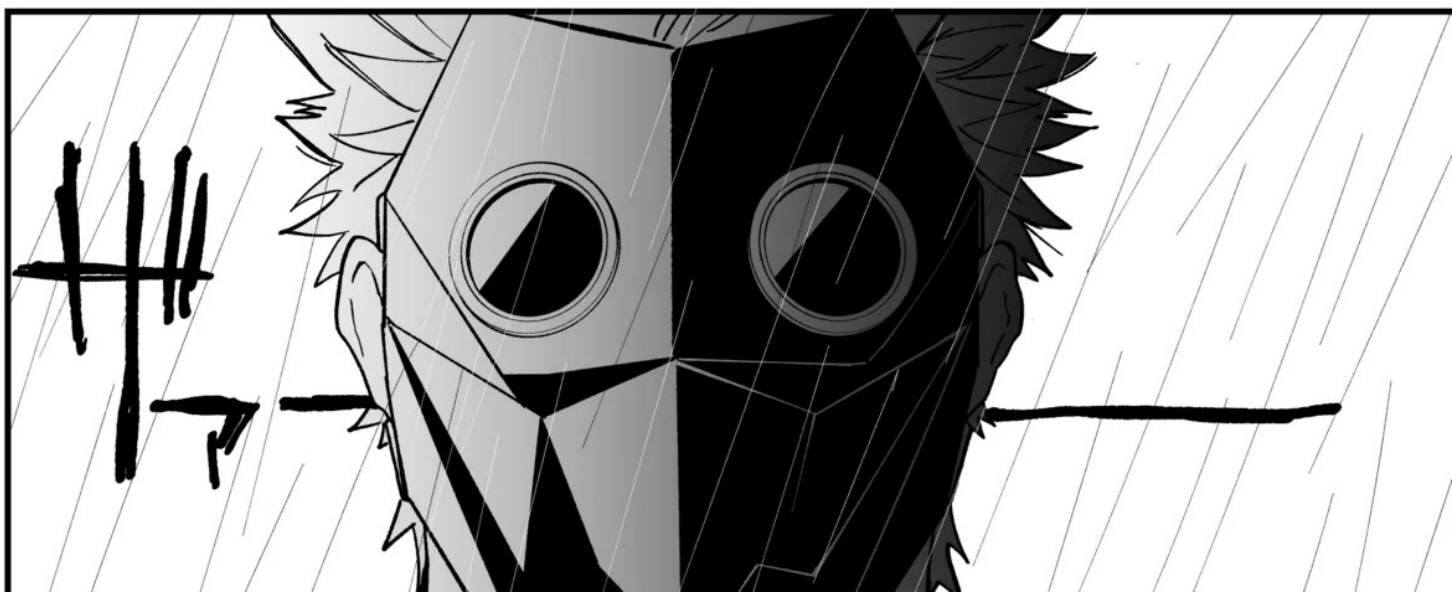
禁止事項

18歳未満の購入・閲覧・所持
無断転載・複製・複写



第1話







生きてんのか？

まったく
なんなんだよ
急に降ってきやがって



探せ！

こっちに
落ちたぞ！



悪いが
もう診療時間は
終わってるんでね

厄介ごとは
ごめんだ



陽だまの竜、

HIDAMARI NO
RYUU,

夕暮れの鴉

YUGURE NO
KARASU



.....

ヒバナ

もう逃げ場はねえぞ
観念しな

逃げな
コラッ

いたば

やだっ!
また血採る気
だろ!

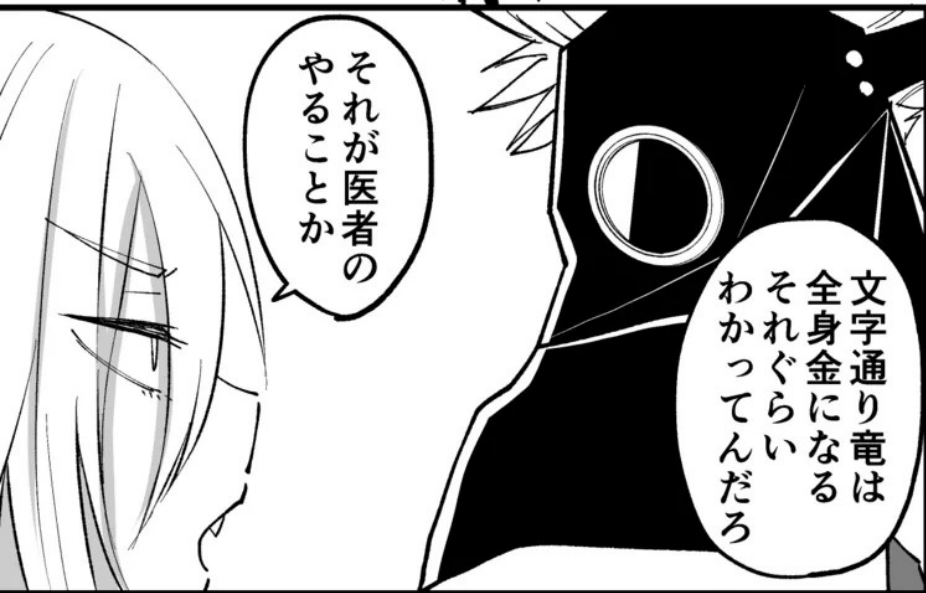
いたば

カッ

やだっ！
また血採る気
だろ！

血でも何でも売って
きっちり治療費払うって
契約だろ

血なら今までいっぱい
採っただろ！
毎回毎回針刺される身にも
なれよ！





先生に助けて
もらったことは
感謝してるんだ

本当だよ

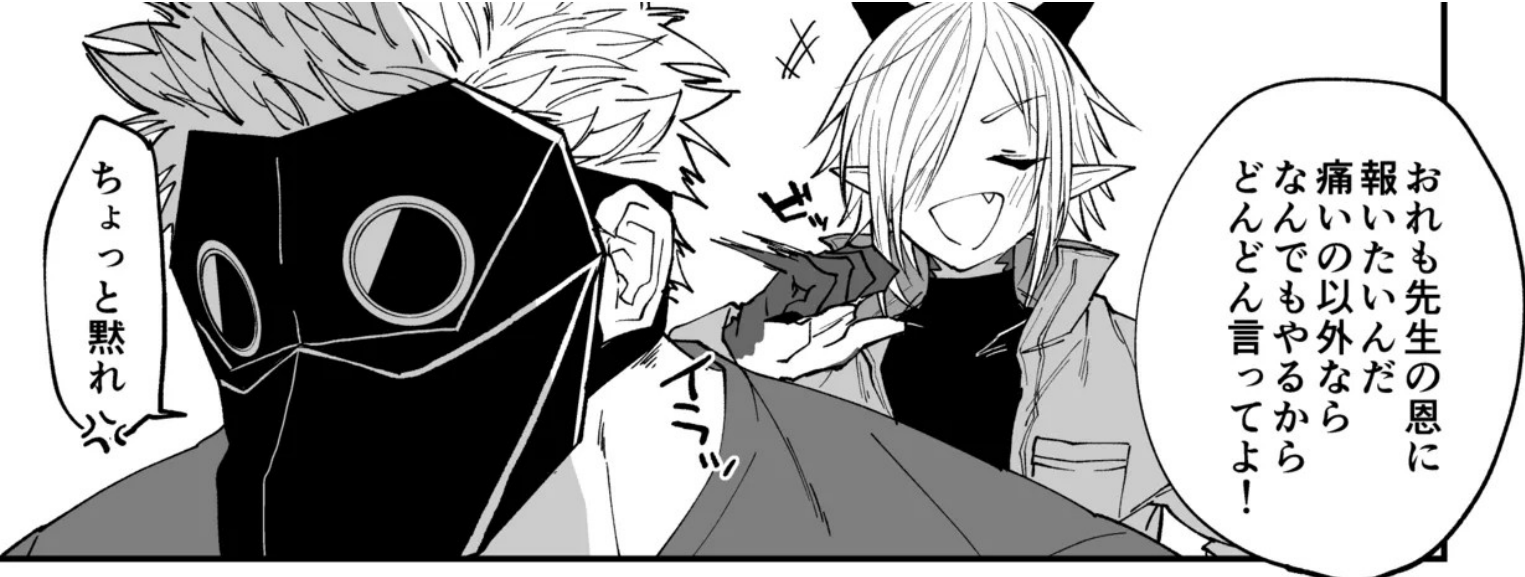
だからお金だって
ちゃんと…



わかった
わかった

他の手を考えりや
いいんだろ

先生って
たまに良い人
だよな！

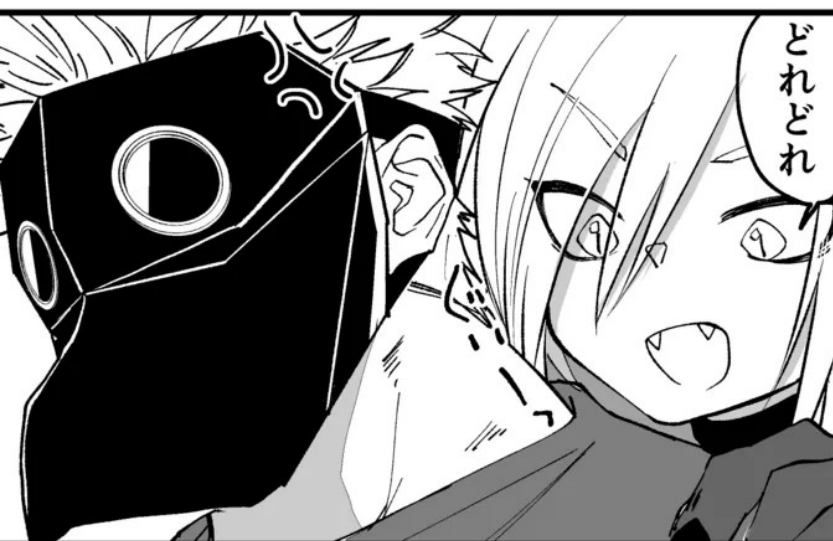


おれも先生の恩に
報いたいんだ
痛い以外のなら
なんでもやるから
どんどん言ってよ!

ちよっと黙れ



おっ
じゃあ
これならどうだ

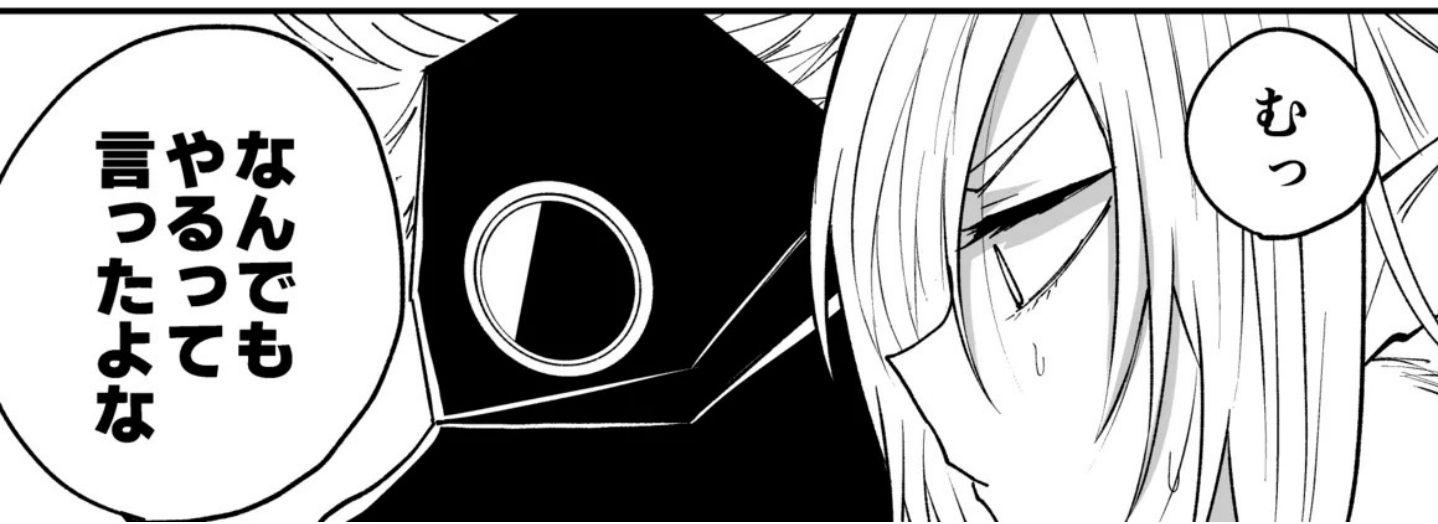


どれどれ



まあ確かに血液は頻繁に
採れねえし最近では単価も
下がってるみたいだしなあ

でしょでしょ



むっ

なんでも
やるって
言ったよな

確かになんでもやるって言ったけどさあ

竜の精液は
精力増強
膣分泌液は
催淫効果

上流階級のジジイ共に
大人気で高値で取引
されてるみたいだぞ

不服そうだな

脚
これ何

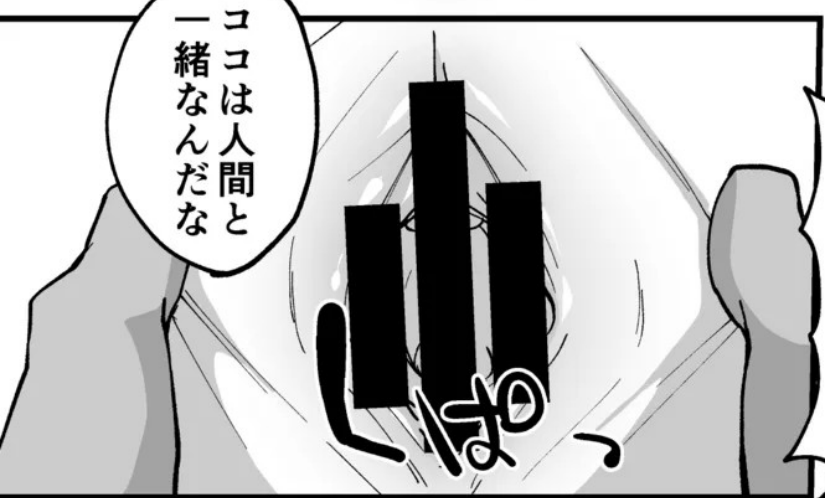
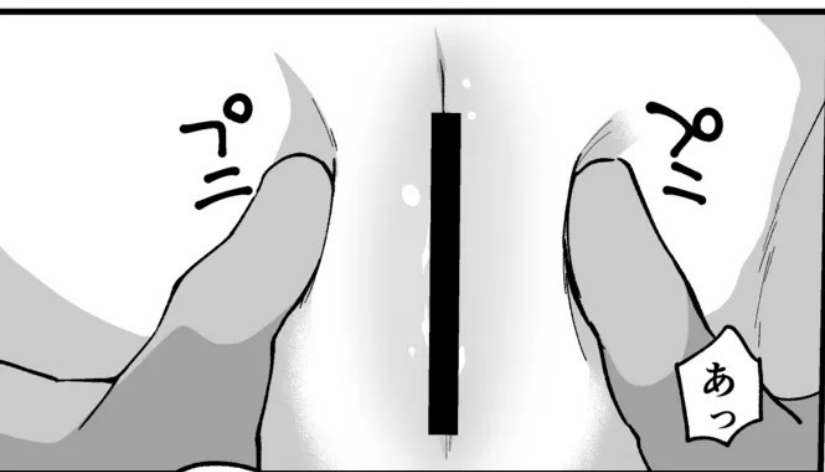
作業を円滑に
進めるためだ

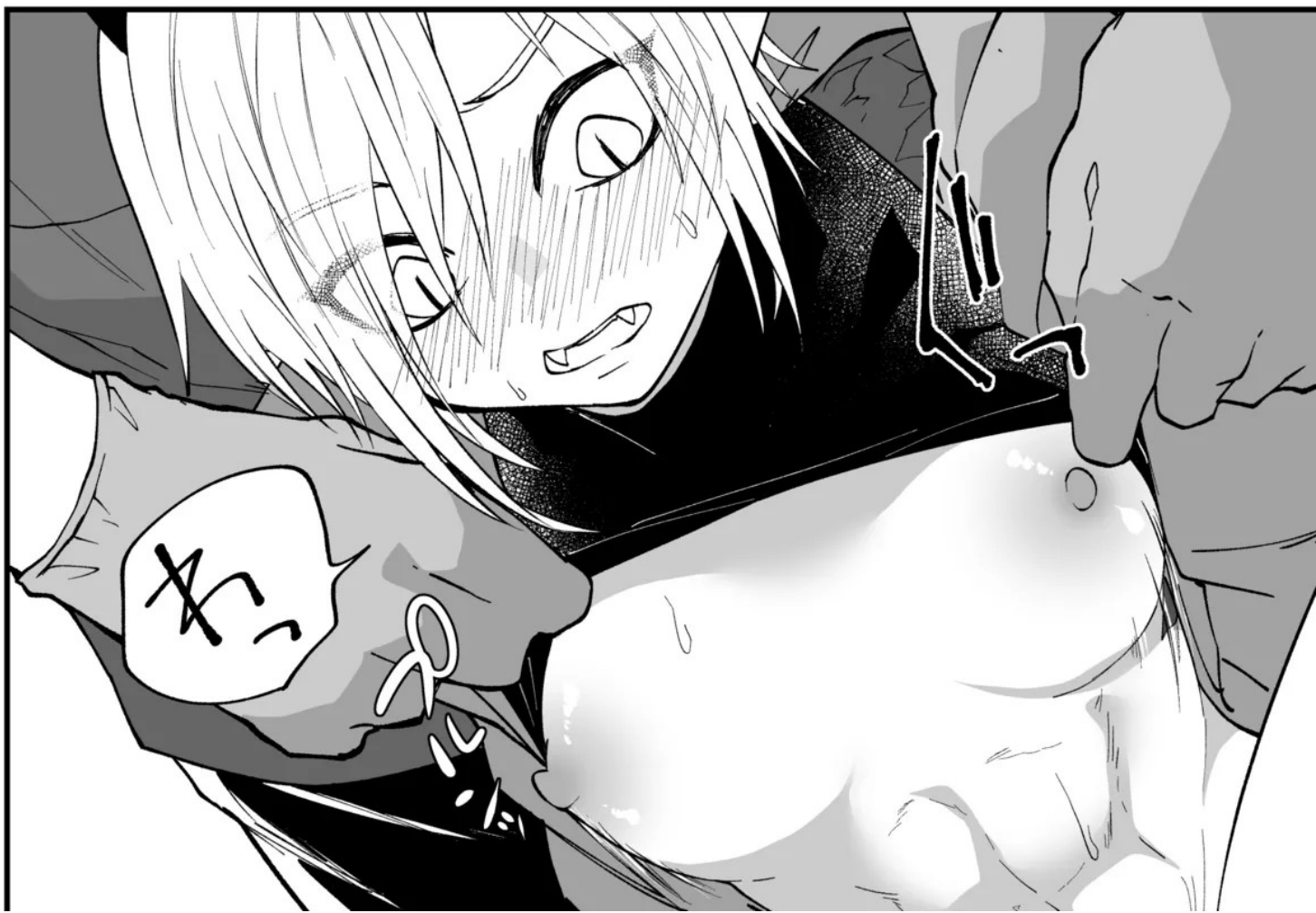
自分じゃうまく
できねえって
泣きついてきたから
手伝ってやろう
ってのに文句言うなよ

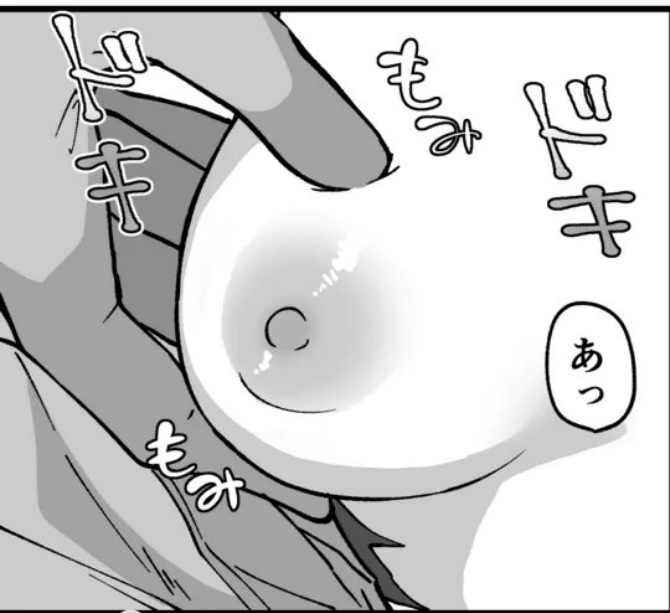
泣いてない！

手伝うからには
俺に従って
もらうからな

ぐっ









せんせ…？

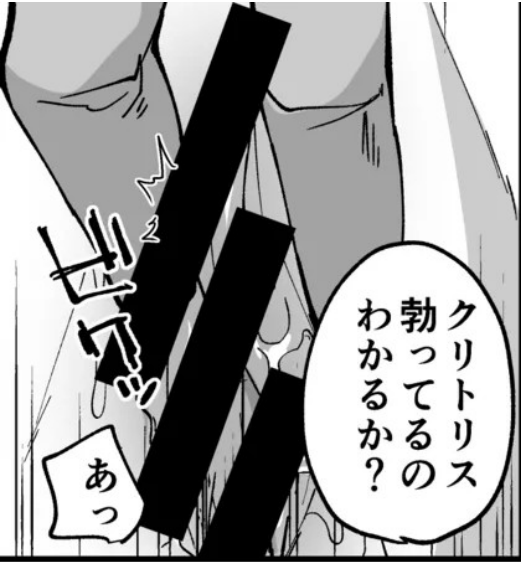
そろそろ
いけんだろ

わっ

お前
感じやすいのな

違っ!!





クリトリス
勃ってるの
わかるか？

あっ

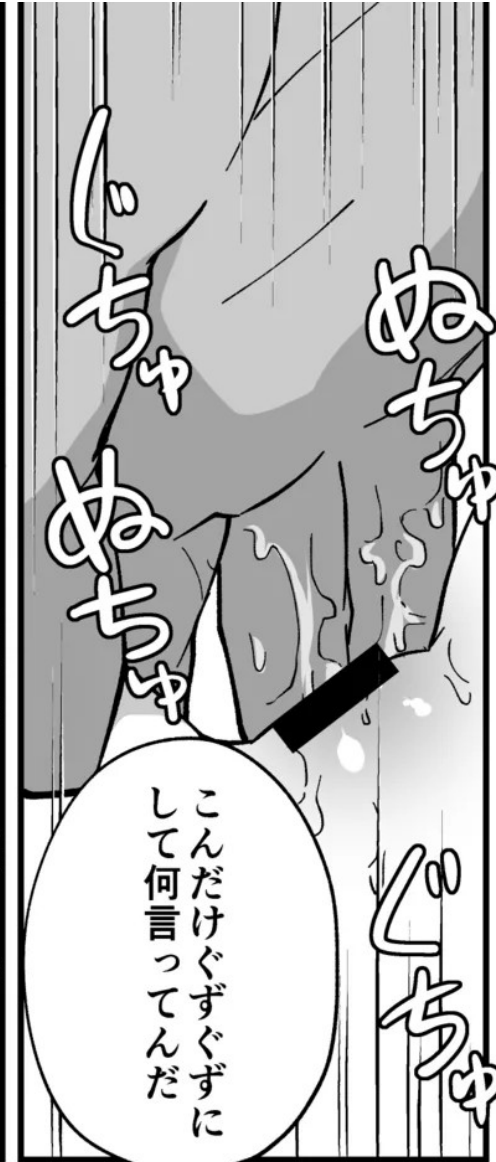


あ

あっ

カ
ア
ア

ここだぞ



ぬちゅ
ぬちゅ
ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

こんだけぐずぐずにして何言ってるんだ

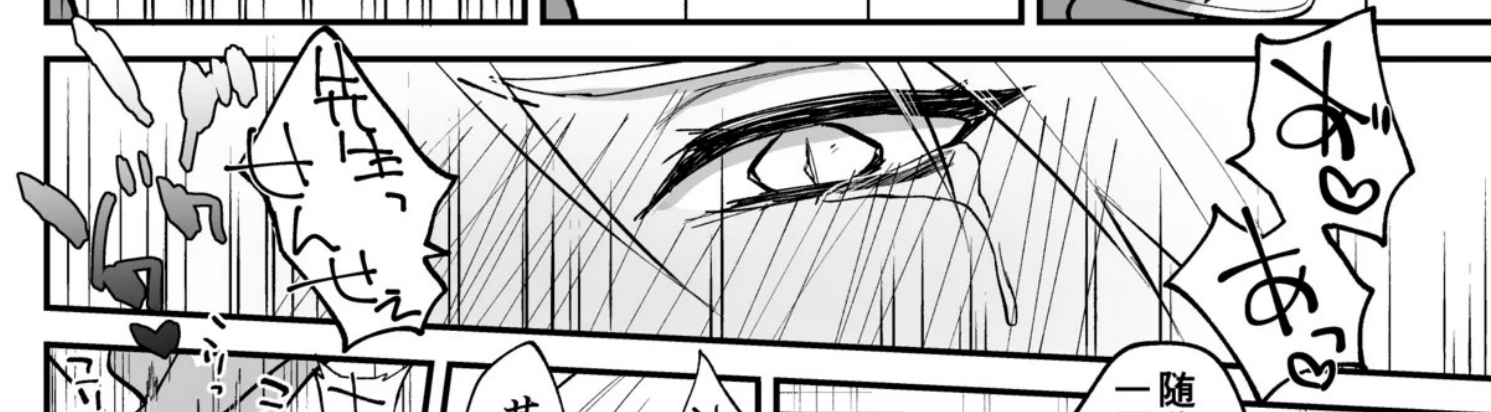
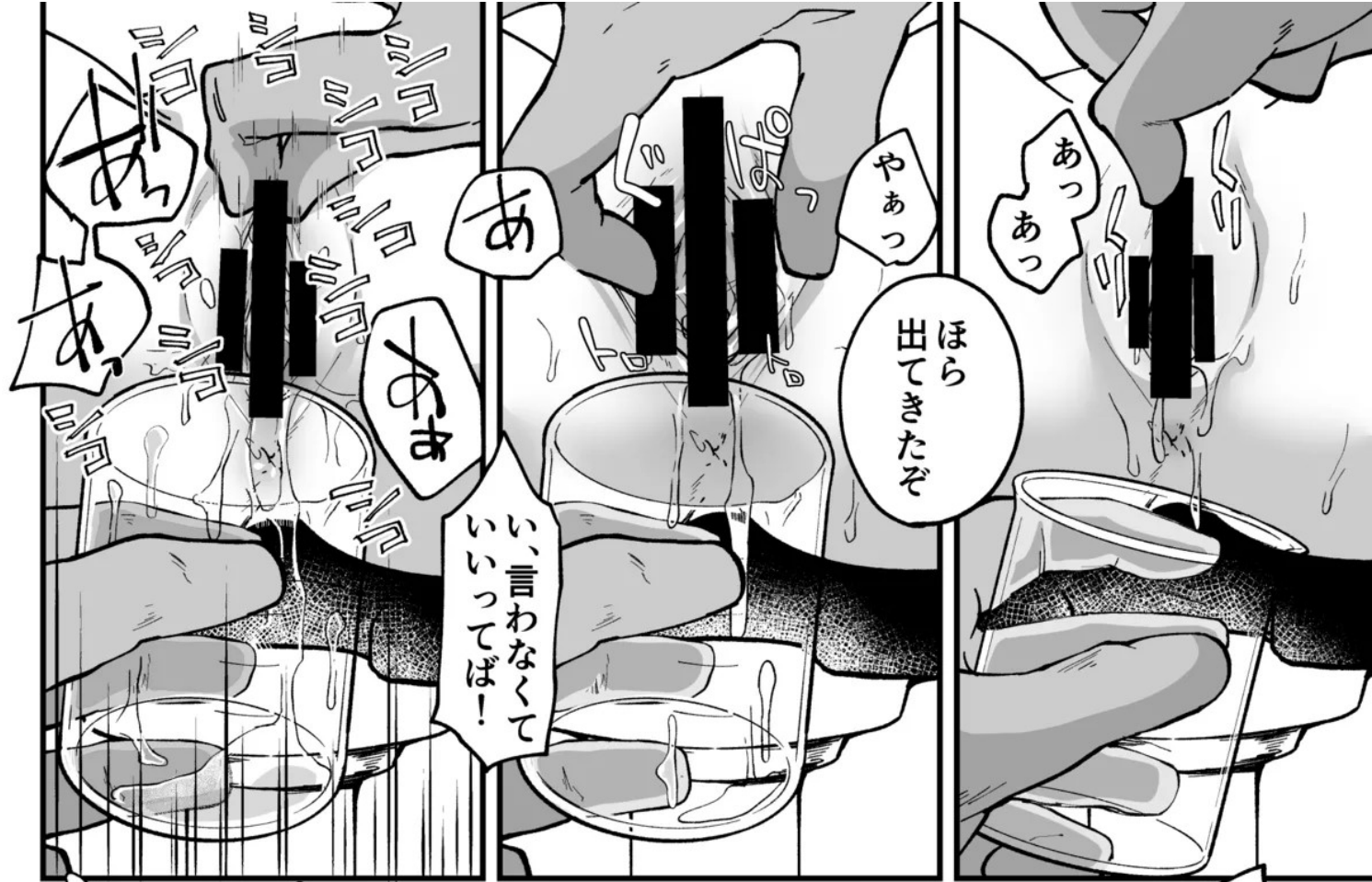


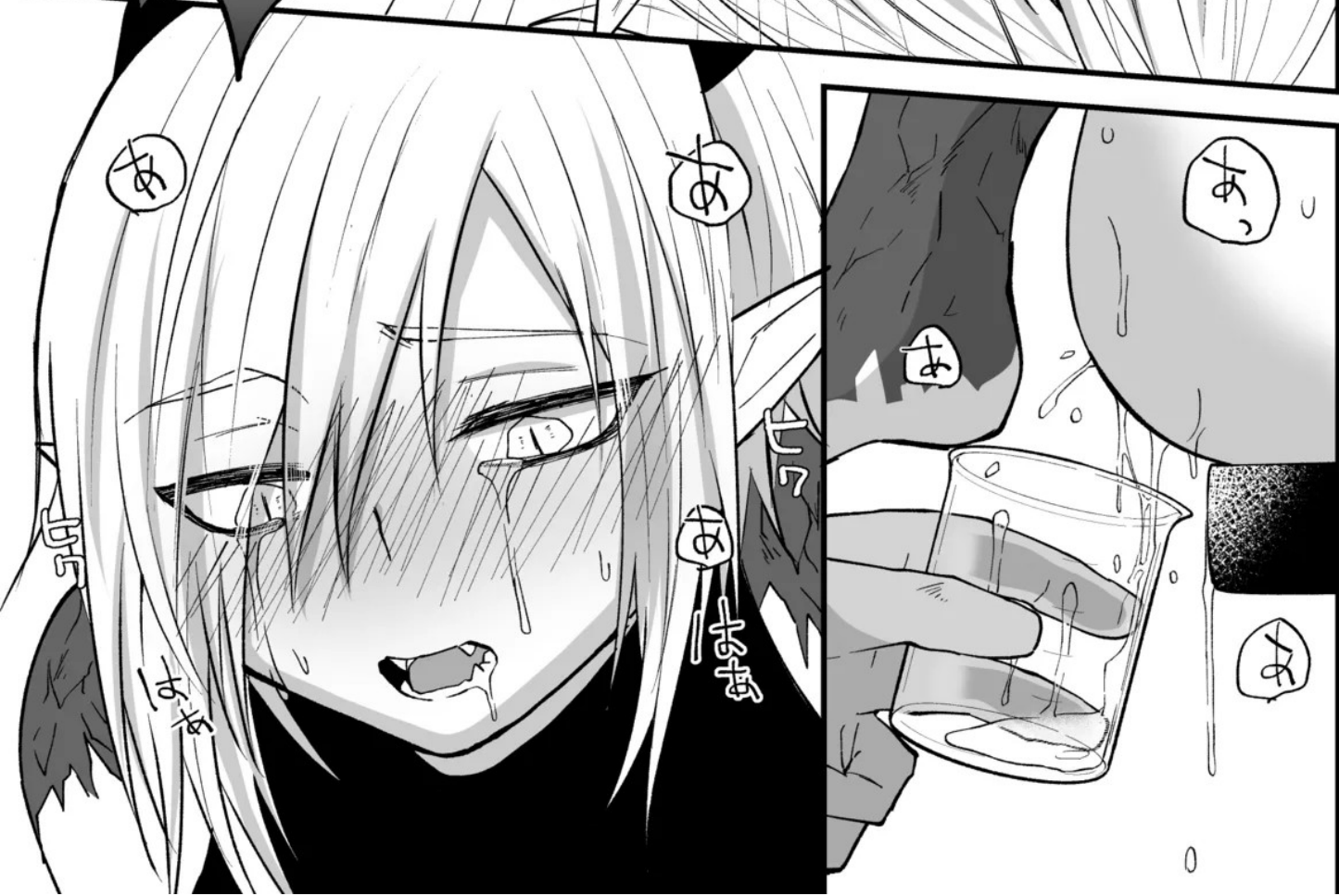
しっかり
足開いてろよ

そこダメだってば！

先生ッ！

ア
ア
ア





ちよつと
休ませ…

悪いが
休んでる暇は
ねえぞ

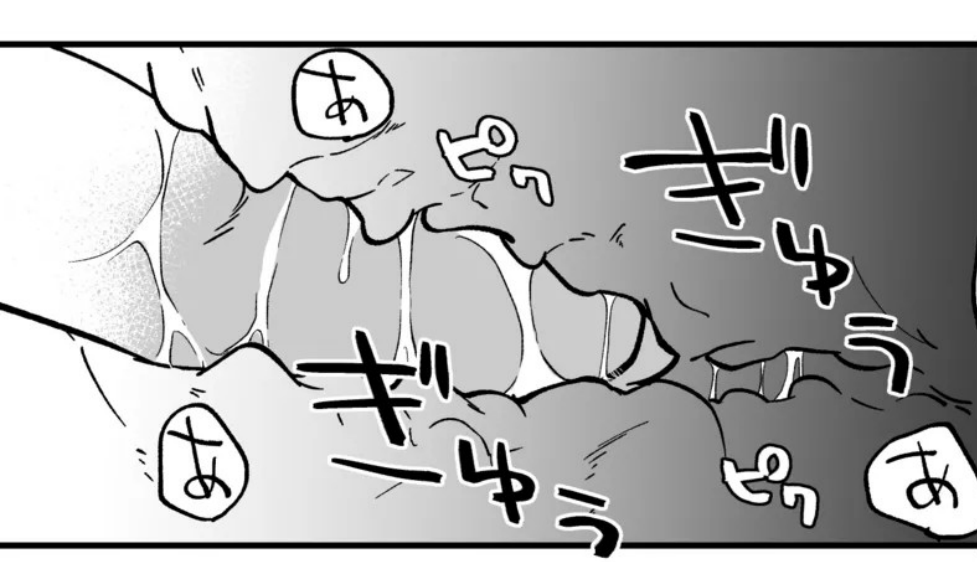
こういう事は
続けてやらねえとな

へ？

指いれるぞ

い、今だめ…っ
あ、あ





先生の指…中に…



中ひくついてんな



だいぶ溜まってきたが
もうちょっと頑張ってくれよ

頑張ってるって…



掻き出してるだけだ

せ、先生が変な風に
指動かすから…っ







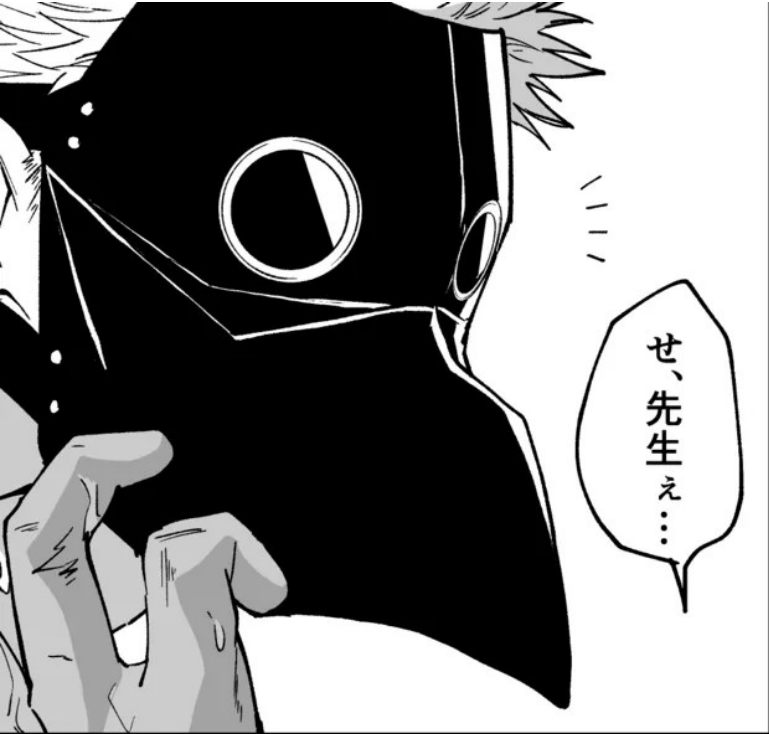


大丈夫か？
人化が
解けかかってんぞ

先生…っ
やだ…見ない…でっ



いっ!?

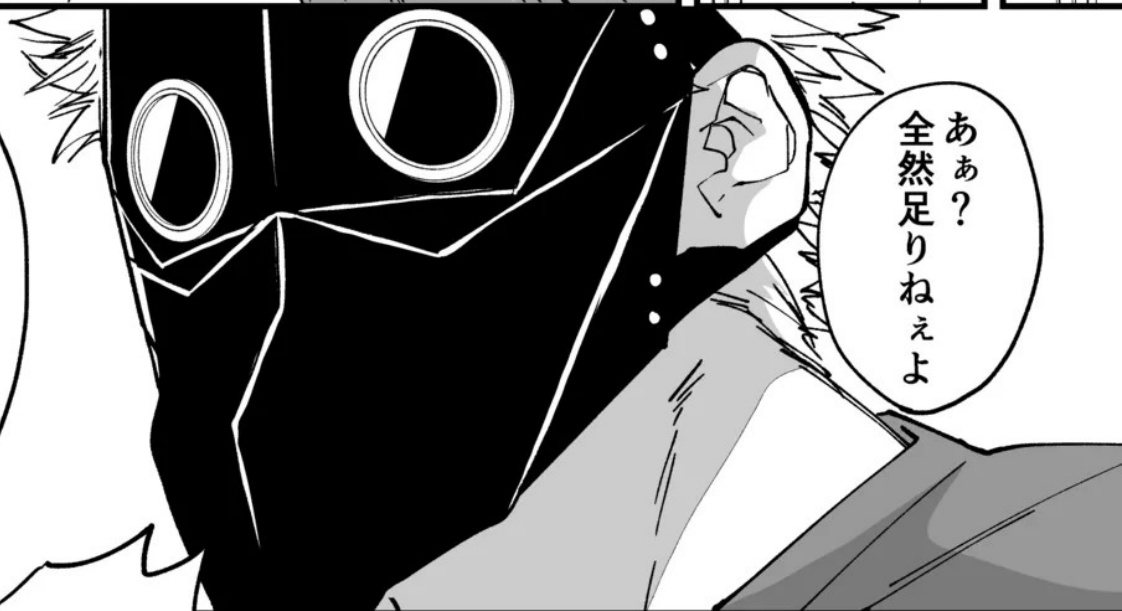




こんだけあれば
充分だろ！



1時間後



ああ？
全然足りねえよ

お前保険証持って
なかっただろ
医療費全額負担だから
馬鹿高えんだぞ



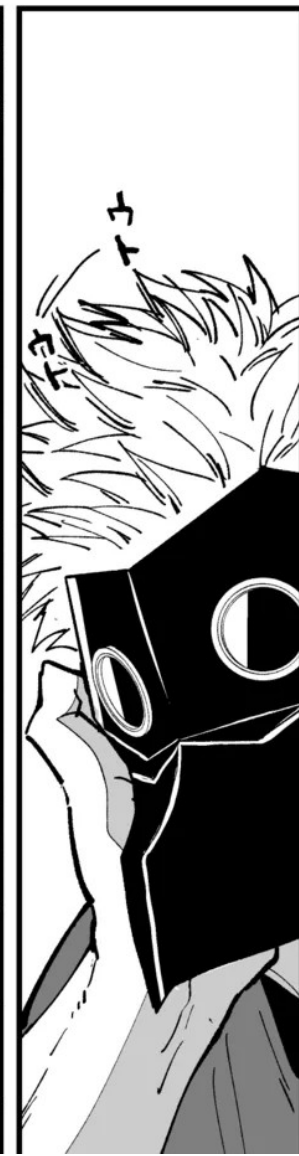
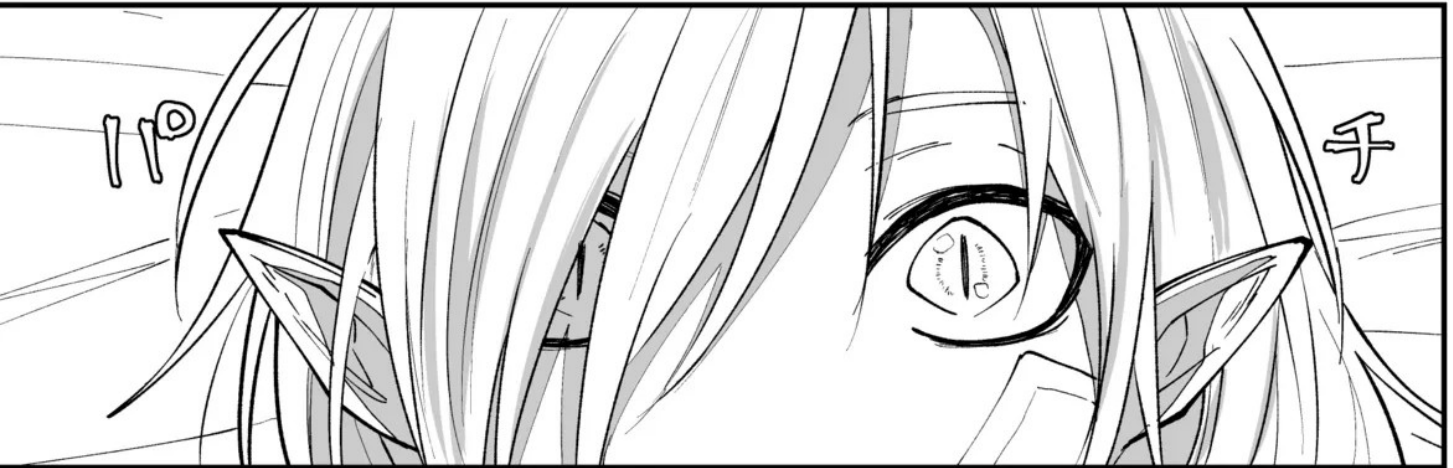
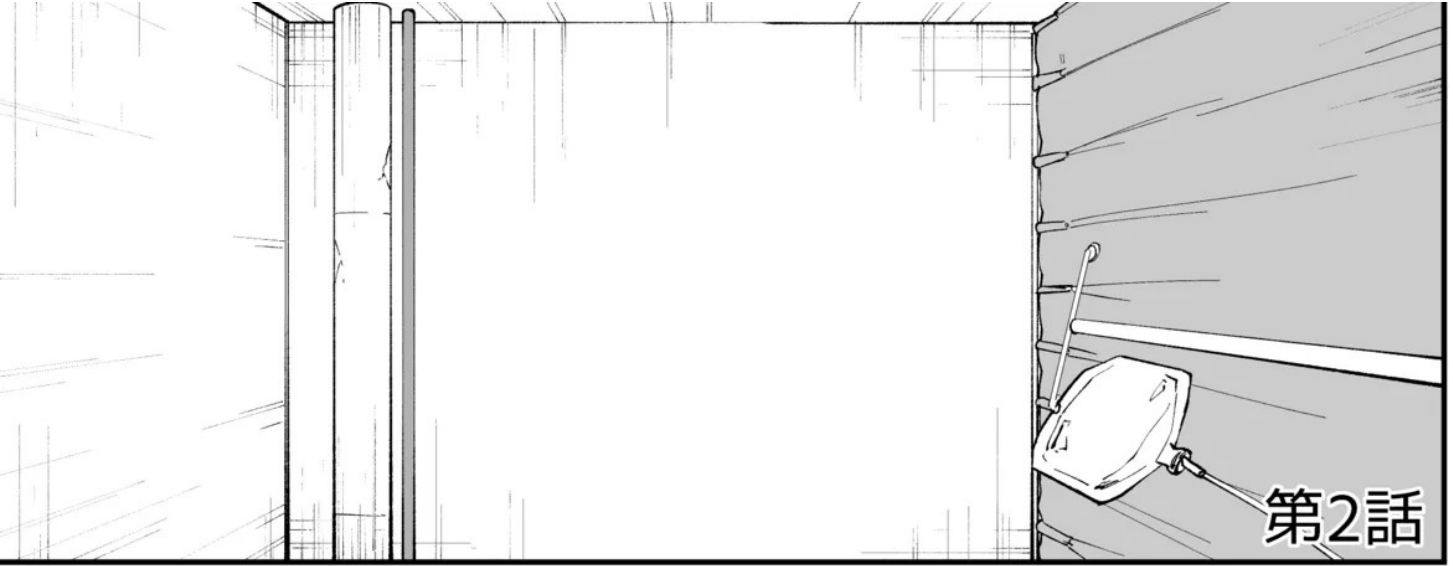
いや
人間も竜も
一緒だが？

え

第1話
終わり



まだまだ
頑張ってくれよな





なんだ
なんだ
!?



だってコレ
嫌いなんだもん

嫌いなんだもん
じゃねえよっ



おまつ：
何やってんだ！



ここびょーいん？

あんたが
助けてくれたの？



余計な仕事
増やすなよな



ああ？
俺は医者だぞ

目の前に死にかけてる
奴がいたら人間だろうが
竜だろうが助けるに
決まってるだろう



だったら
なんで助けたんだよ
人間のくせに



まあこっちの
事情だよ
竜には少々恩が
あるもんでね

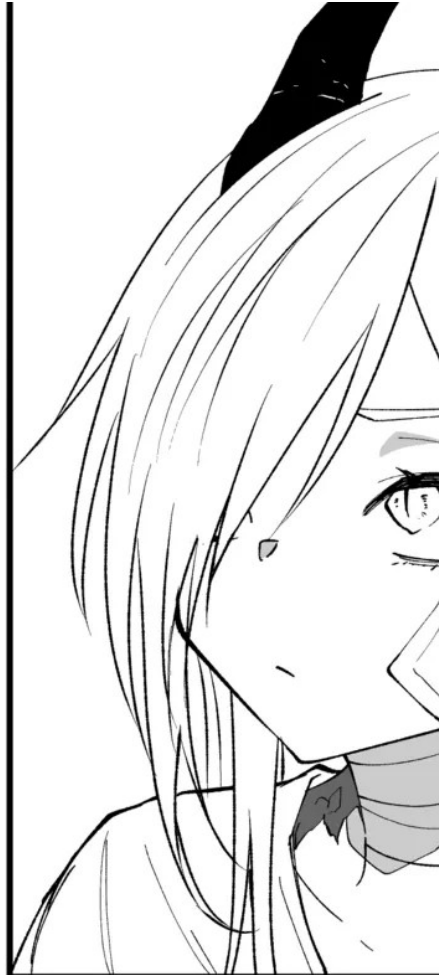


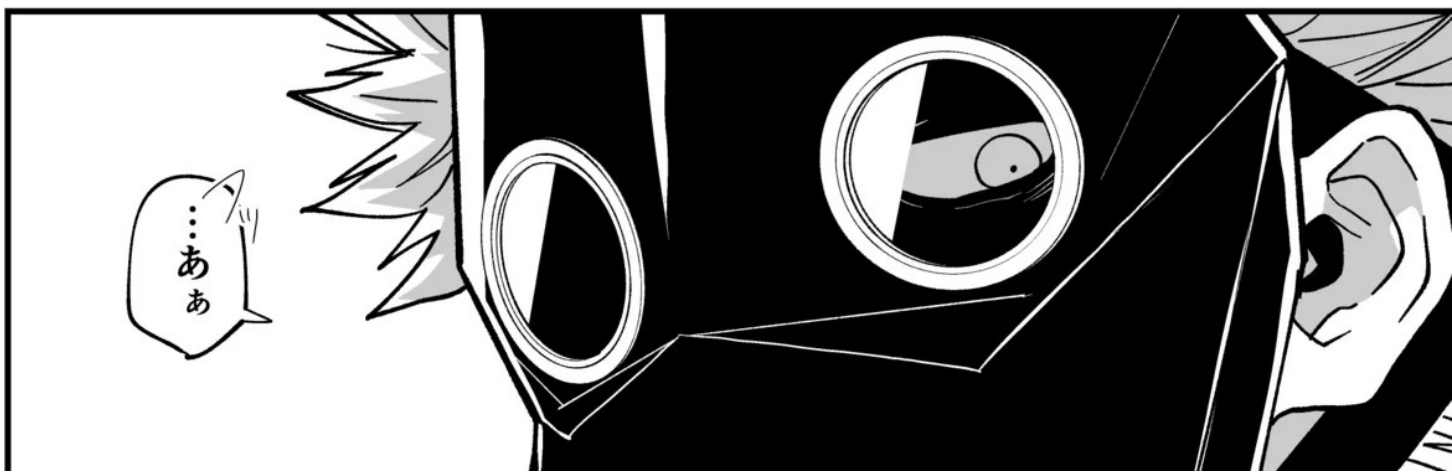
充分だろ

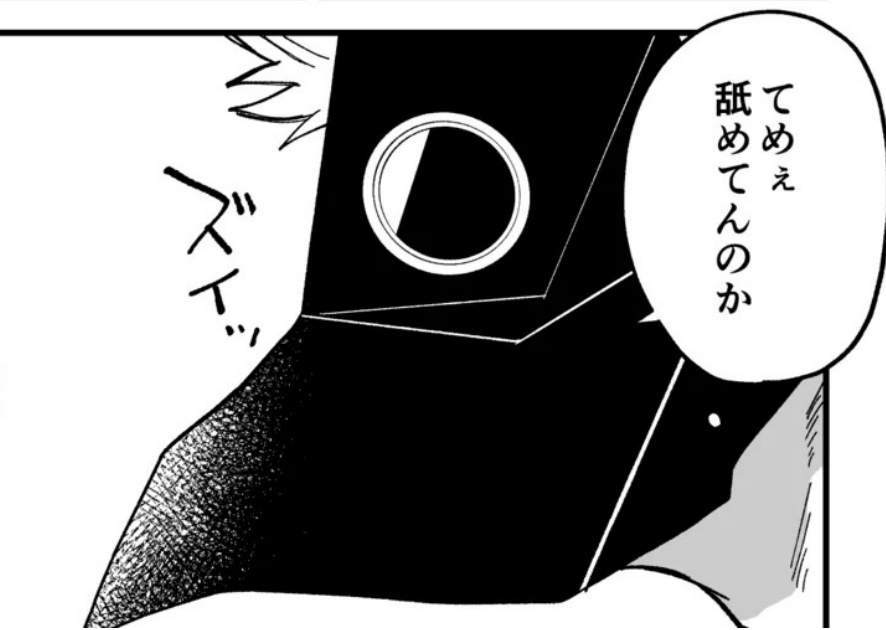
恩？
それだけ？

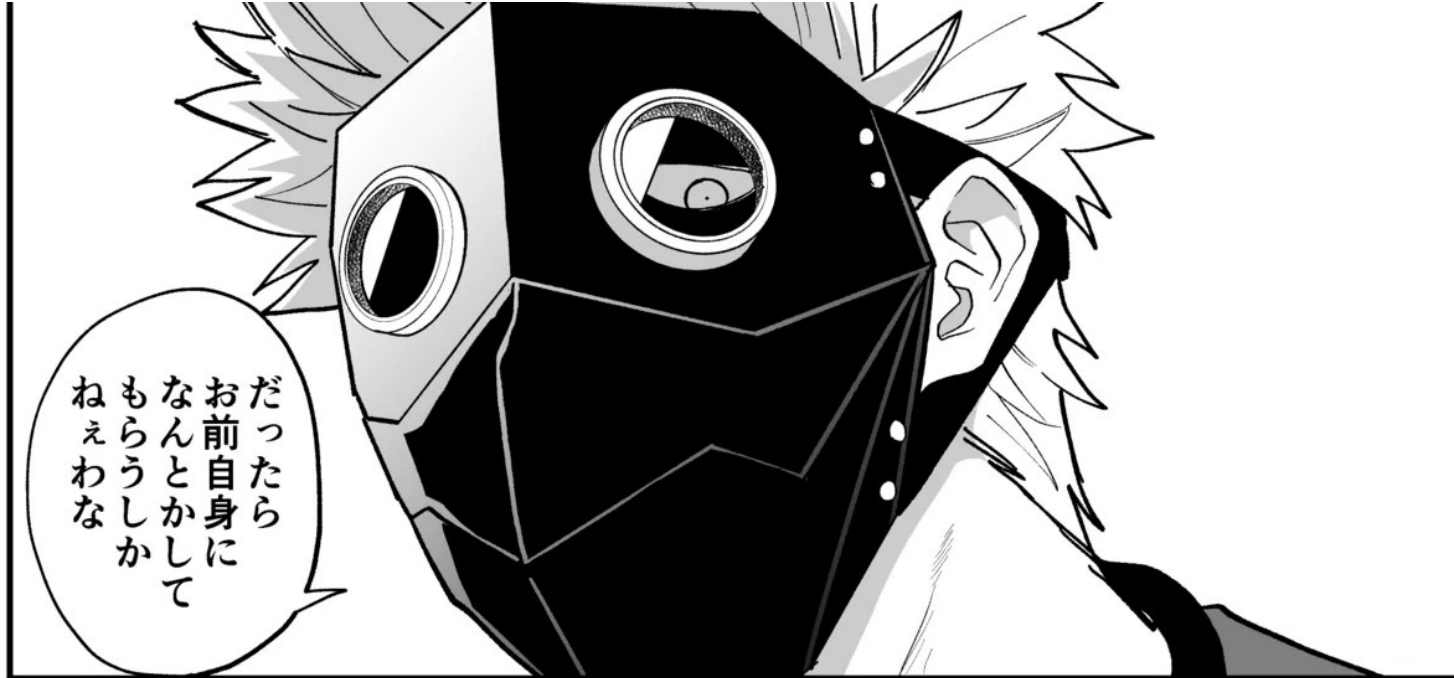
…覚えてる
じゃねえか

一回見捨て
ようとしてた









だったら
お前自身に
なんとかして
もらうしか
ねえわな



その身体でよ



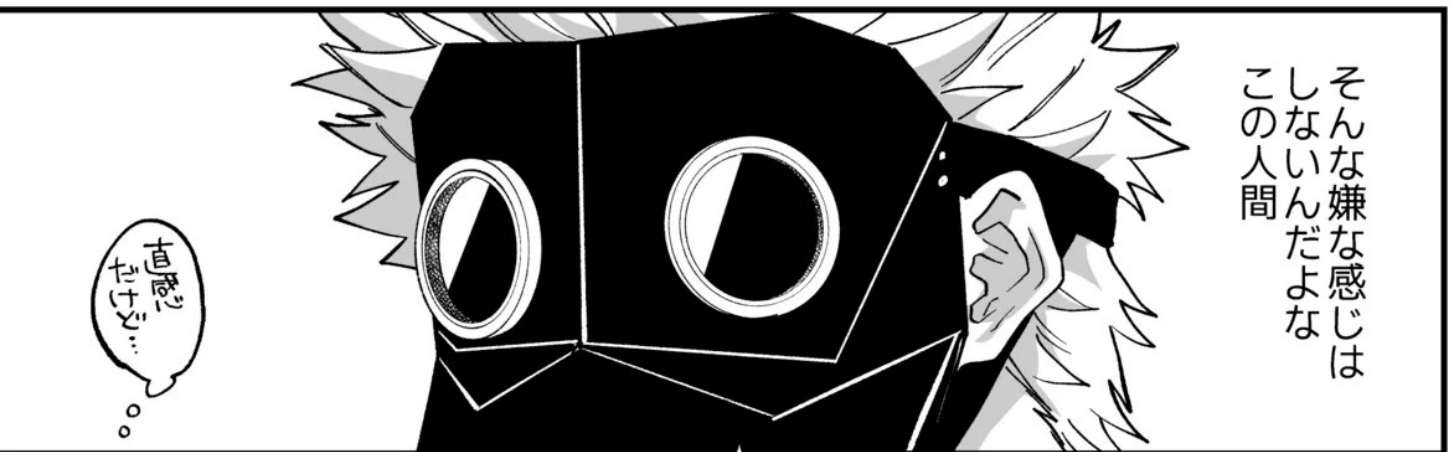
は
!?

何考えてんだ
スケベっ!

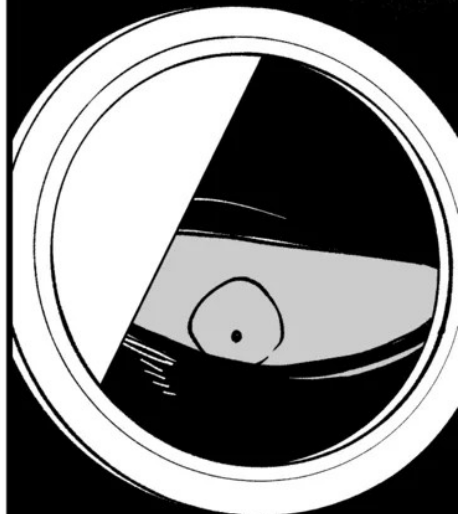
オイ
変な勘違い
してんじや
ねえよ



お前の血を
寄こしな



だったら答えは
一つだろうが



わかったよ！
でもしよーがなく
なんだからな！



その代わり！

！



俺をしばらく
匿ってくれ
追われてるんだ



てめえ条件出せる
立場か？

いやそれよりも
やっぱ警察…

別に悪いことは
してねーよ！

無理言ってるのは
わかってるよ！
でも頼む！

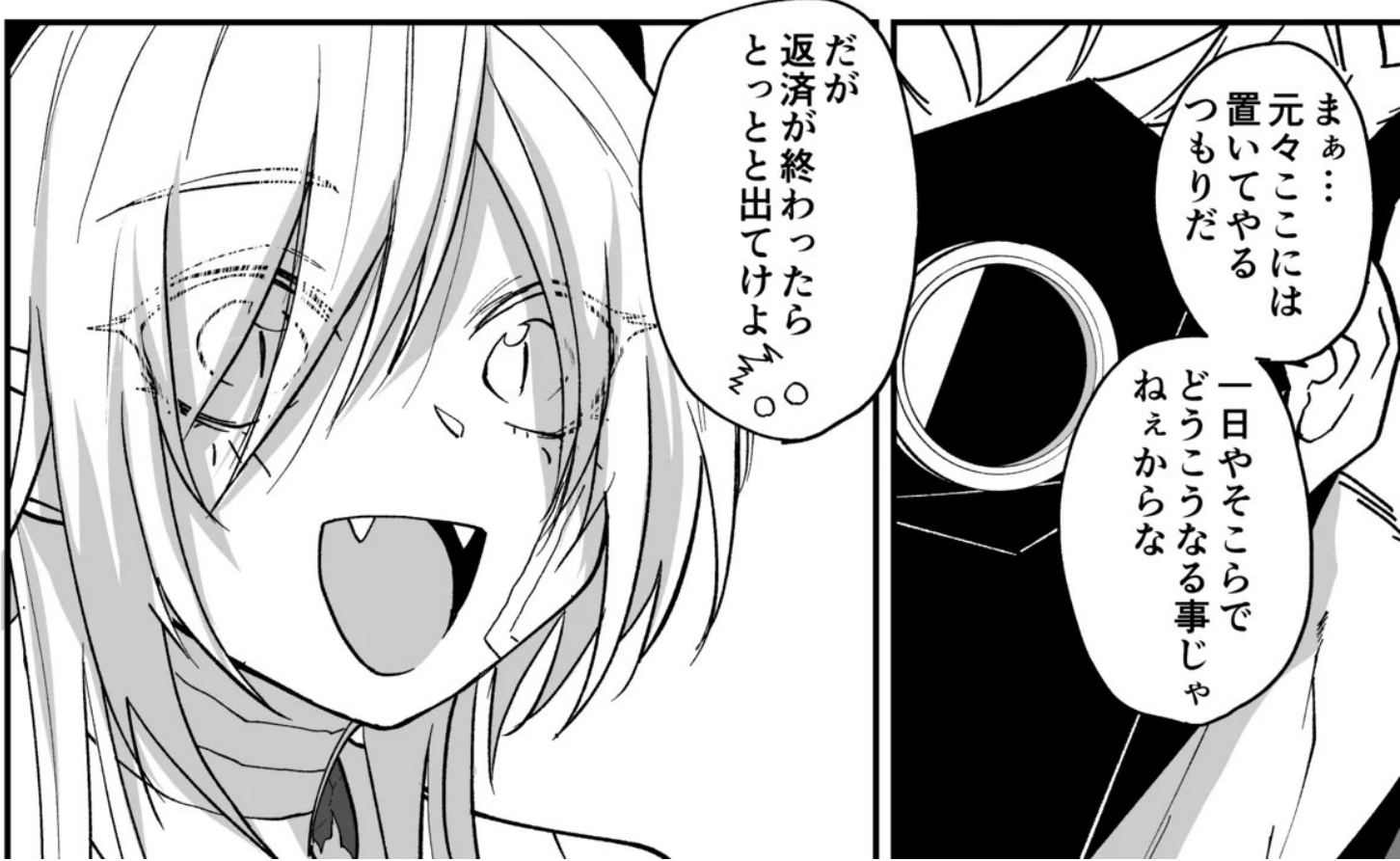
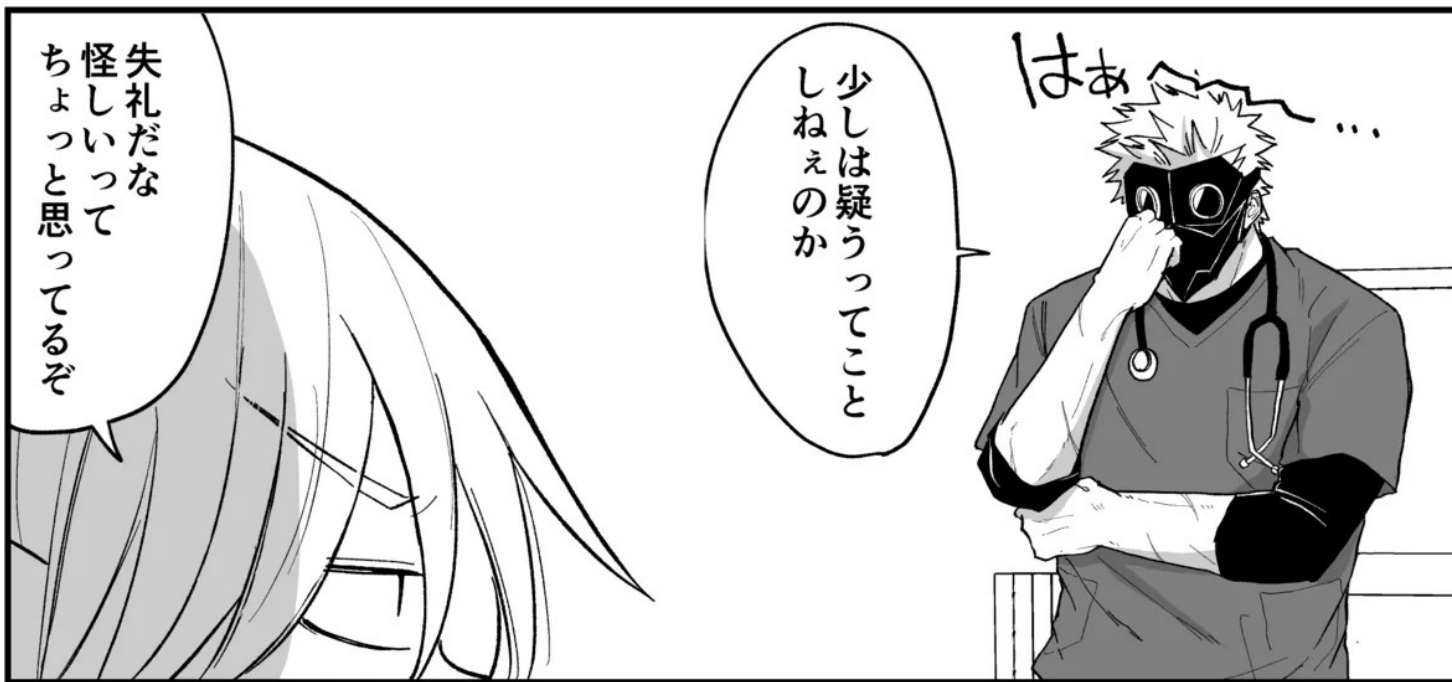
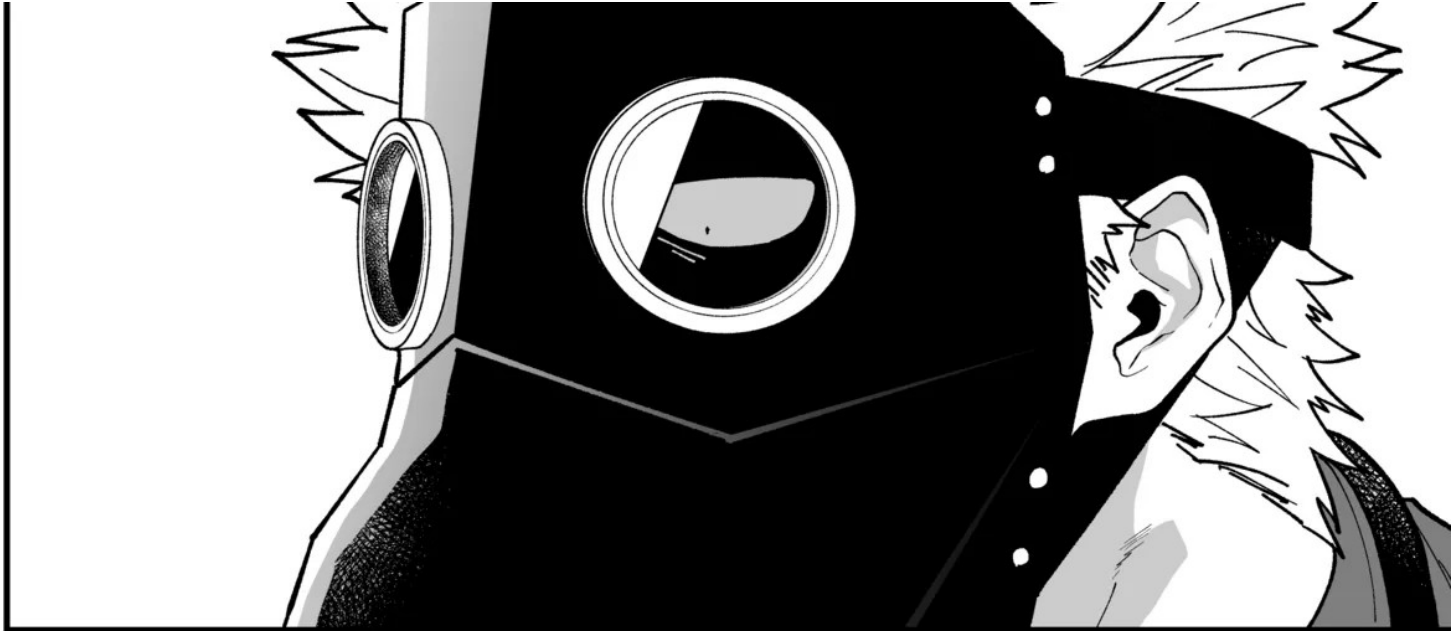
お前よく
会ったばかりの
人間にんなこと
言えるな

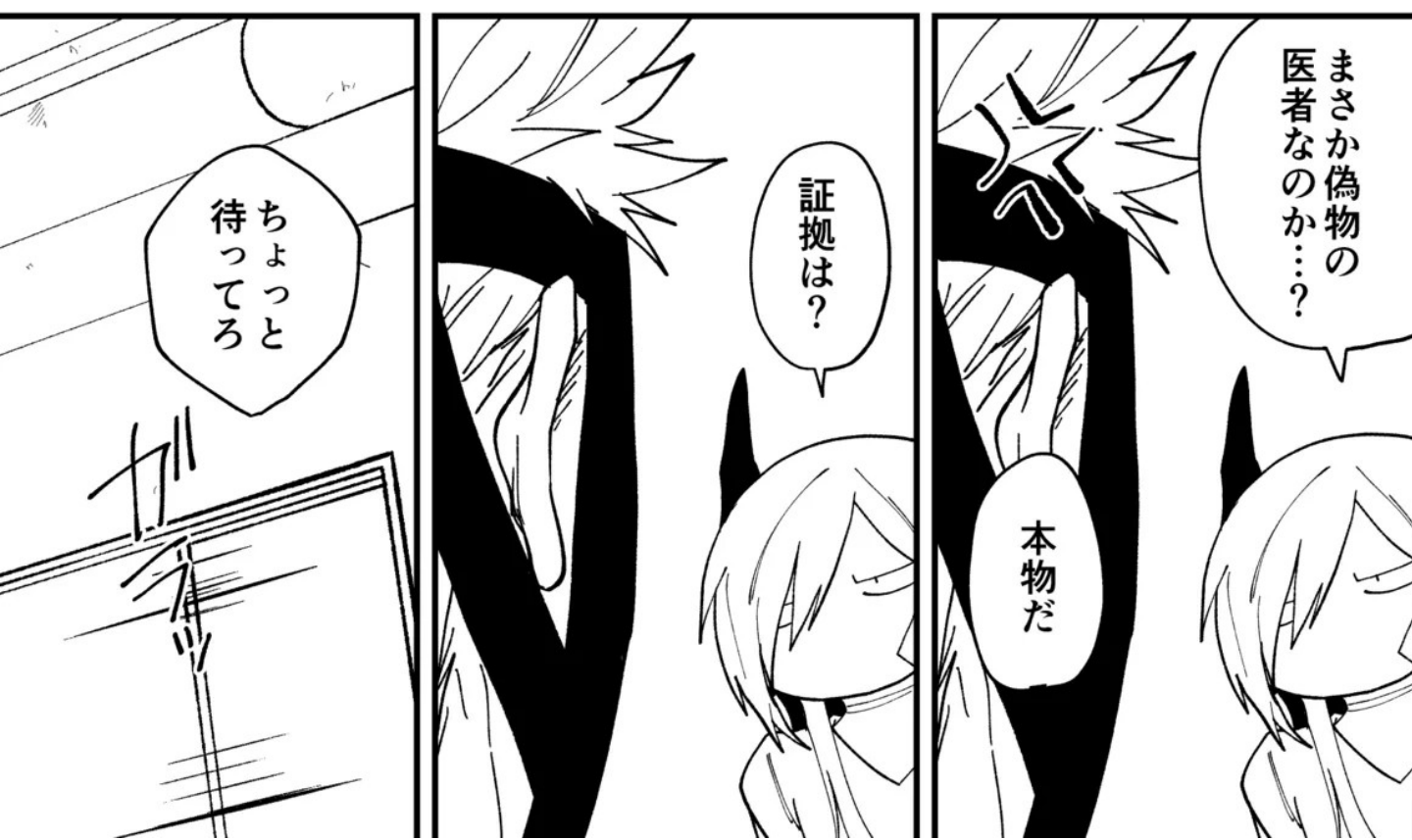
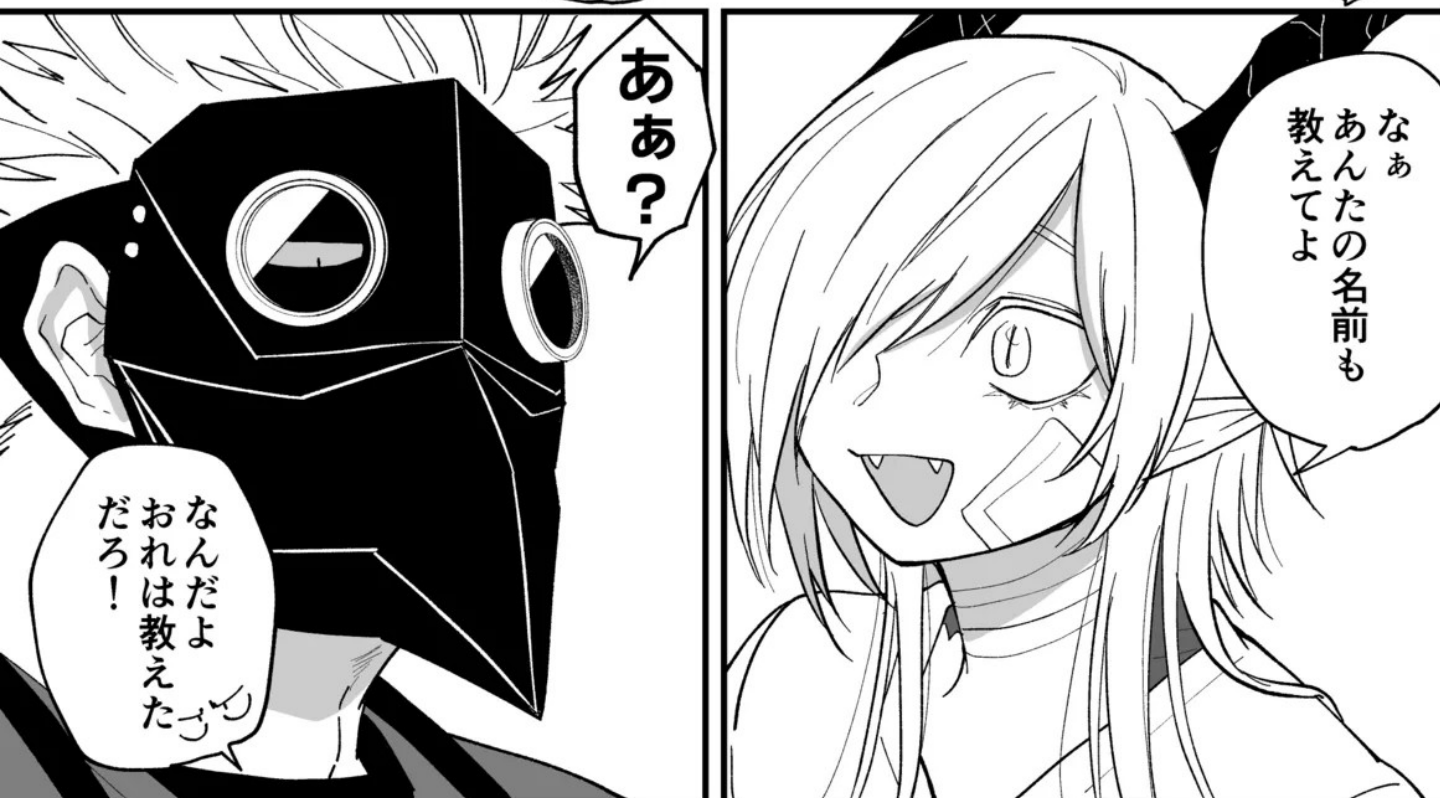
俺がてめえのこと
切り刻まねえ保障は
ねえんだぞ

そんなこと
する気があったら
とっくにしてる
だろ！

でもそうしなかった
ってことはあんたは
悪い人間じゃない

…と思う！







※この世界ではカード式



上に住んでんの？

ああ

一人で？

ああ

いつから
ここにいの？

…1年ぐらい
前から

第2.5話

ふーん

なんだよ

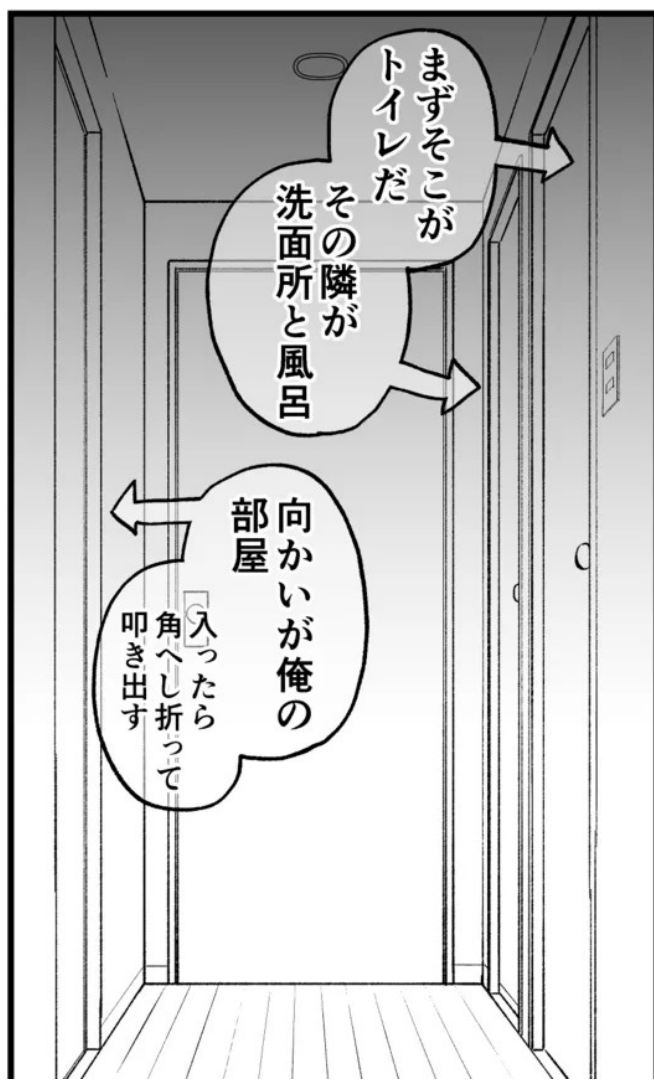
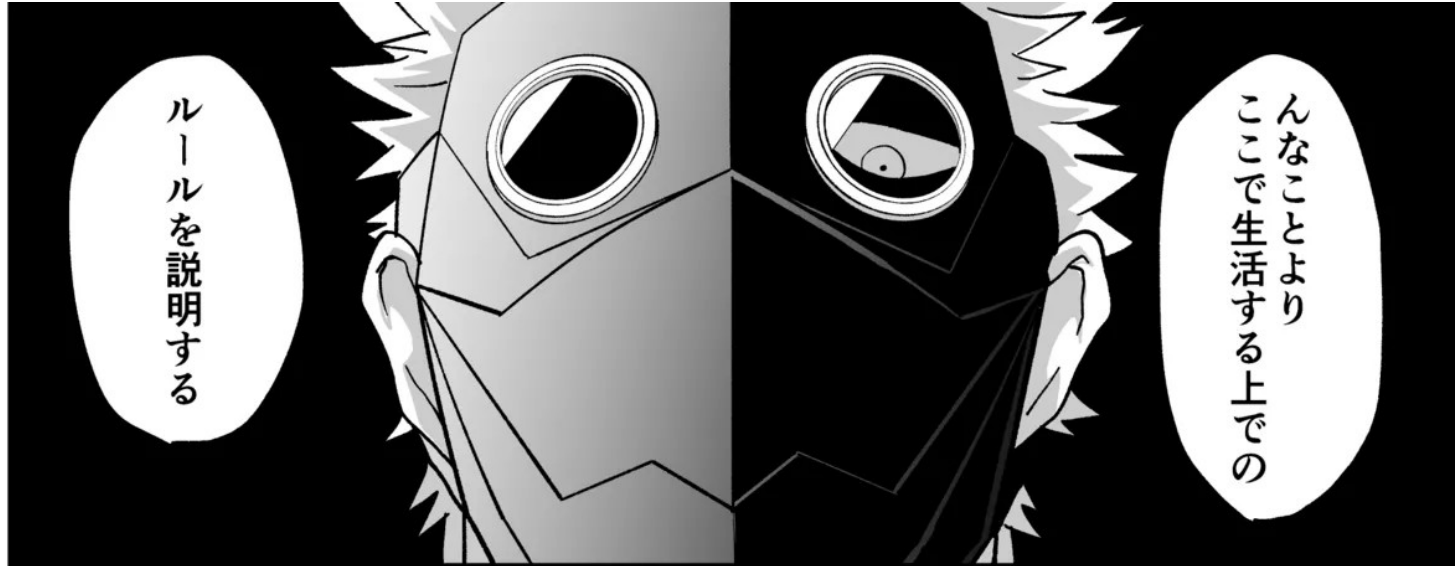
別にいゝ

殺風景な
部屋だなあ
何もない

本好きなの？

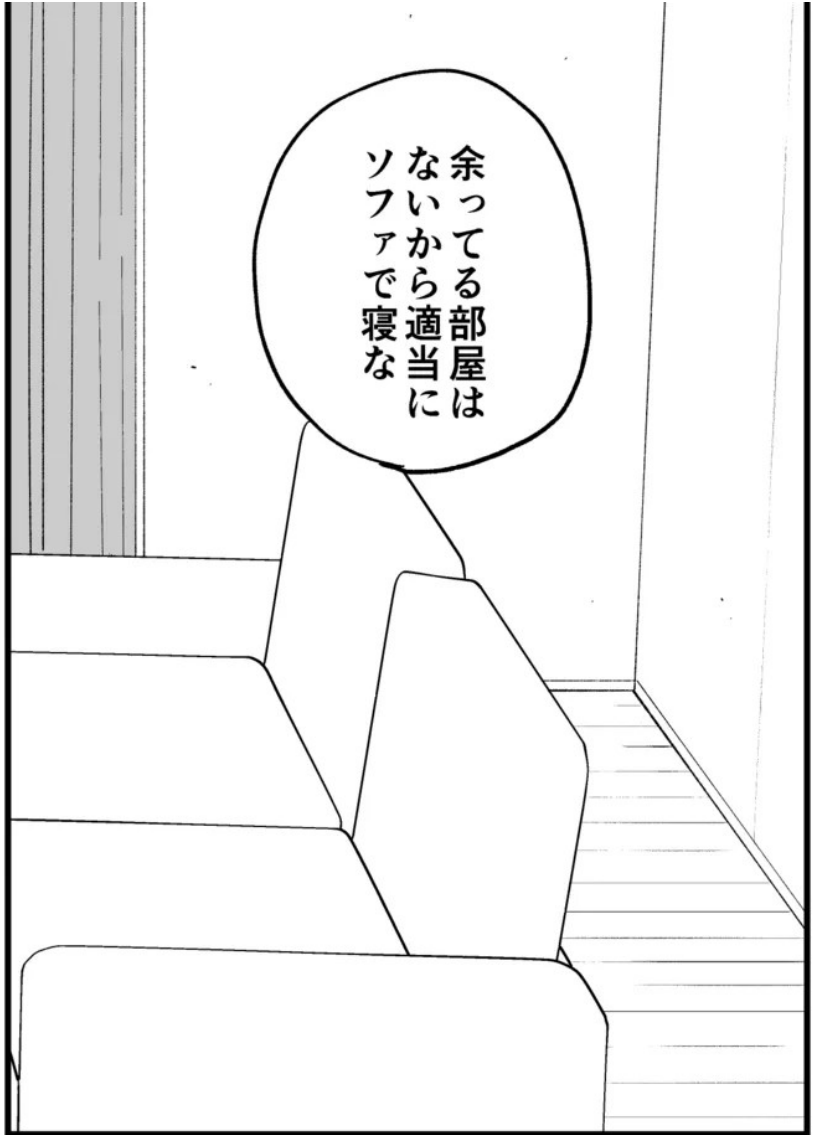
俺の事は
なんだって
いいだろ

……！





おれこっちで
いいよ



余ってる部屋は
ないから適当に
ソファで寝な

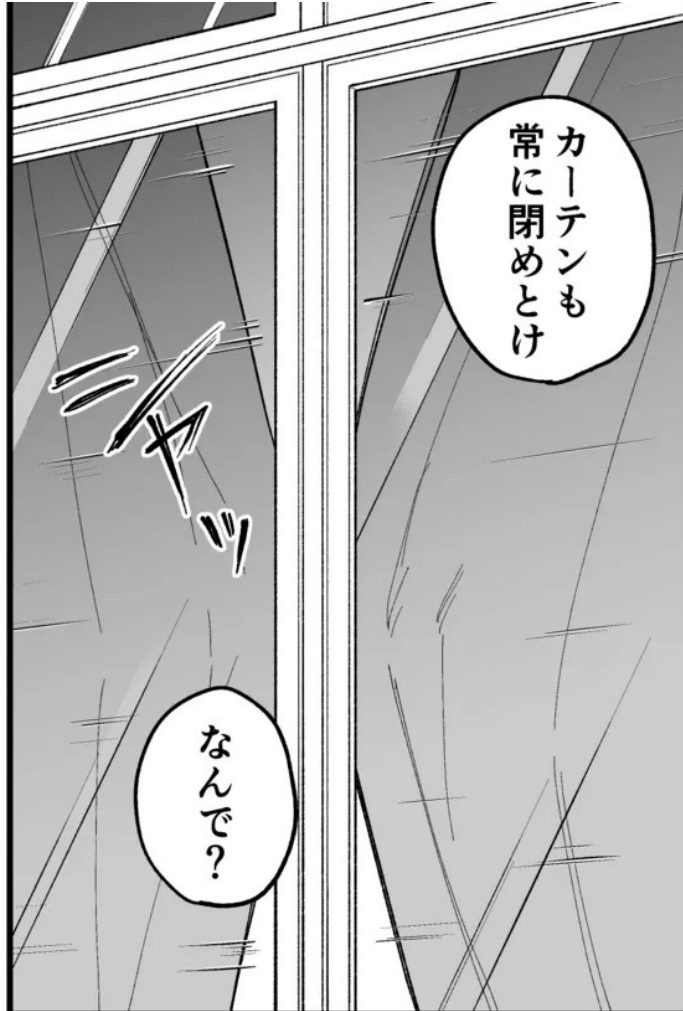


いや
ちよっと待て



狭いとこのほうが
落ち着くし

お前がそうしたい
ならいいけどよ

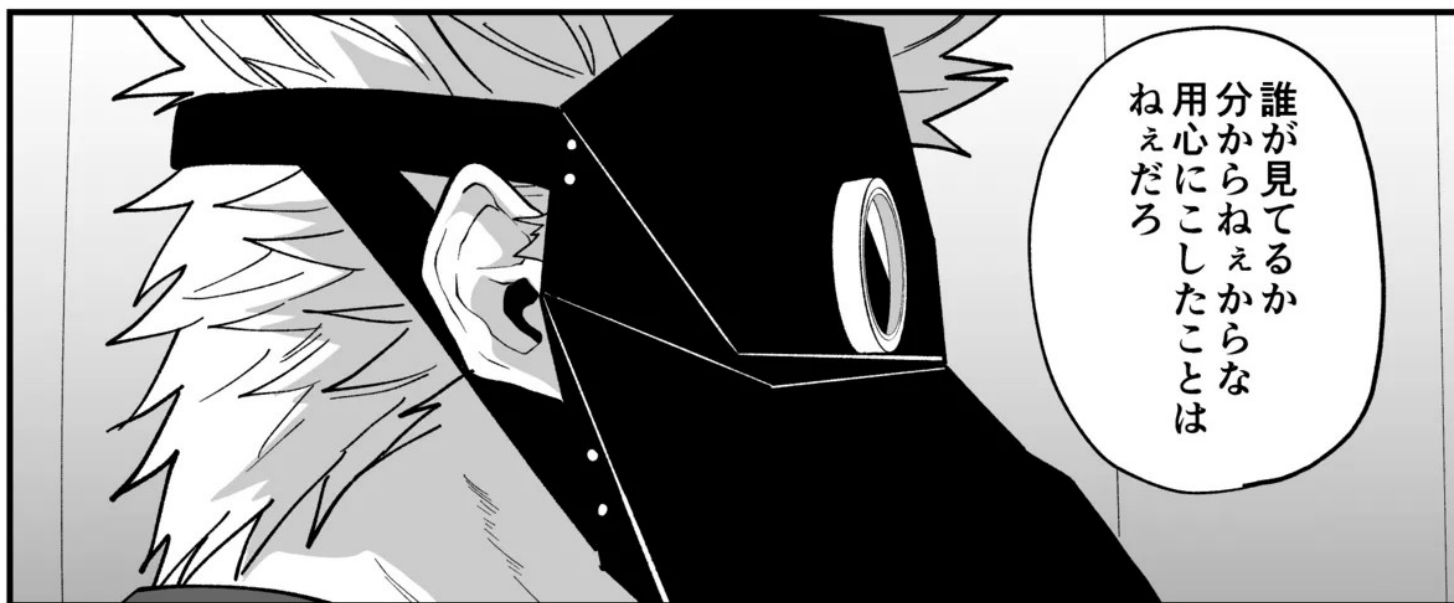


カーテンも
常に閉めとけ

なんで？



なるべく窓には
近づくな



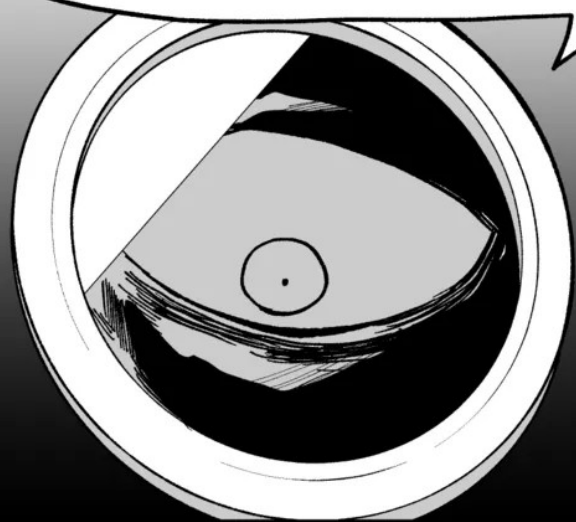
誰が見てるか
分からねえからな
用心にこしたことは
ねえだろ



だから
外出も禁止だ

え〜

いいか家の中の物は勝手に触るな勝手に物を食うな診療時間中は下に降りてくるな大きな声を出すな足音も立てるな何か必要な物があれば俺に言え食費も後でまとめて請求する朝は時間通り起きろ身の回りの世話も自分でしろここにいます以上自堕落な生活は許さん全額返済し終わったらとつと出て行ってもらおうからな



えーじゃねえ
てめえ自分の立場
わかってんのか

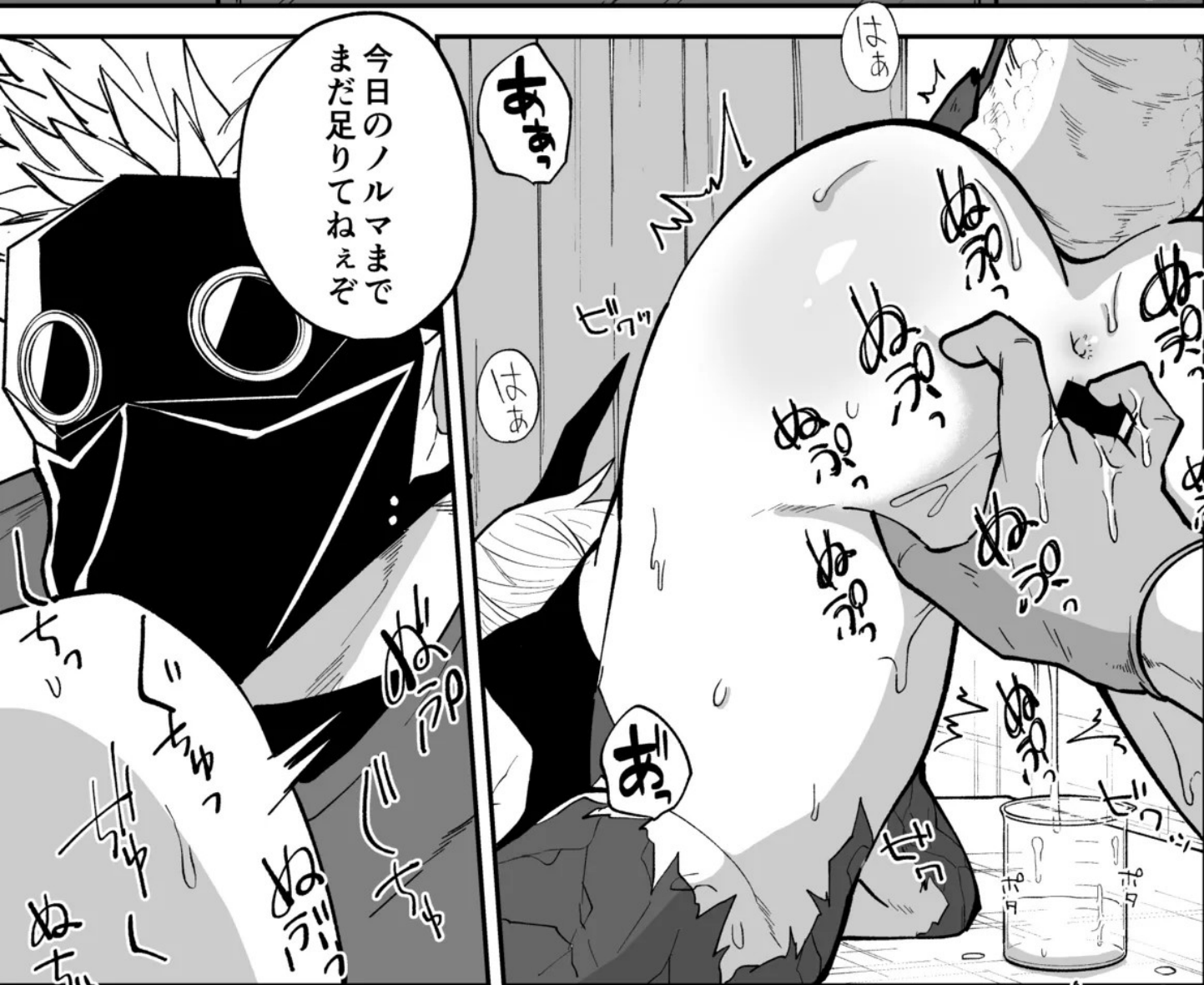


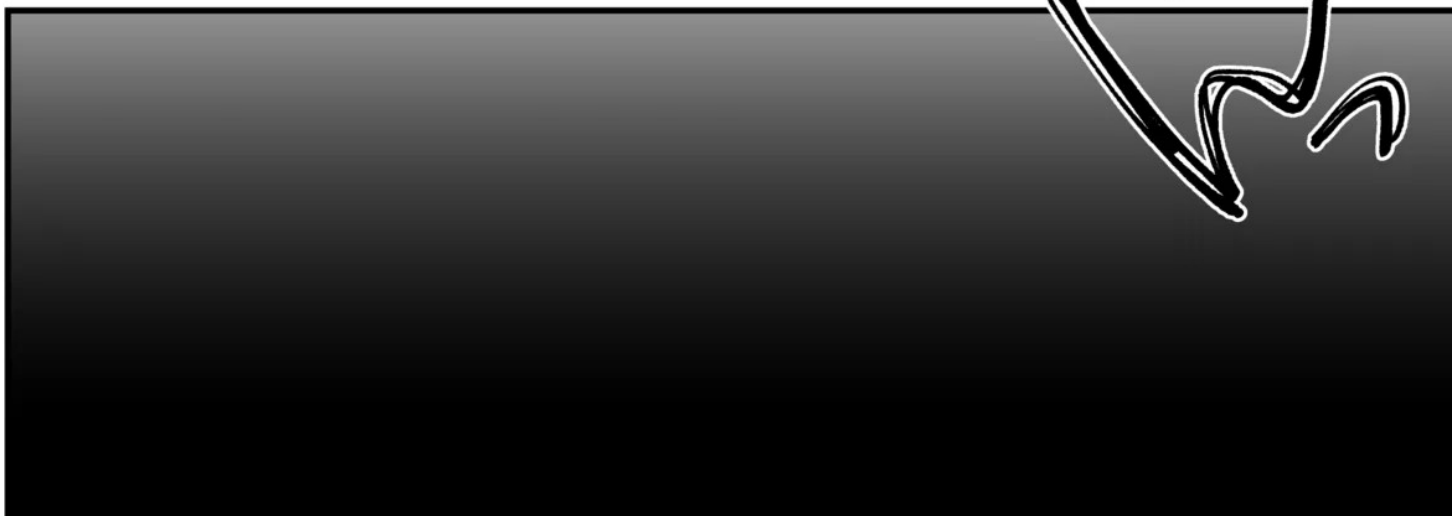
返事

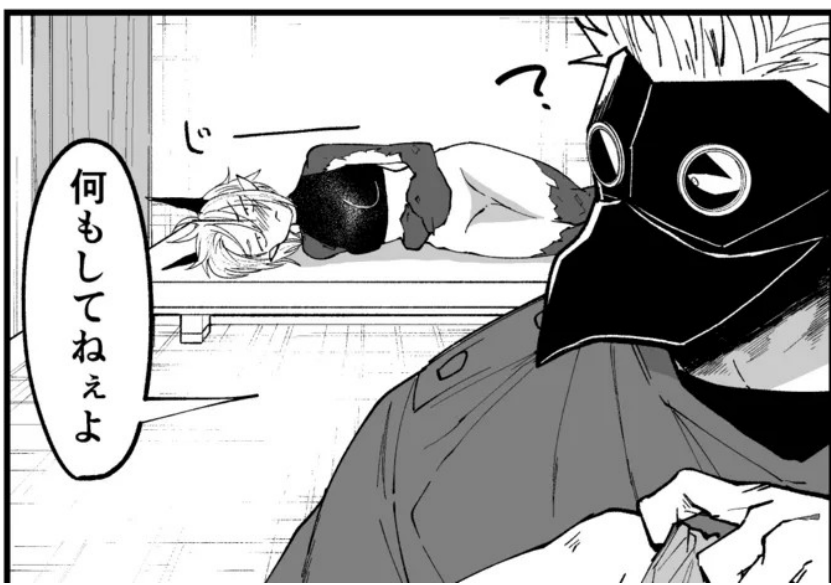
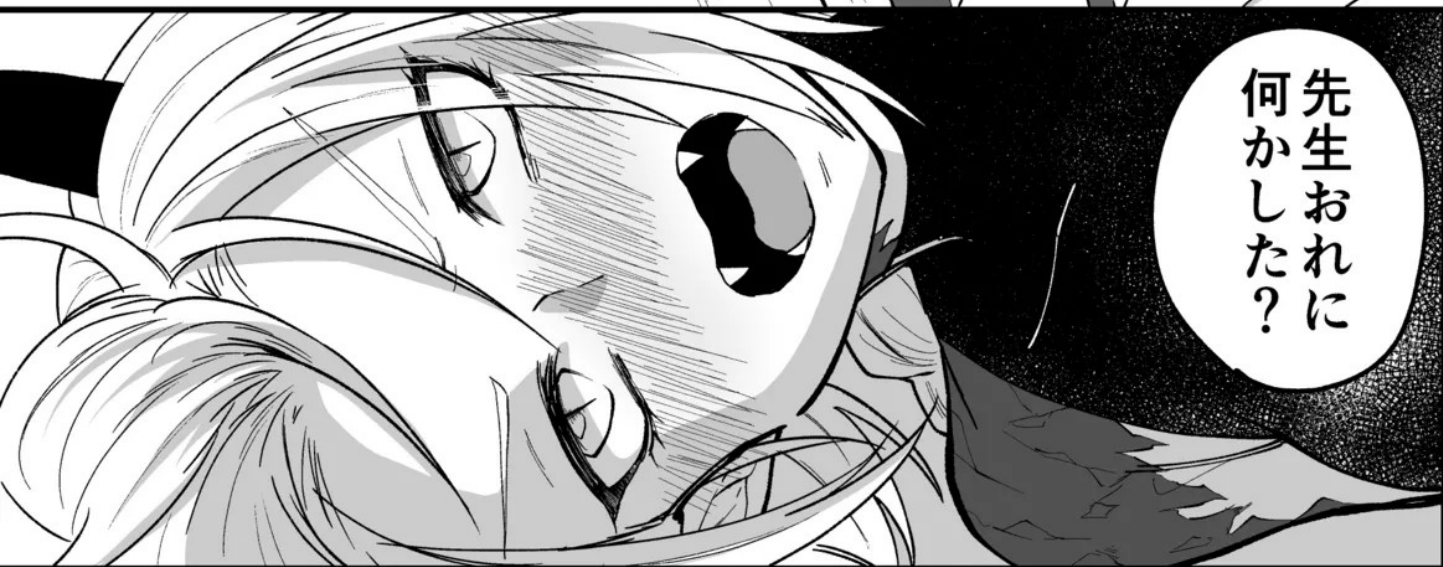
なんか面倒なところに
来ちゃったな...

...はい

第3話







なんかお腹の
奥らへんが
ずっとウズウズして
治まらないんだ



見せてみ

グー



.....



ん...っ



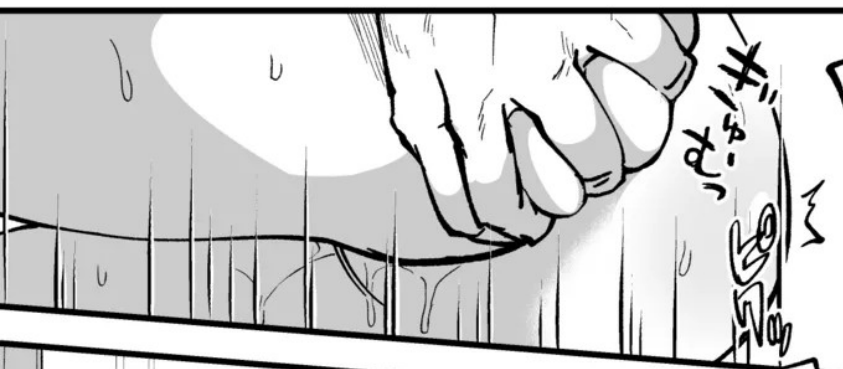
グッ

ここらへんか？



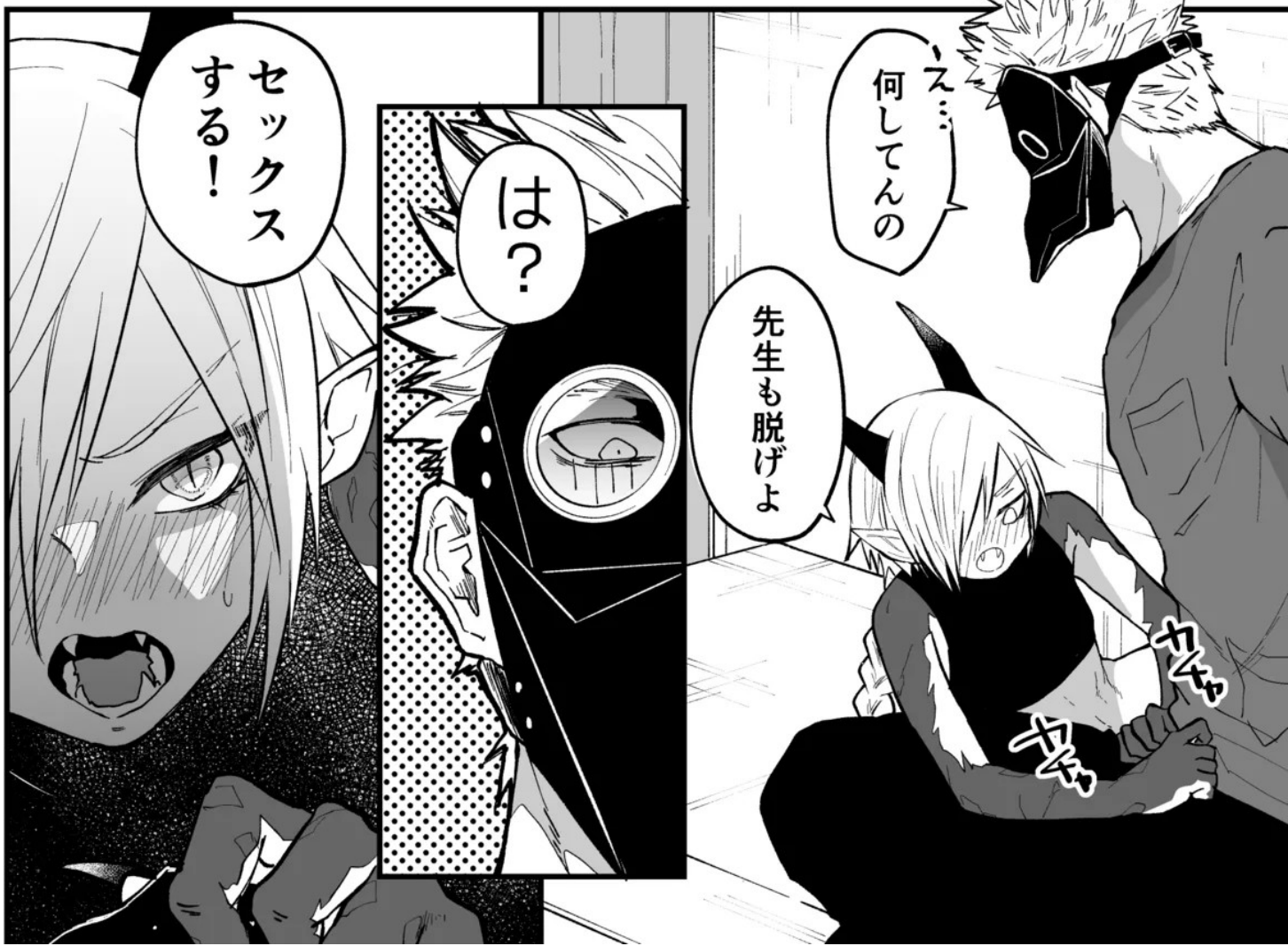
ひくっ













その気になって…
お前何するか
わかってんの？



んな
ムキになんなよ

おれは本気なの！
先生だってその気に
させてやる



おい

バカにすんなよな！
前に先生の
エロDVD見たから
知ってるし



ほらよ

十回

だったら
お手並み拝見
させてもらおうじゃ
ねえか

望むところだ！

ふふーん
人間にしては
まあまあじゃん

そら
どーも

まあ
焚きつけたのは
俺だしなあ…
適当に相手してやるか

で
どうすんだ？

ちよつと
黙っててよ

確か
こうやって…



口止まってんぞ

ん...
んんん...

長え舌持ってんだ
もつと絡めて扱いて
みろよ

ああ

悪くねえな

なんか
出てきた...

しゃほっ
しゃほっ
しゃほっ
しゃほっ
しゃほっ



んな面して
ち○ぽ啜えてんじゃ
ねえよ



なんだよ
そんなに下手
だった？

あーいや...

ギョッ



ヒバナ
もういいわ

！



ニヤッ

クッソ
腹立つ...



その気になった？

悪いかよ



まあその
なんだ...





なら遠慮は
いらねえな



ウズウズしてるとこ
いっぱい擦られて...

気持ちいい....!

指じや届かないところまで
きてる...!!



竜のま○こってのは
全員こうなのか？
人間とは大違いだ

んなこと
知るかよ…っ！

抜こうとすると
バカみてえに
吸いついて
きやがる

こいつは
やばい…な





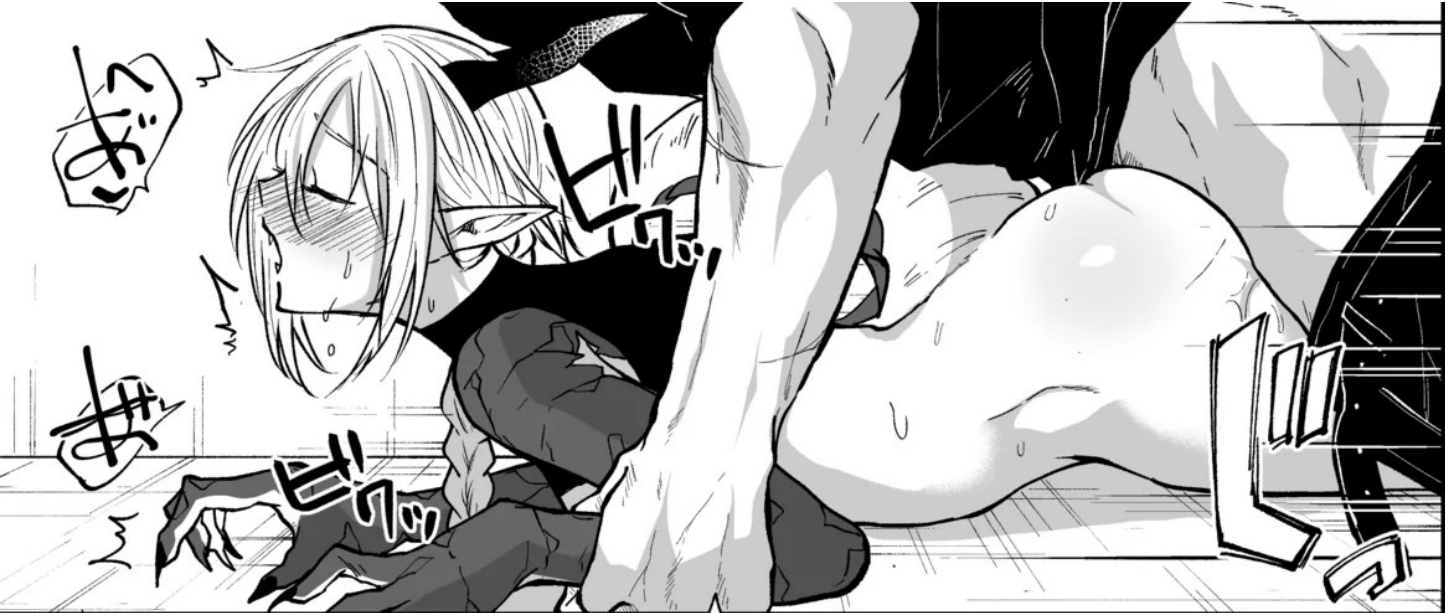
昔から妙に竜に入れ込む
人間の話はよく聞くが
どういいう理由かなんとなく
わかってきたな

なに今の…
いつもと全然違う

頭の中一瞬で
真っ白…

あつ
ちょっと待っ…

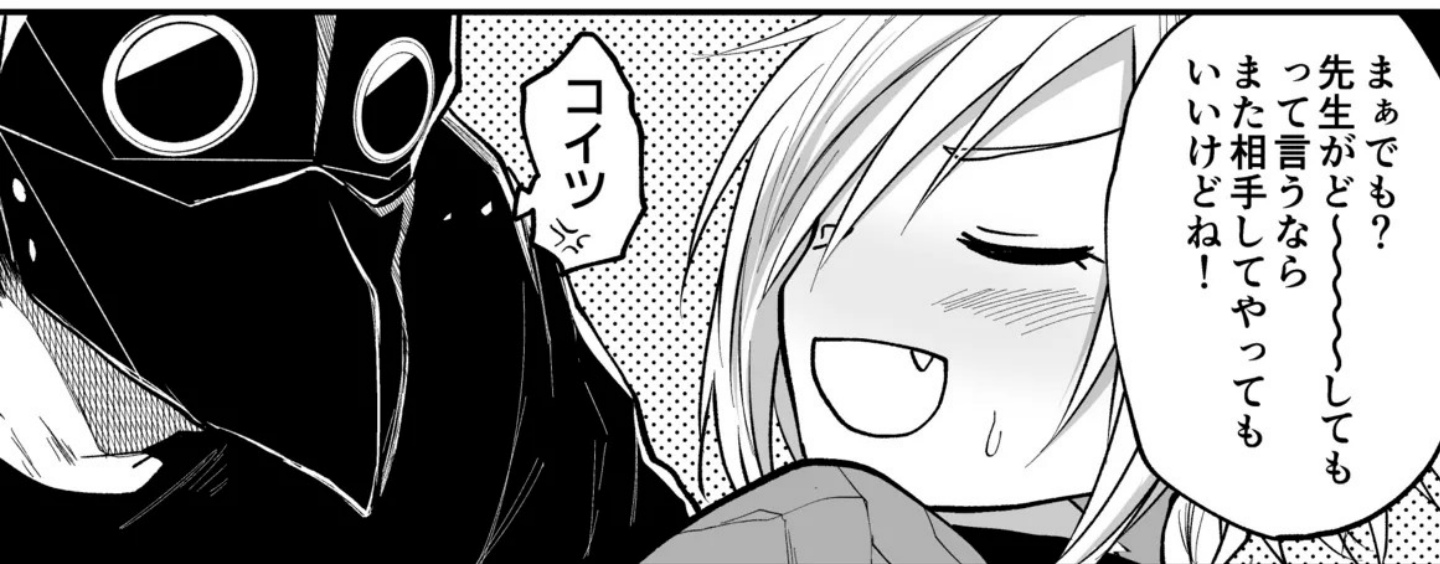
ねえってば！

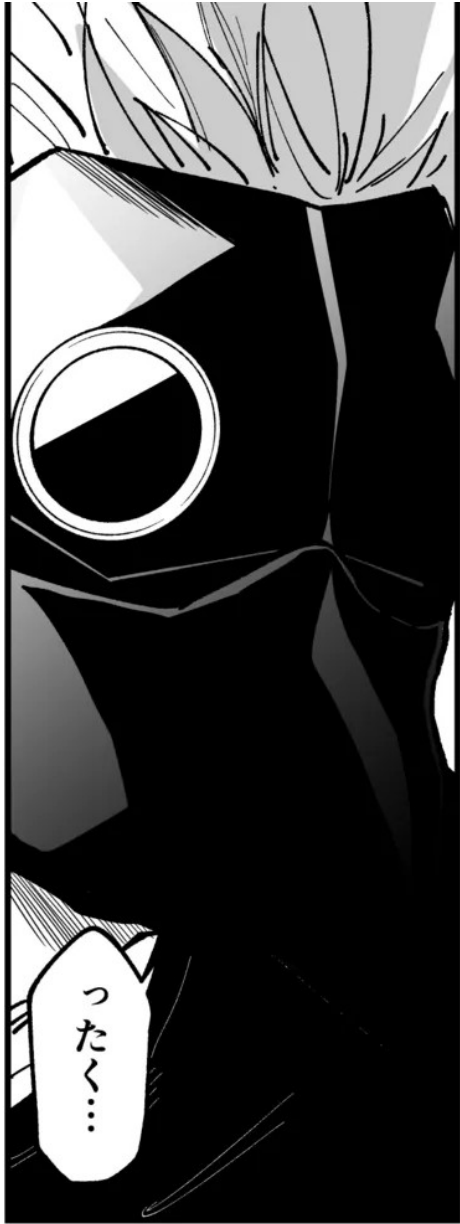






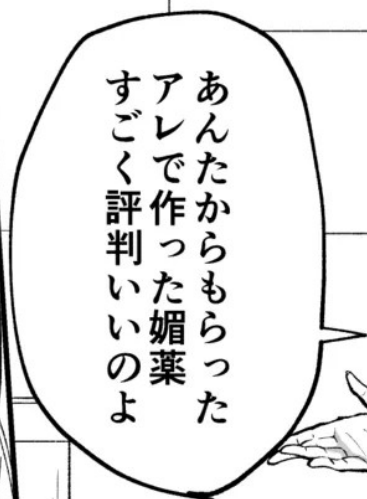








私も試したけど
ほんともう
すごいんだから



あんたからもらった
アレで作った媚薬
すごく評判いいのよ



そいつは
よかったな



第4話



何？
教えてくれたって
いいじゃない

……



企業秘密

あんなに質が
いいものどうやって
手に入れてるの



誰

フズフズ...

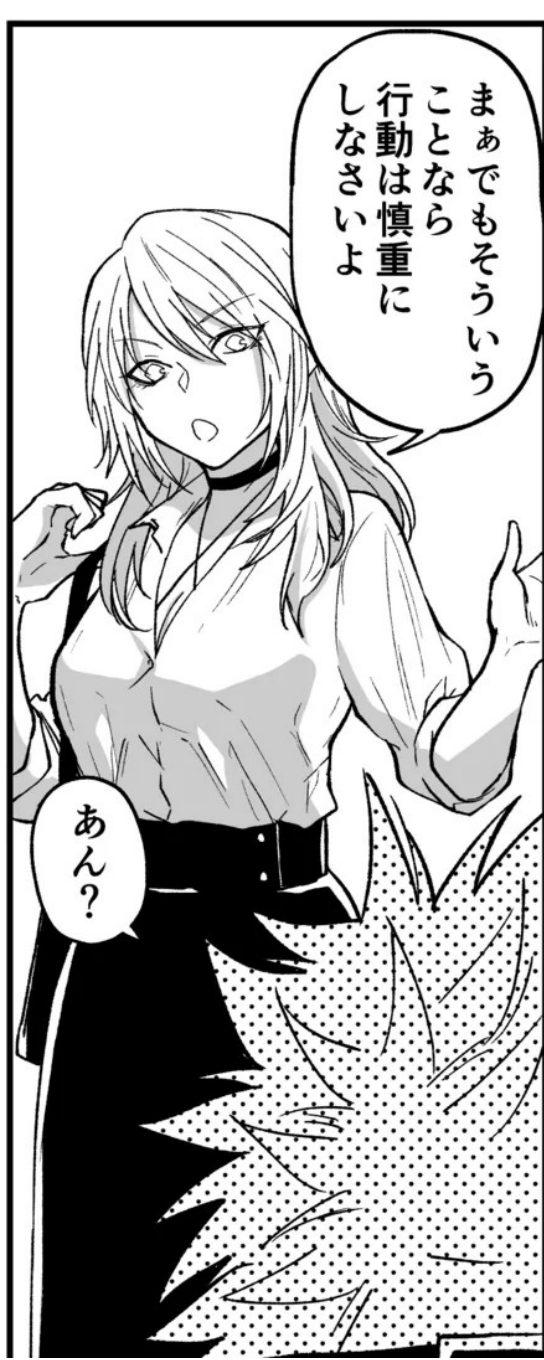
あらあら
随分と可愛い子
困ってるじゃない

変な奴じゃない
から安心しろ

こんにちは
私は狐西ユカリ
薬剤師やってるの

あなた名前は？

ヒバナ



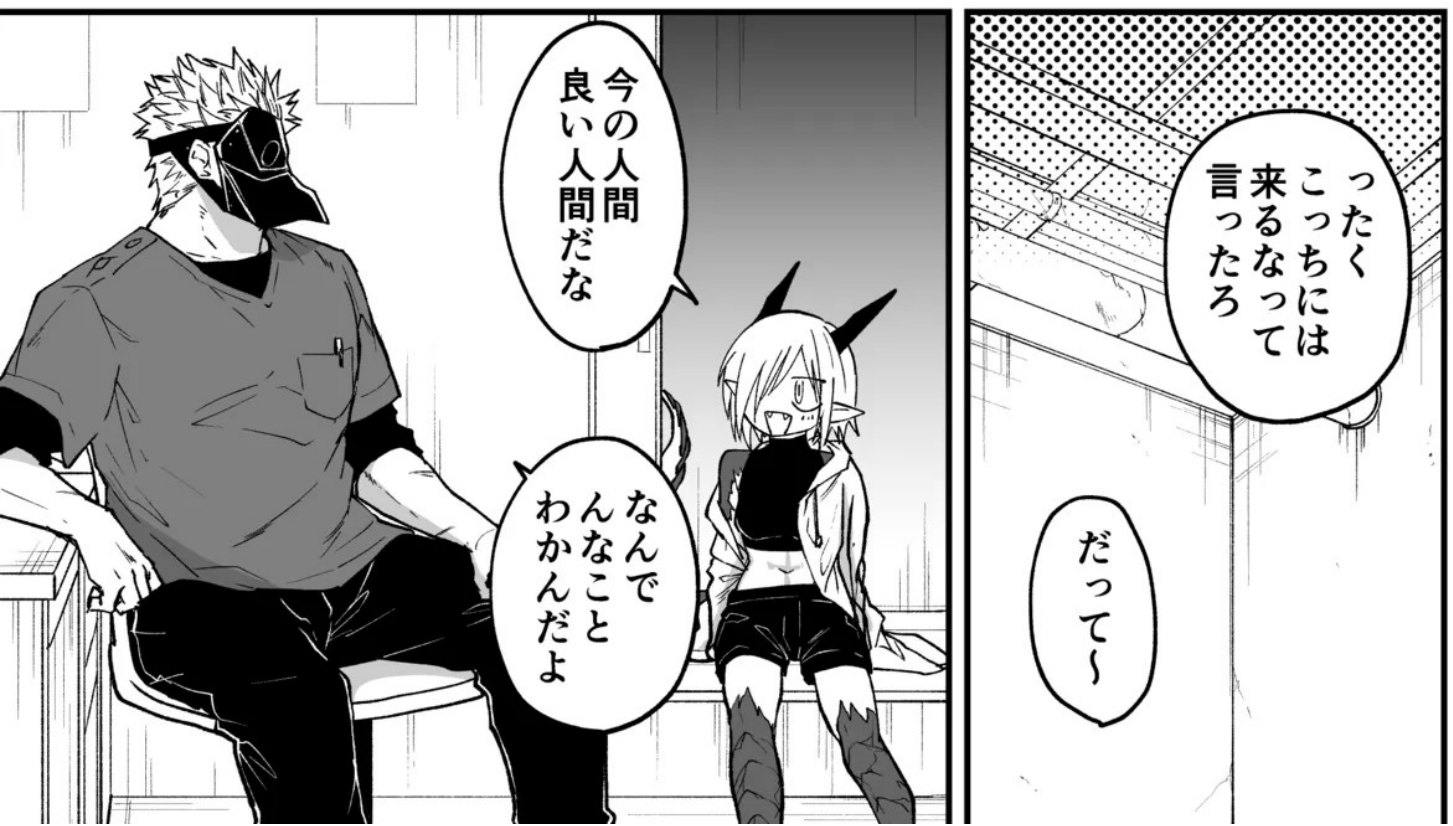


誰が見てるか
わからないしね

一応いけないこと
してるんだから
私たち♡



それじゃ
またね
ヒバナちゃん

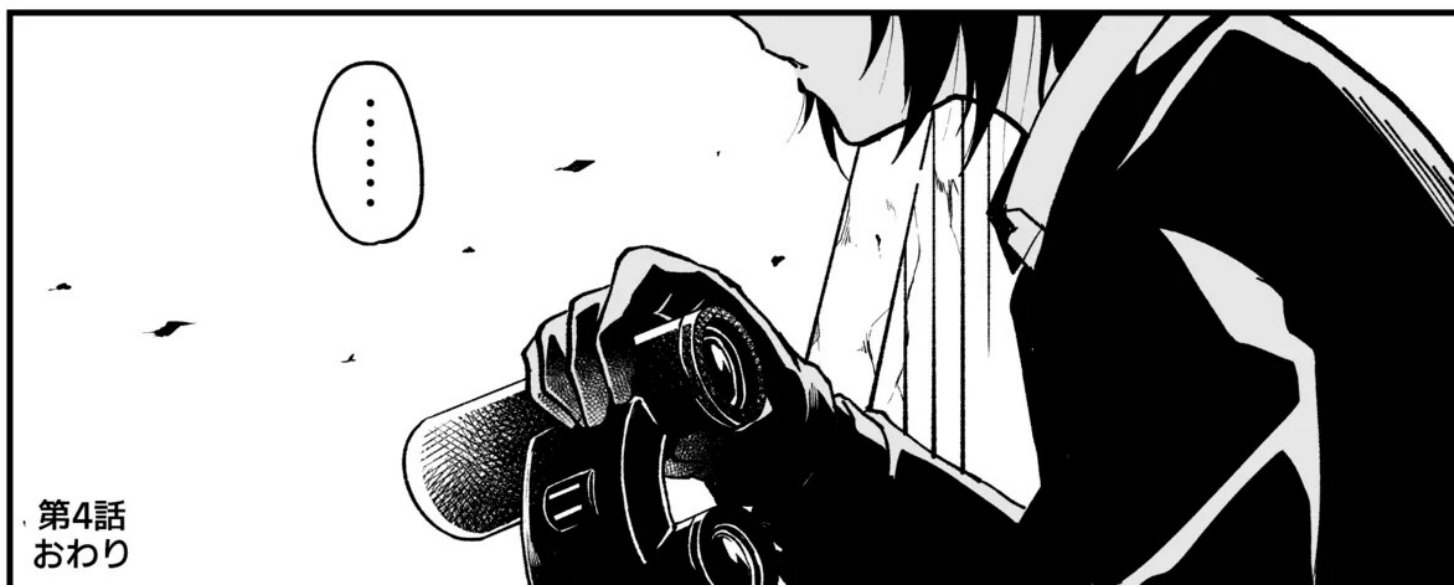
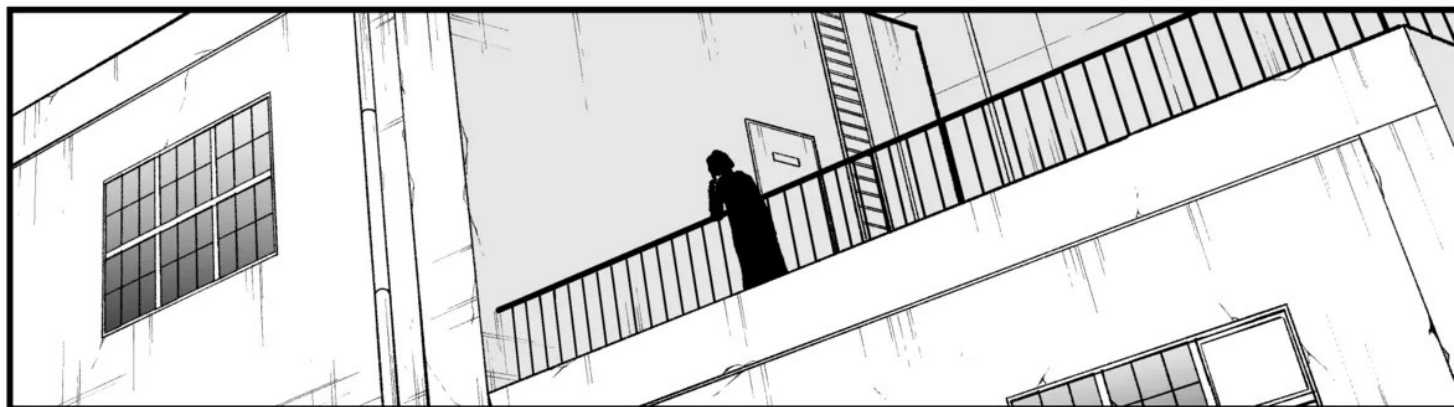
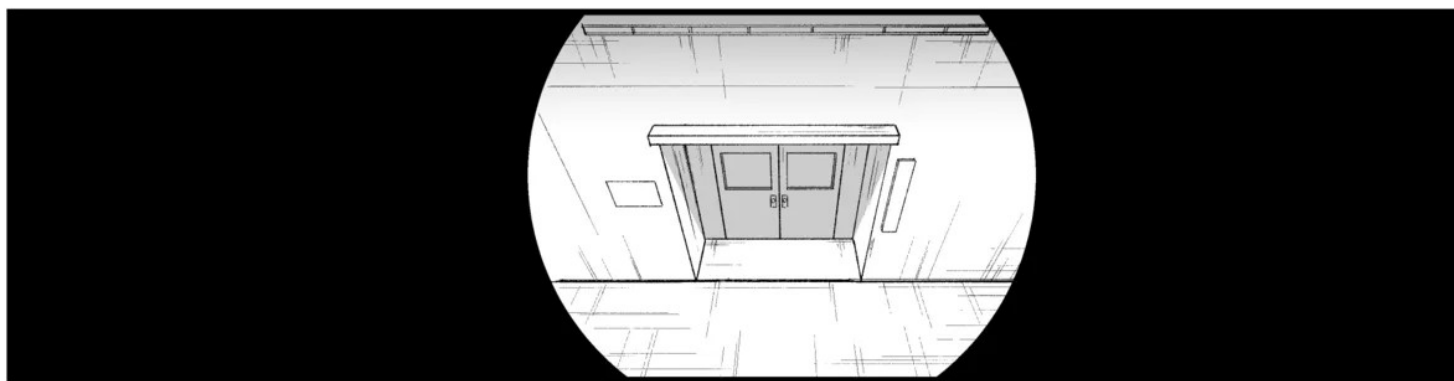
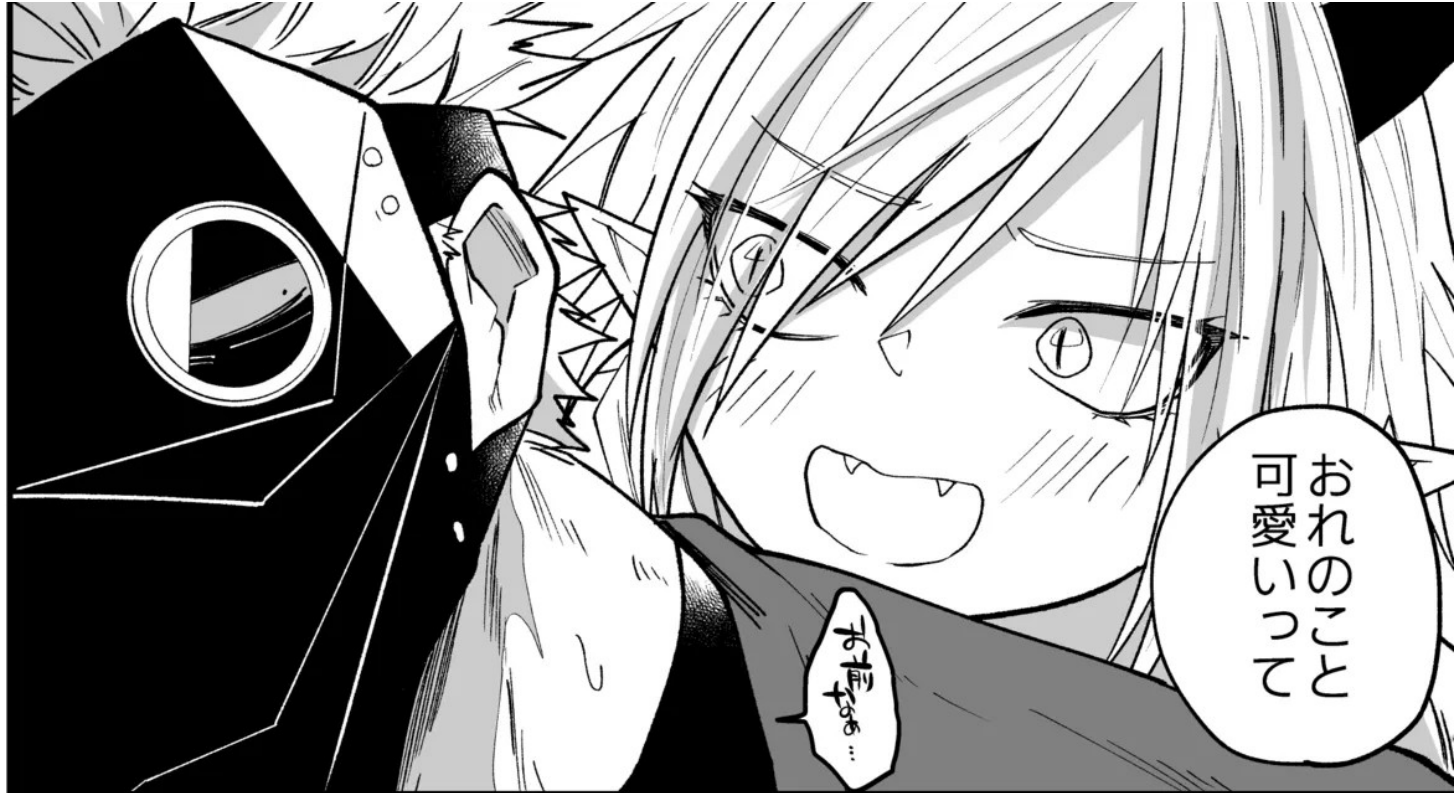


今の人間
良い人間だな

なんで
んなこと
わかんだよ

まったく
こっちは
来るなって
言ったら

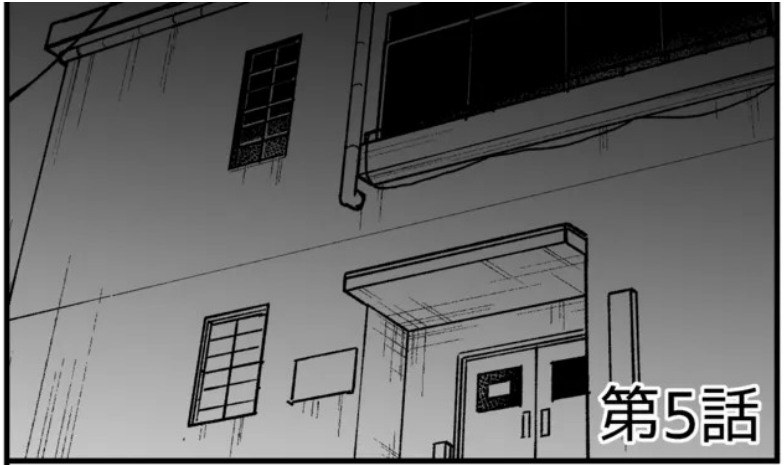
だってー



第4.5話



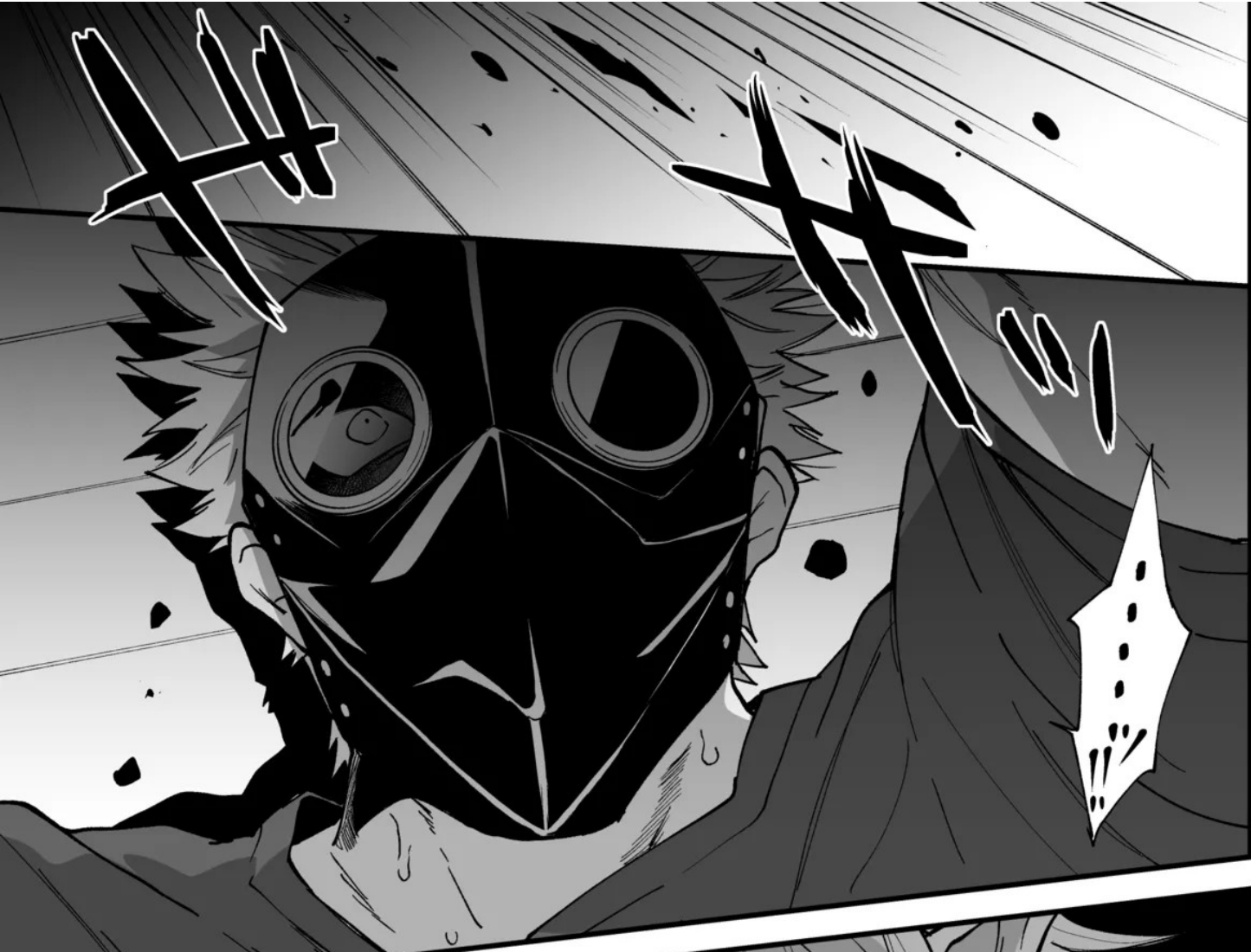




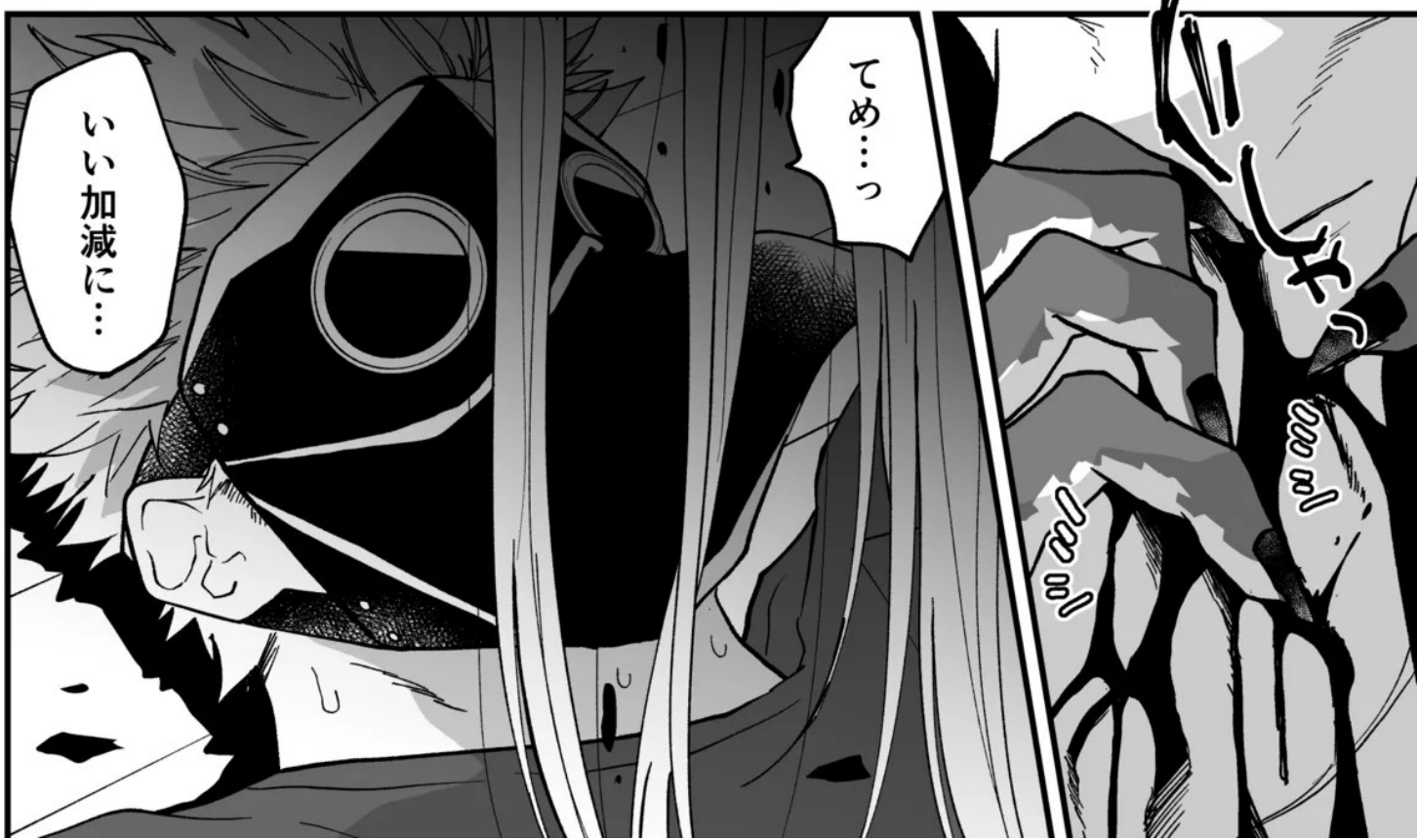


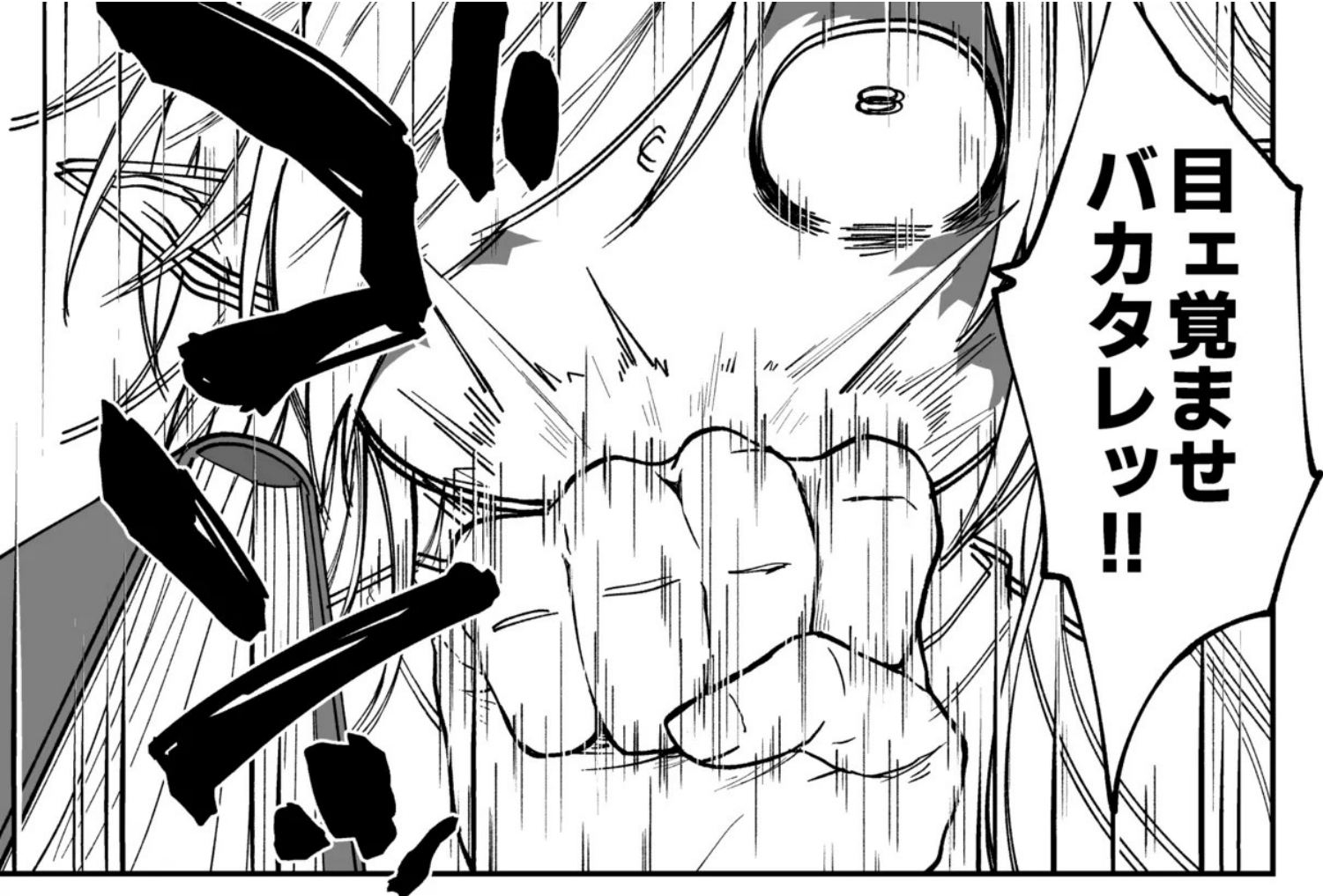






この...

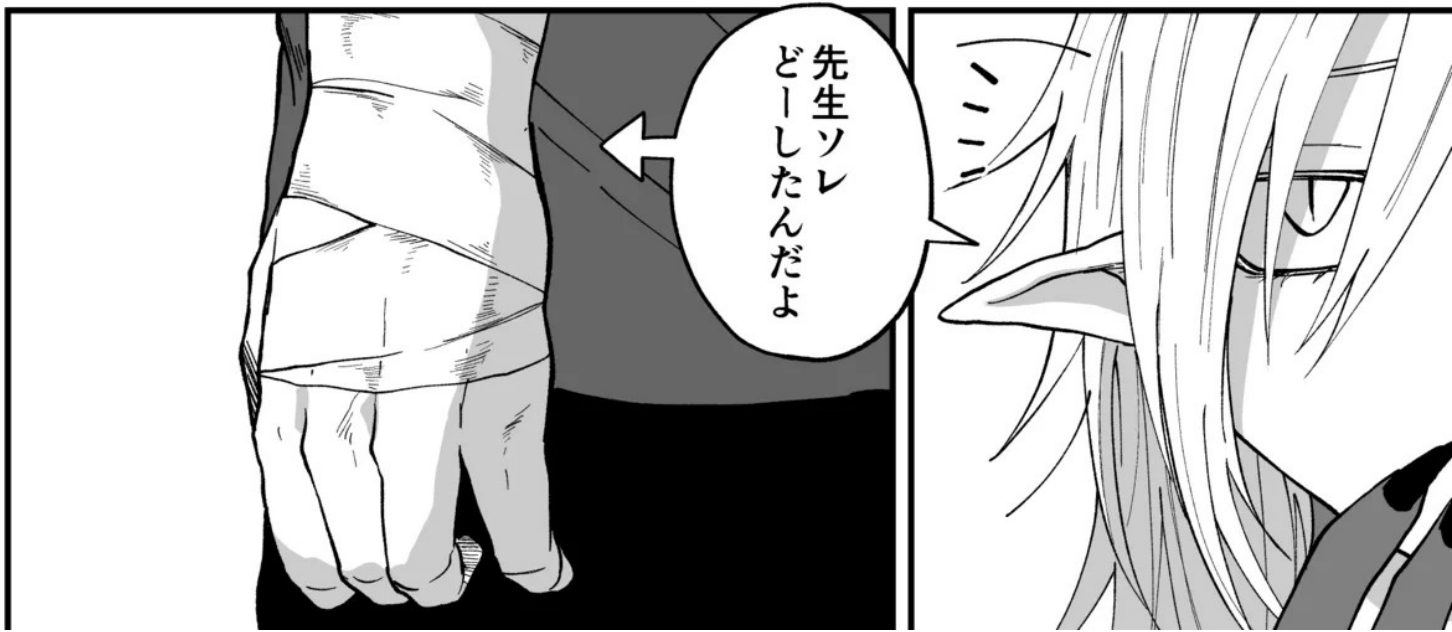




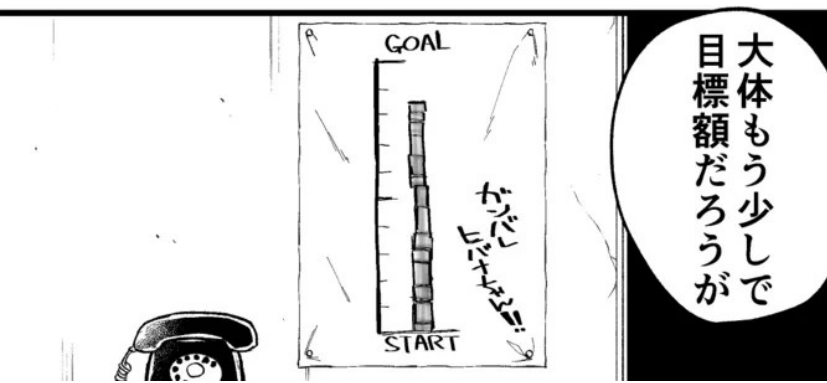
目エ覚ませ
バカタレッツ!!

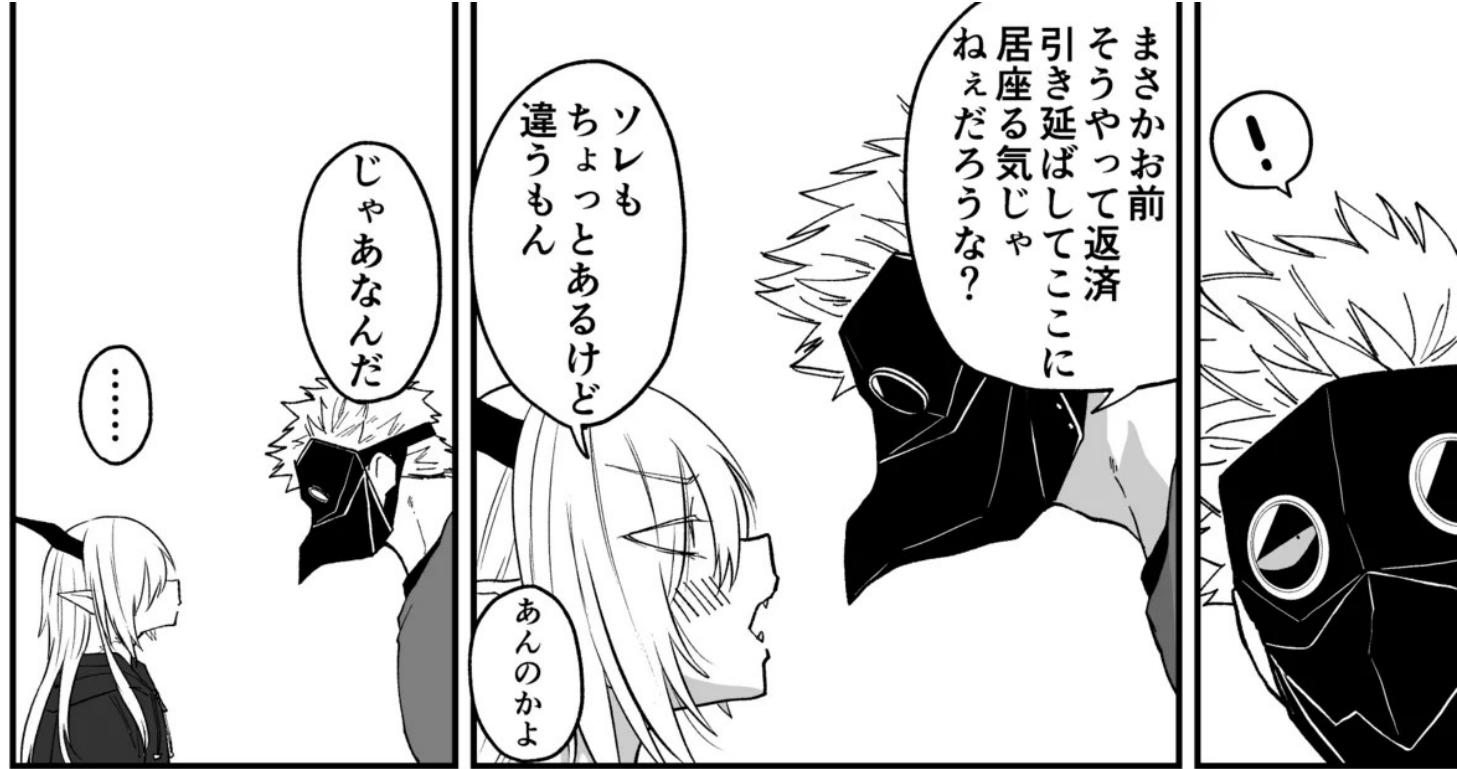


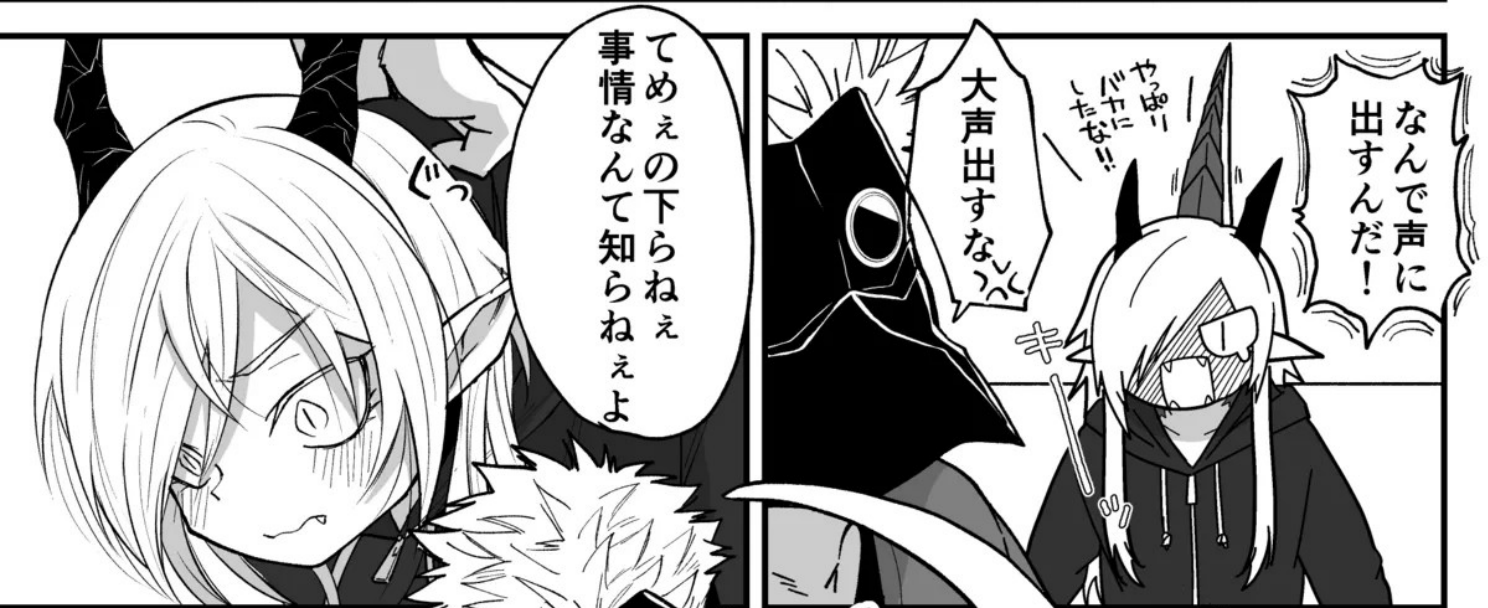
まったく
なんなんだよ
いってえ

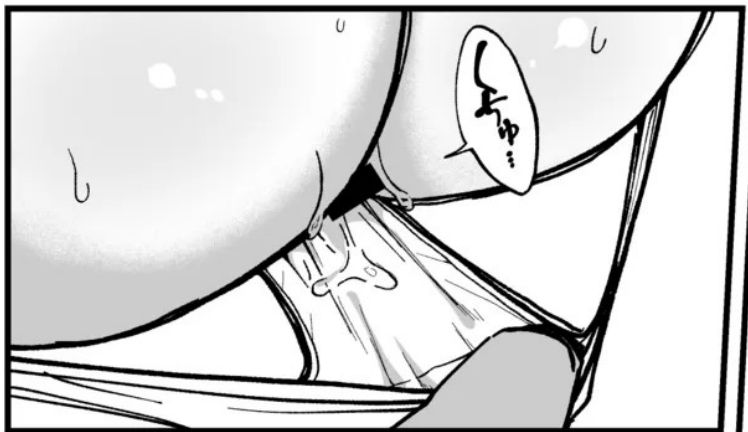


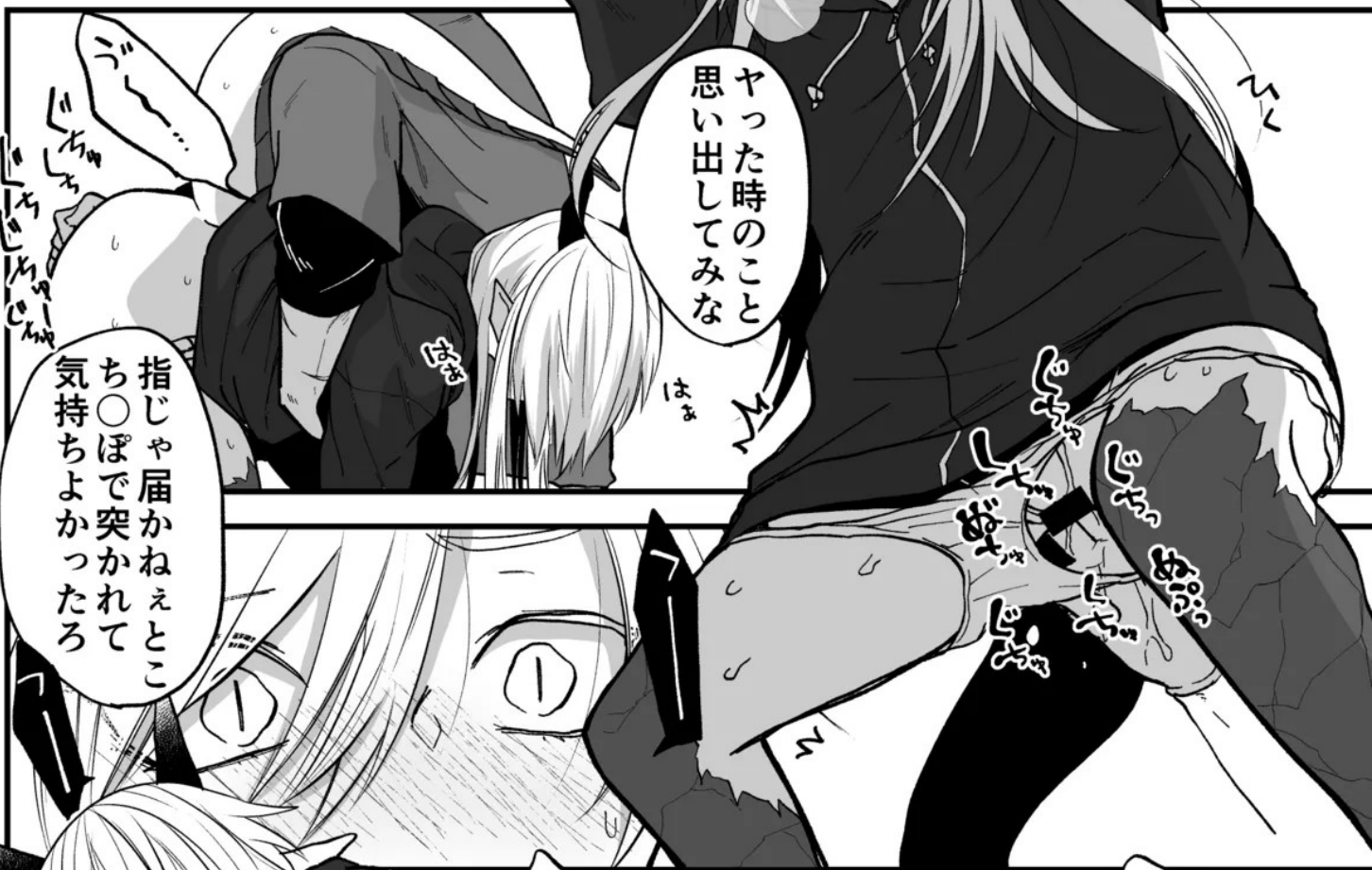




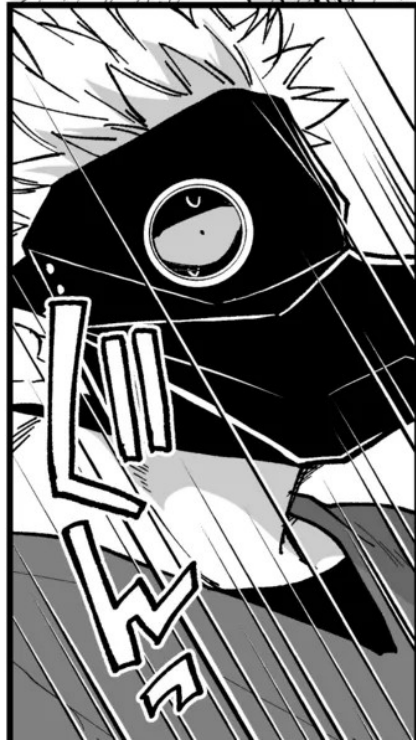
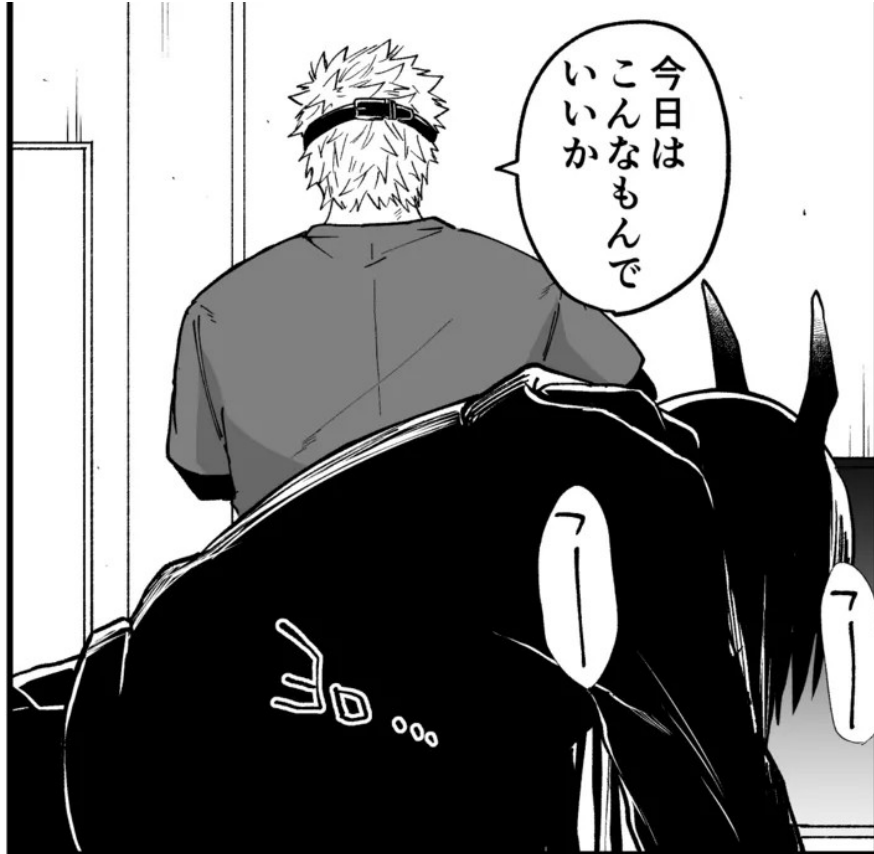








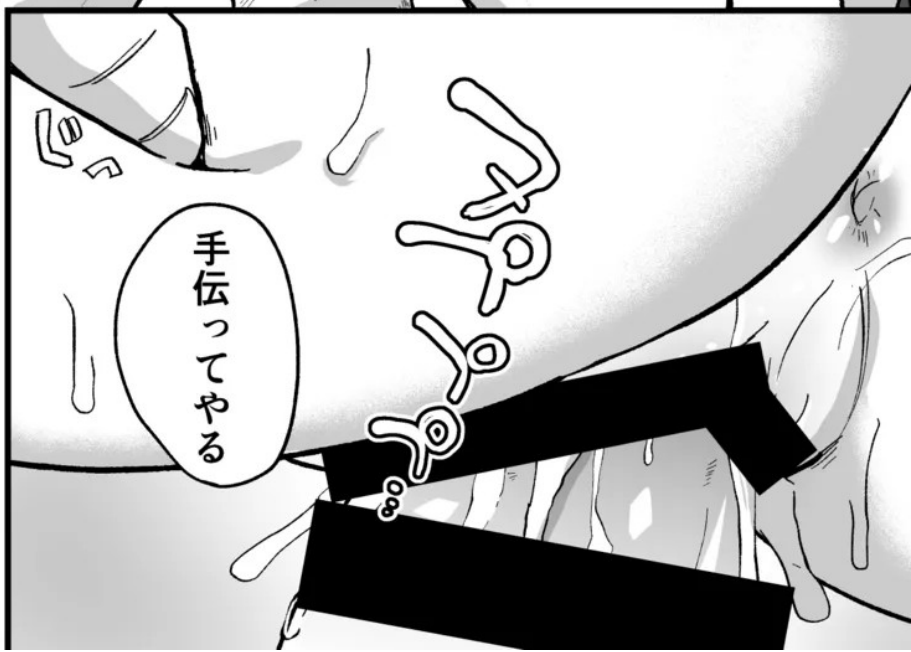


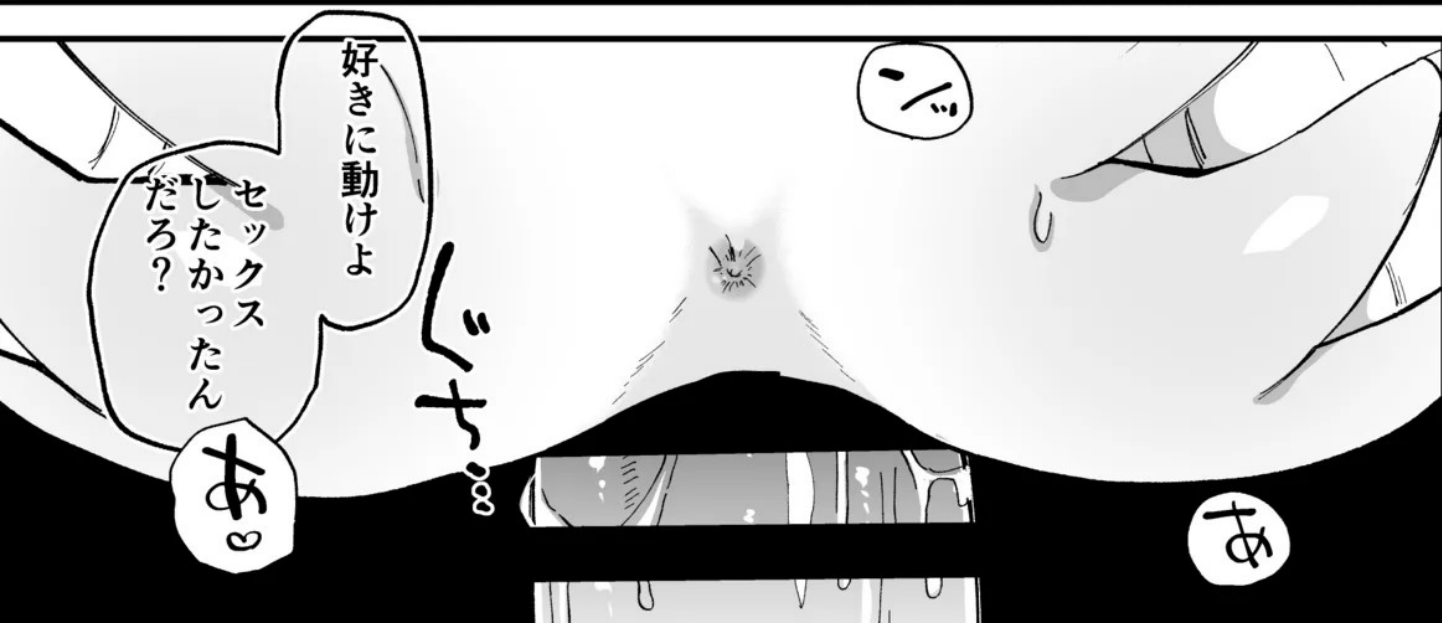


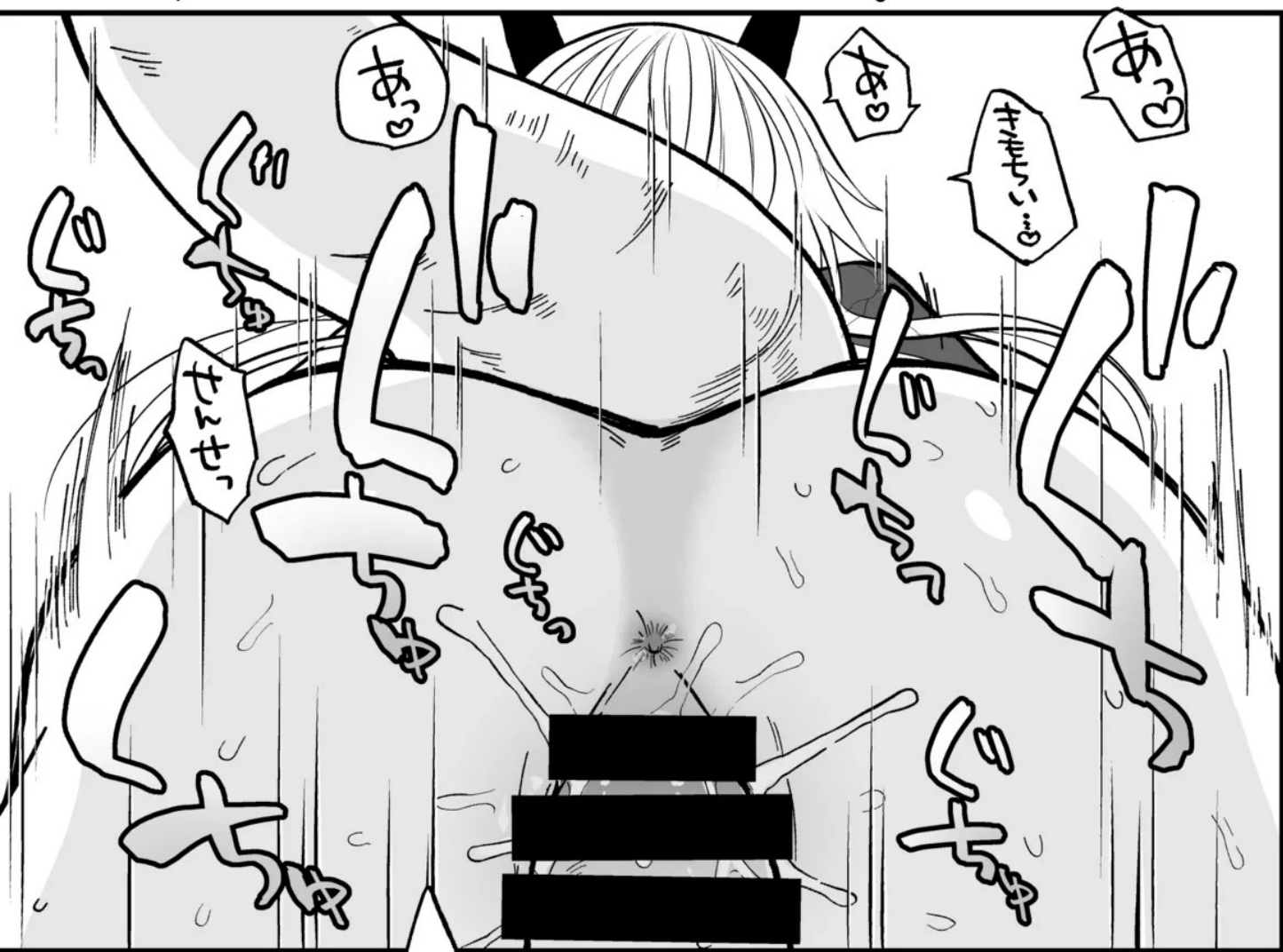
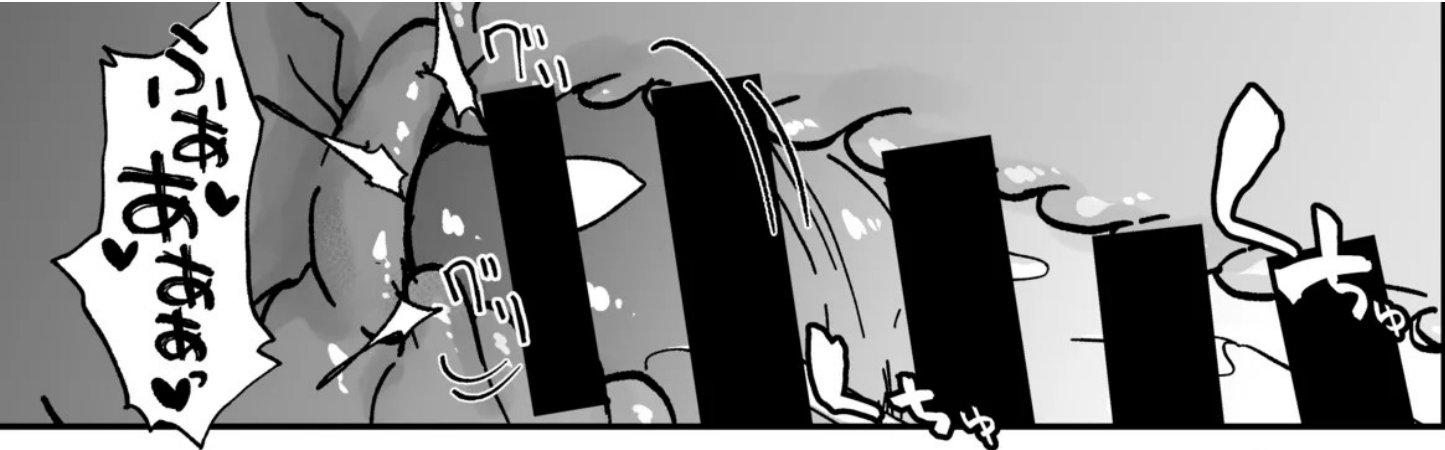










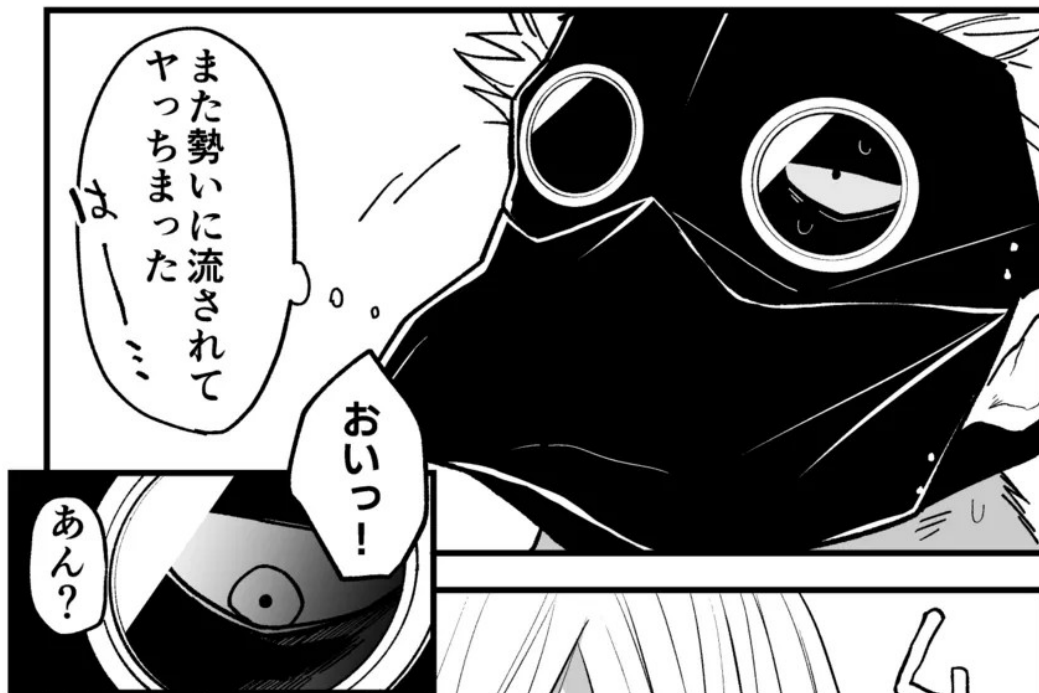


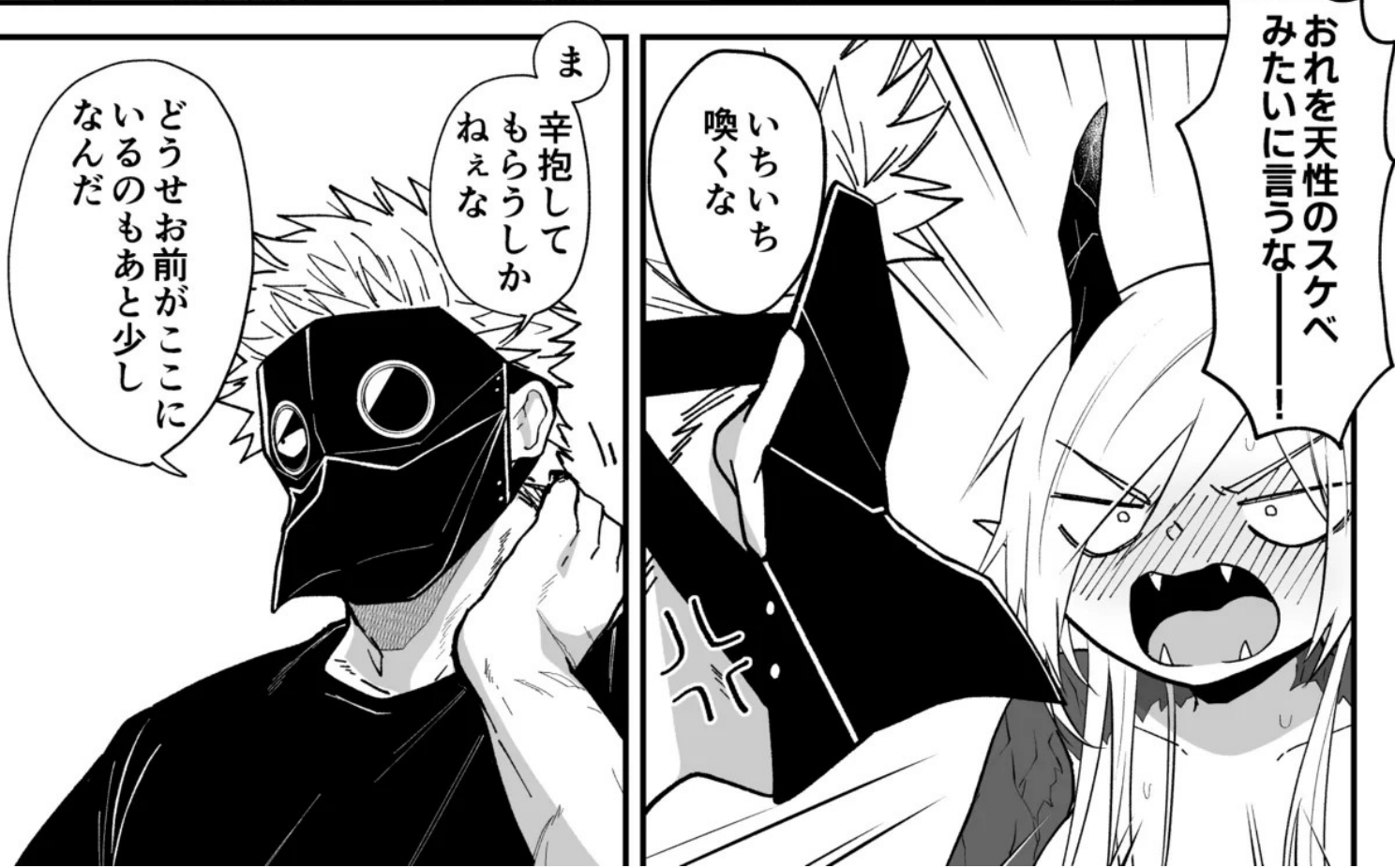
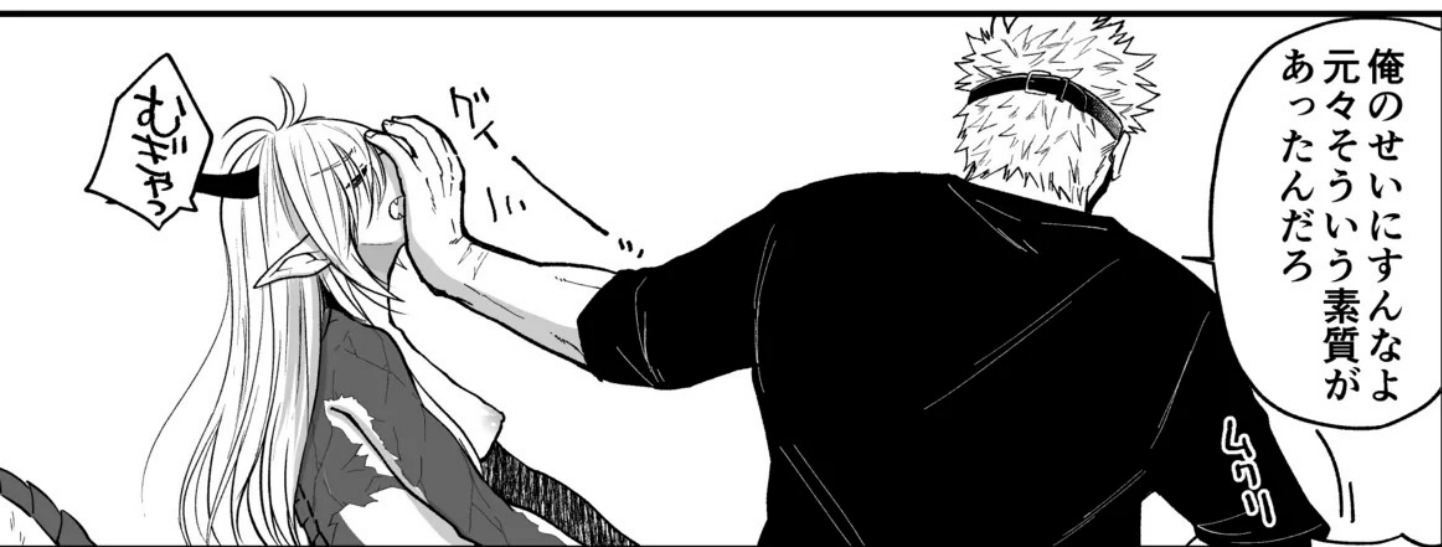


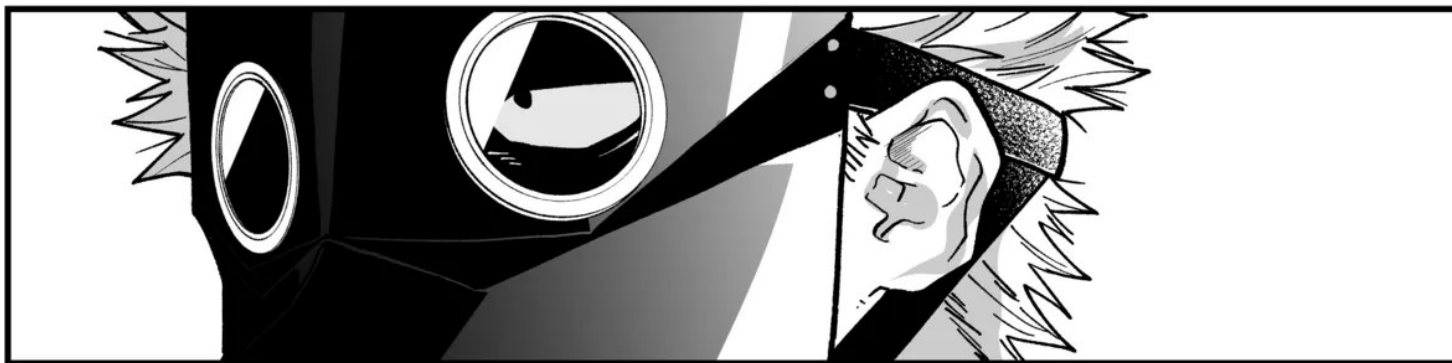












先生

先生

第6.5話

おれのこと
見捨てないで
先生

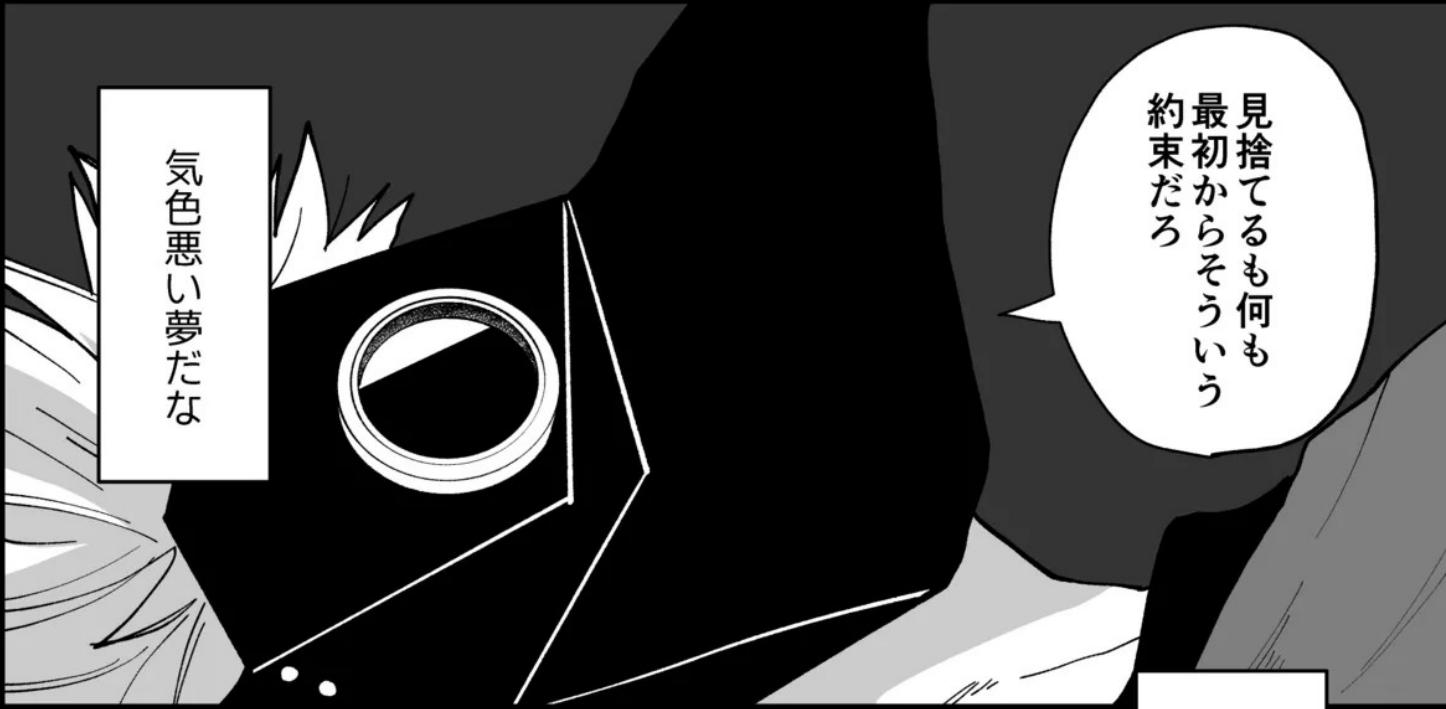
何だこれ





先生

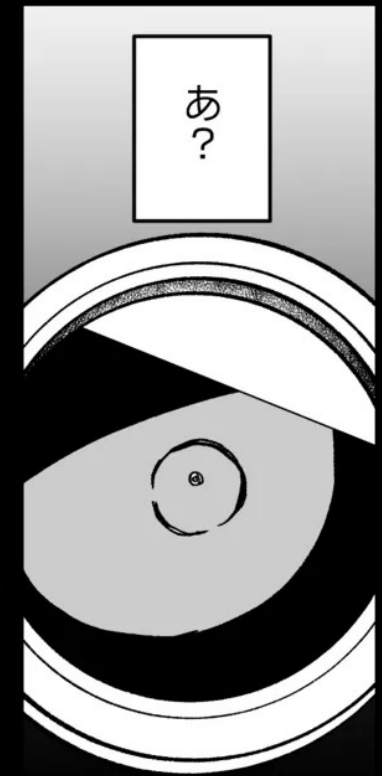
夢か？



見捨てるも何も
最初からそういう
約束だろ

気色悪い夢だな

早く起きねえと



あ？



本当は怖いんだろ

違うだろ
先生



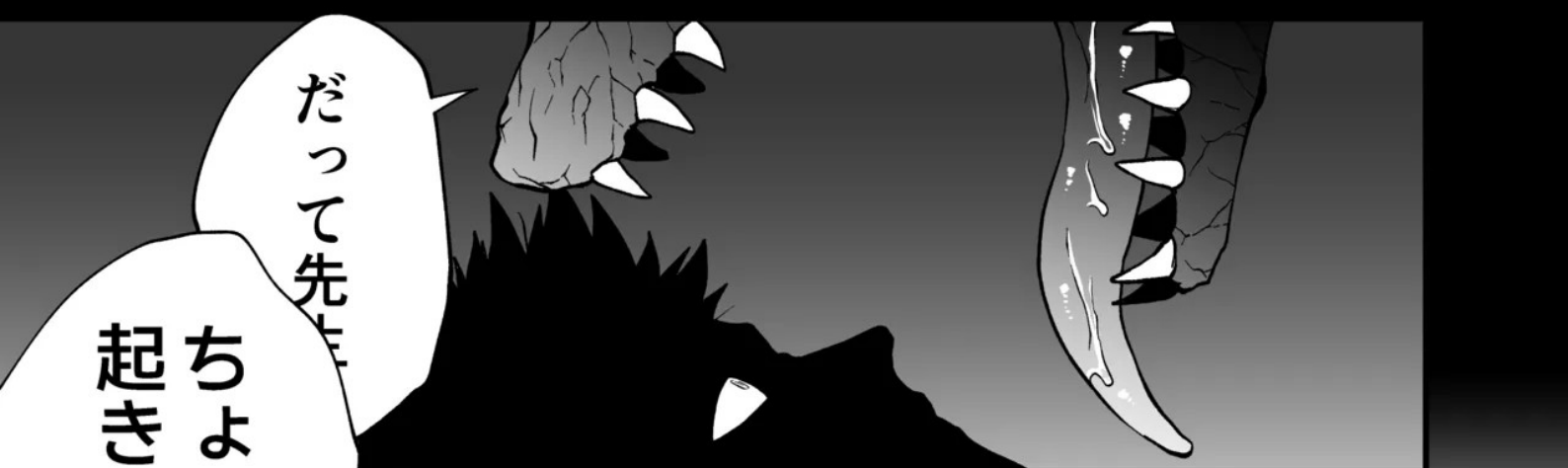
竜が
怖いんだろ
先生

だからおれを
追い出したいんだ



怖い？
何で俺が

何でって
先生が一番
わかってるだろ



だって先生

ちよつと
起きなさい!!





元気ないじゃない
ヒバナちゃんと
喧嘩でもした？

なんであいつが
出てくんのだ
何もねえよ



あー…
そうだったな



もう
いくらここが
小さな診療所でも
一人はきついんじゃない？
誰か雇ったら？



ちよっと
疲れてるだけ
だって



その頃のヒバナ



心配してるのに
何その態度！

余計な
お世話だよ



何よ
その額じゃ不満?

評判いいから
ボーナス♡

...

おい
いつもより
多くねえか?

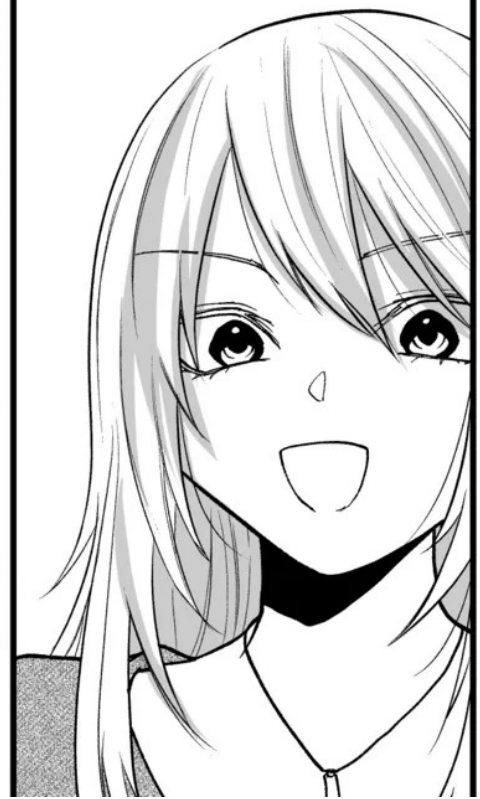
第7話



これは元々
そういう契約
なんだよ



それで次回
なんだけど



なるほど
そういうわけ

じゃあボーナス分
私がもらおうか？

なんでだよ

だって寂しいでしょ
ヒバナちゃん
いなくなったら



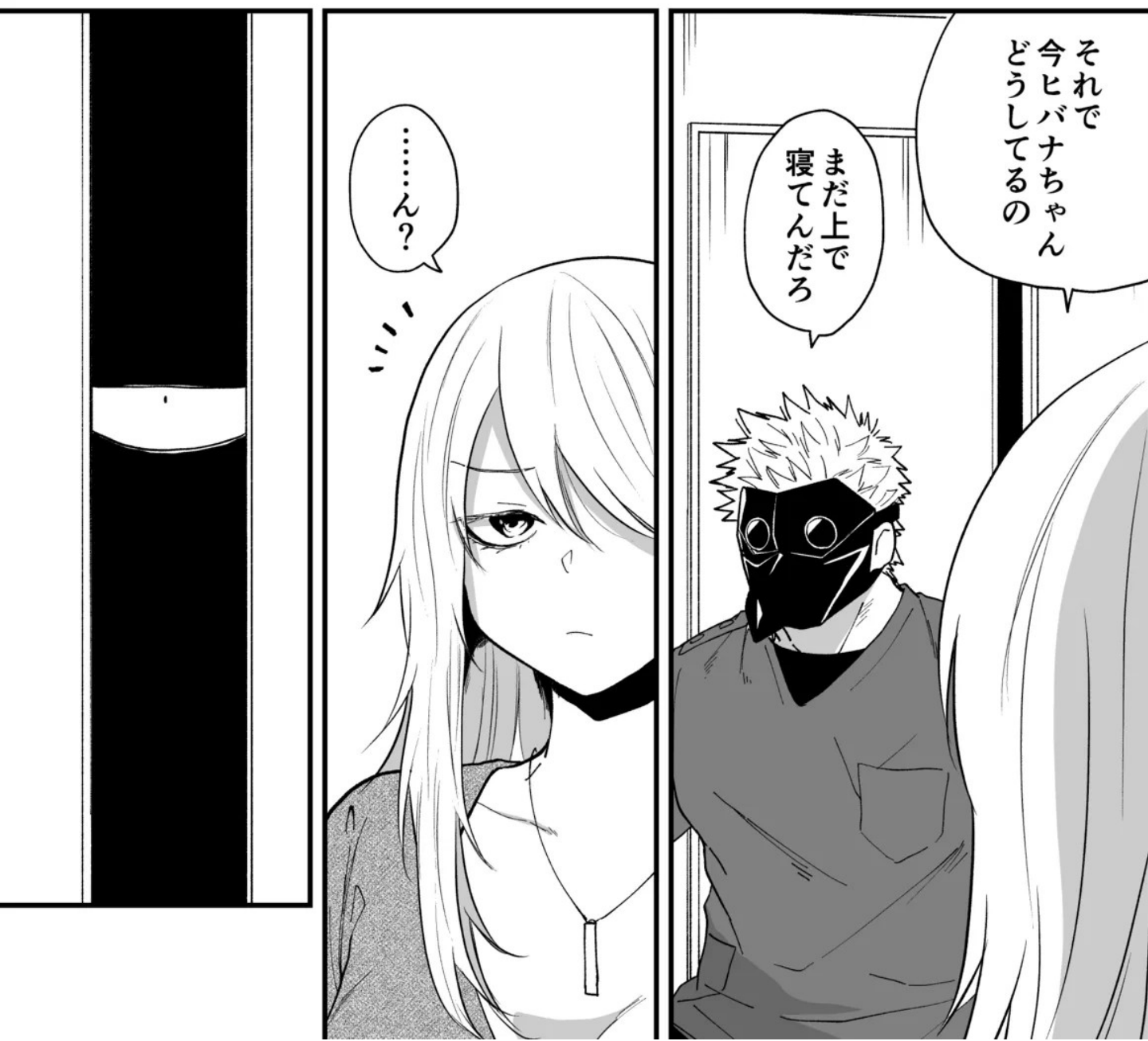
冗談はよせ

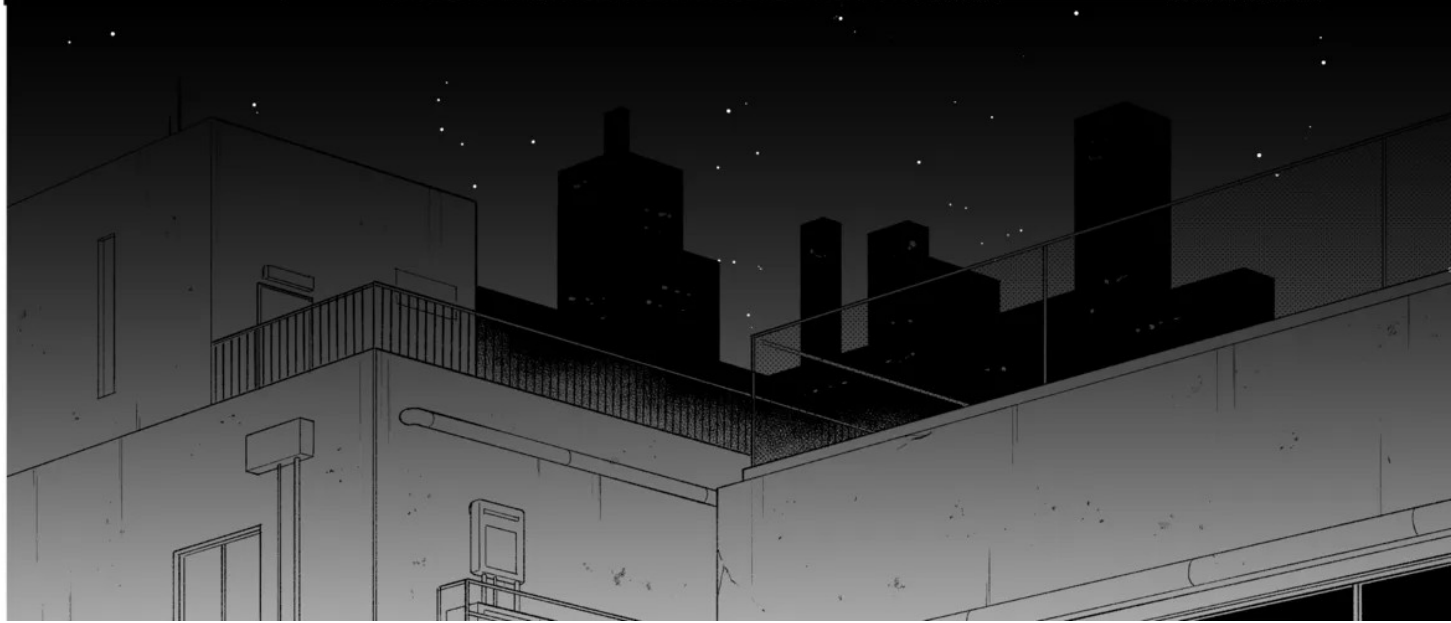
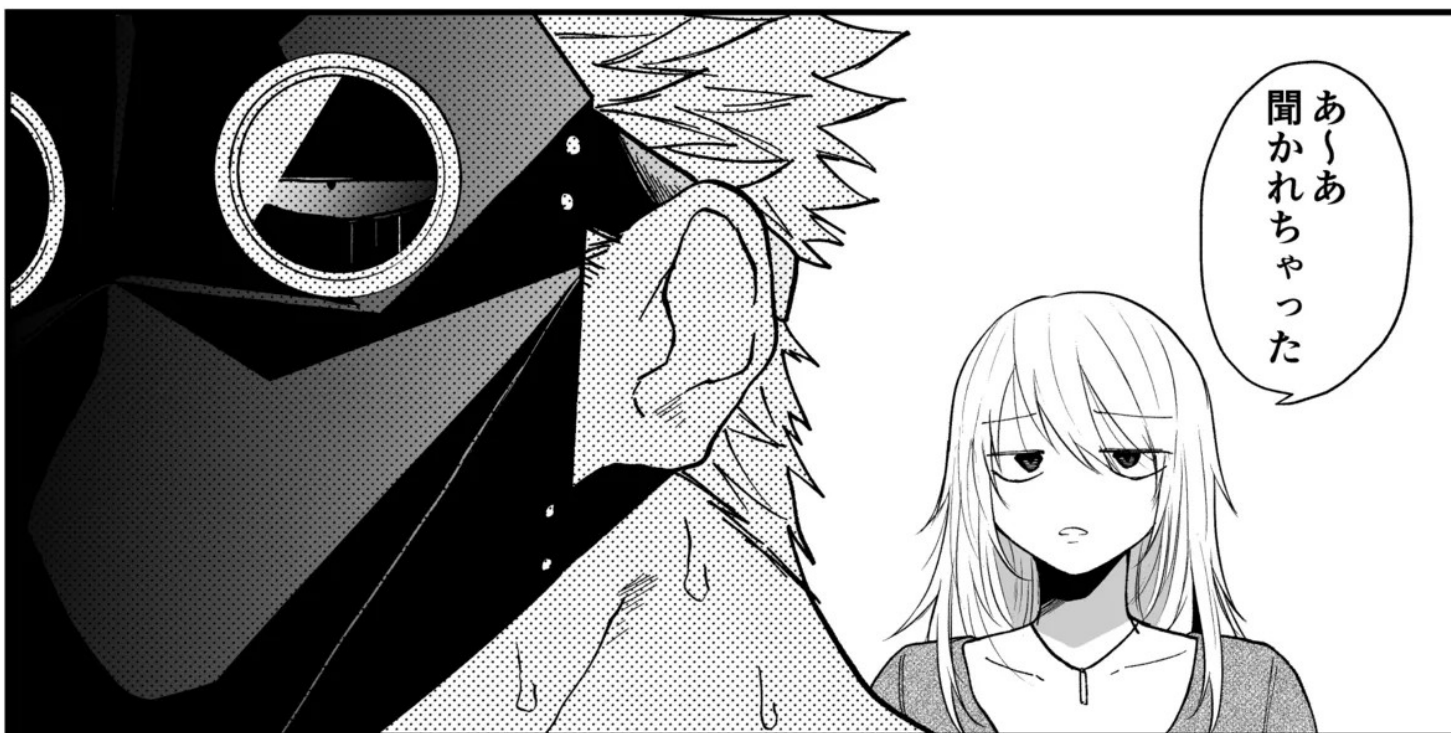
居なくなつて
くれたほうが
せいせいする

知るか

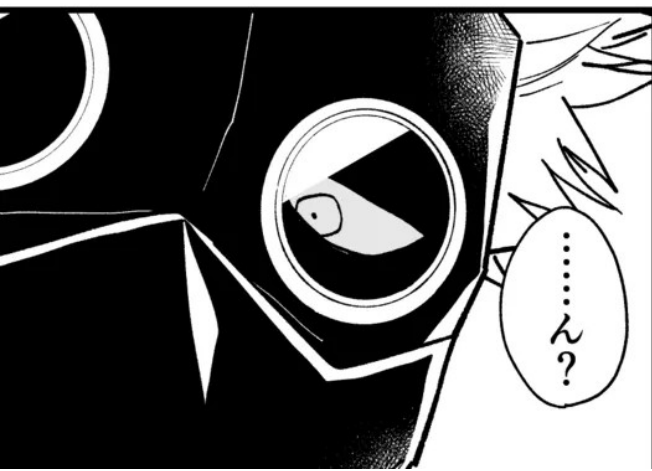
そんな事言つて
ヒバナちゃん
どこか行く当て
でもあるの？

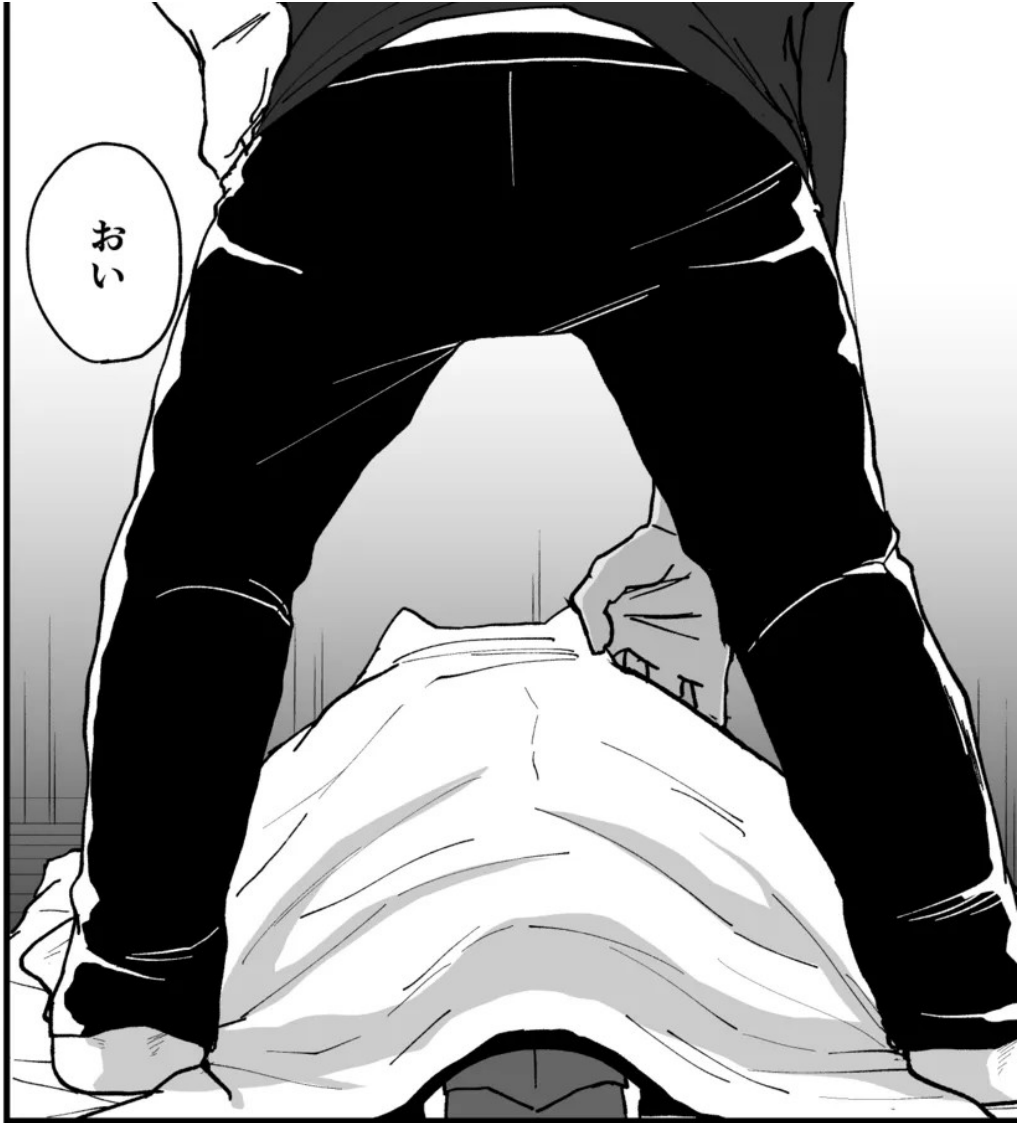


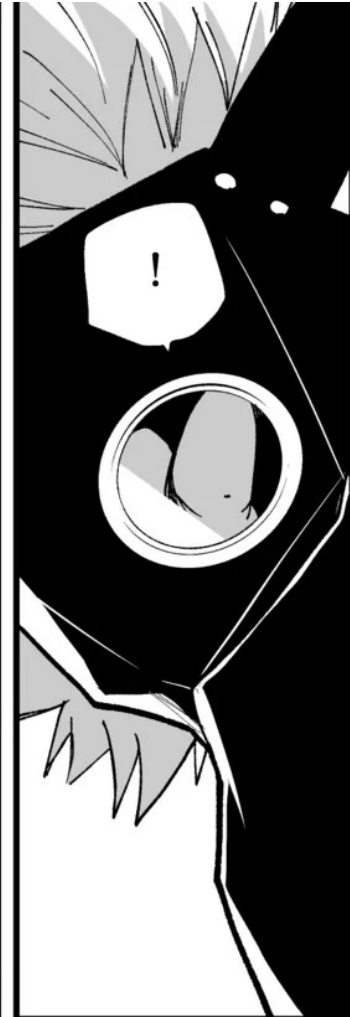












昼だあ？
今何時だと思ってんだ
なんでもっと早く
言わねえ

言おうと思ったよ！

でも
先生がユカリと
話してたから

……

とりあえず
床に転がってねえで
こっちで寝てろ

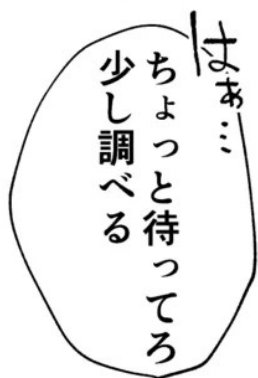
ほっとけよ！
こんなんただの
風邪だ！

病竜は医者
の言うこと聞け

やめろ触るな！
人間の医者だろ

騒ぐな！
安静にしろ！

うっ

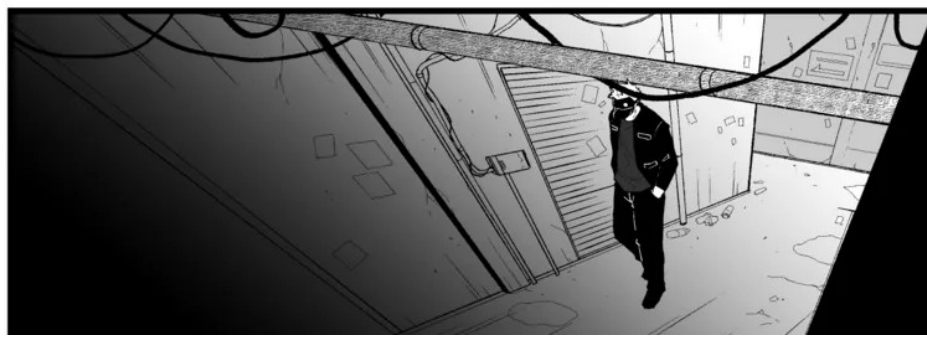


出かけてくるから
大人しくしてろよ

病竜放置して
どこ行く気だよ

さっきまで
放っておけて
言ってただろうが

薬買ってくるだけだ
すぐ戻る







風邪ですか？



今日はどうしました？

この薬が欲しいんだ



…おそろくな

これを見るに使うのは火竜の方ですね

ああわかるのか



爆発…

滅多にありませんがたまに火種が爆発することがあるんです人間の医者にしては判断が早くて上出来ですよ

熱が異常に高いでしょう火竜は体内に火種がありますから体力が落ちたことでそれが暴走してるんです



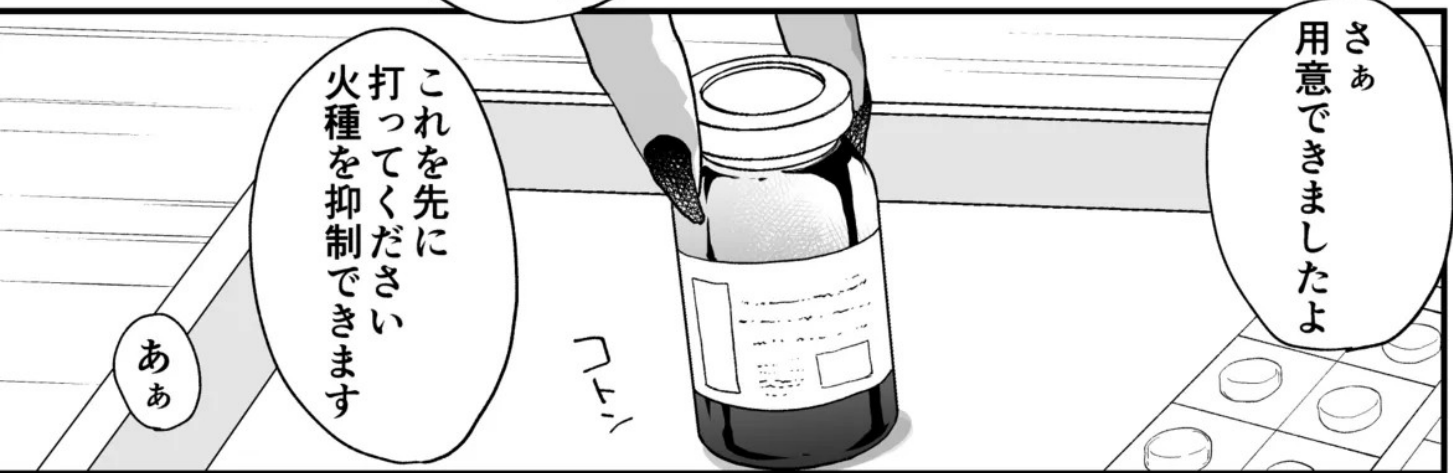
わからねえことだらけだよ竜の身体は





ええ
だから僕たちの医者
は僕たちにしかなれない

学ぶことが多すぎますから
寿命が短い人間たちには
厳しいでしょう



さあ
用意できましたよ

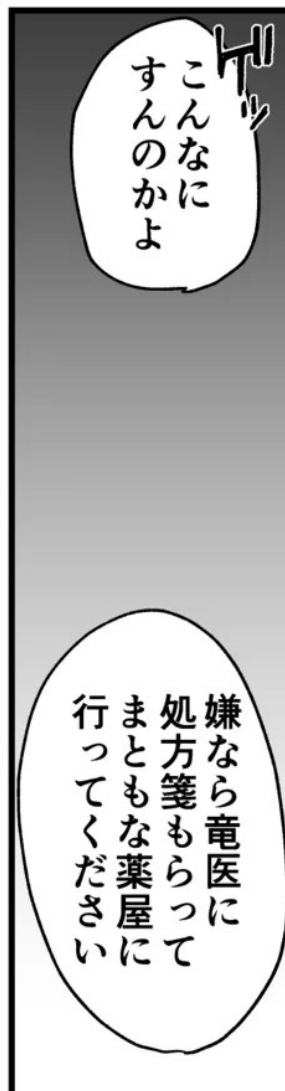
これを先に
打ってください
火種を抑制できます

ああ



わかったよ
それでいい

ありがとう
ごさいます



こんなに
すんのかよ

嫌なら竜医に
処方箋もらって
まともな薬屋に
行ってください



で
これいくらだ

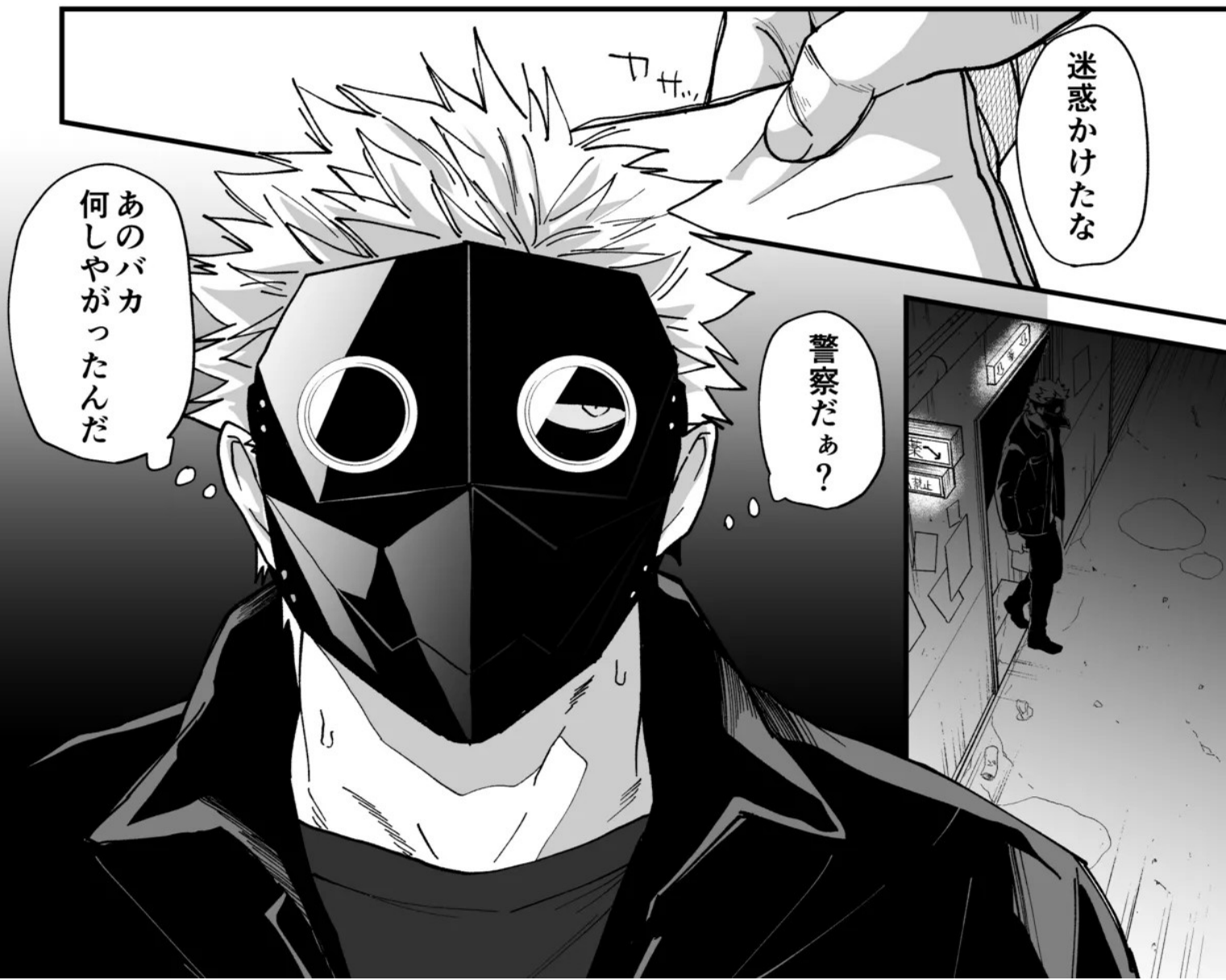
ざっと
これぐらいで



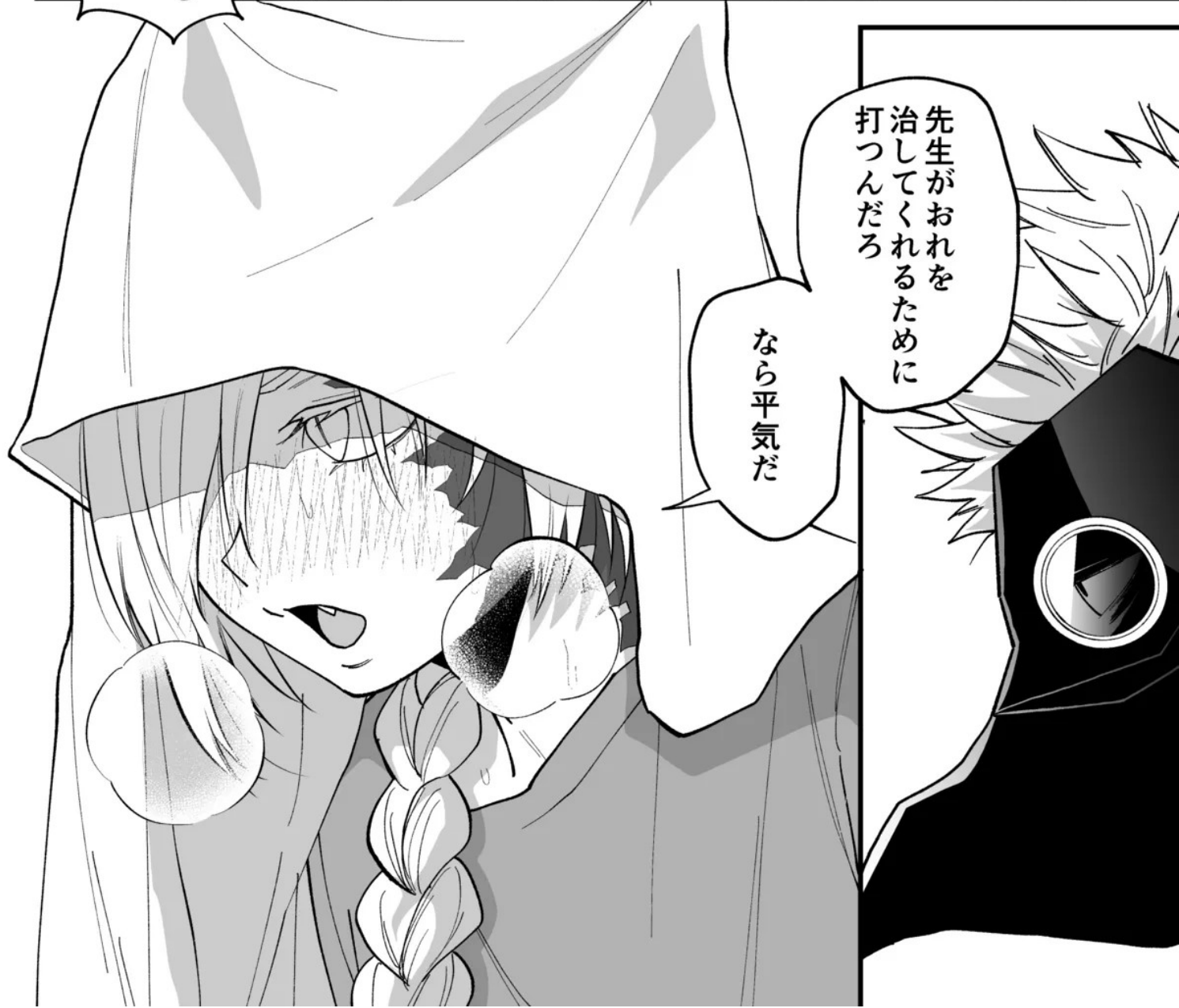
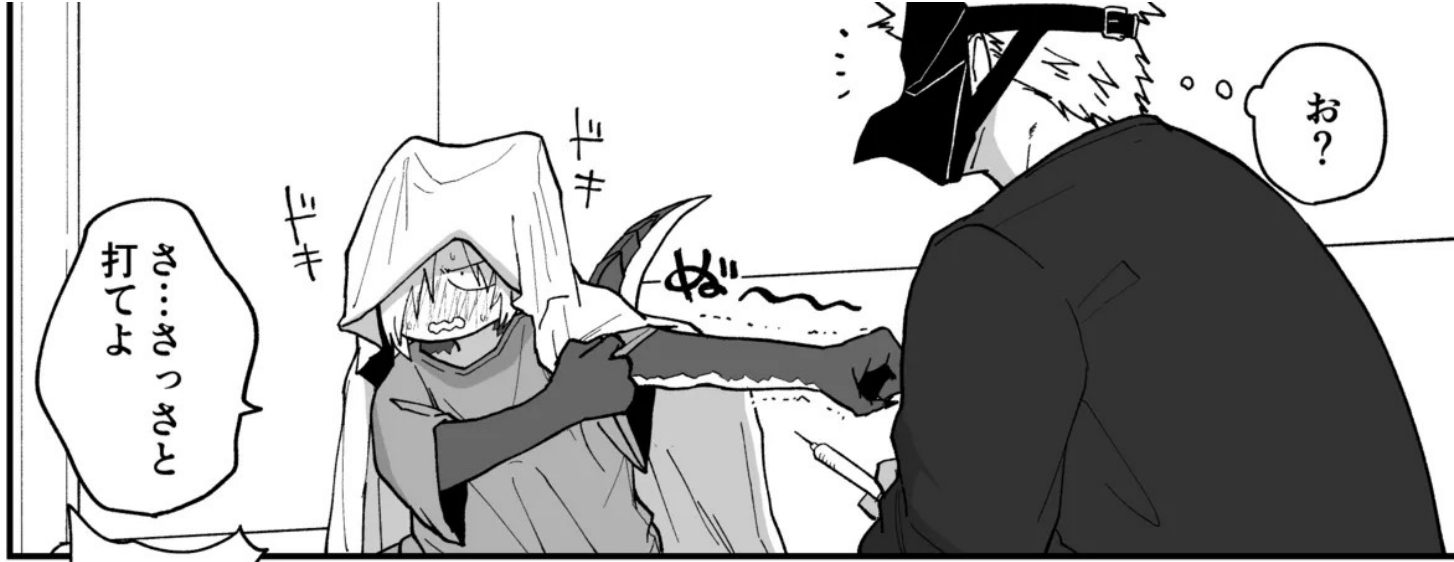
ところで人間の先生
一つお耳に
いれたいことが

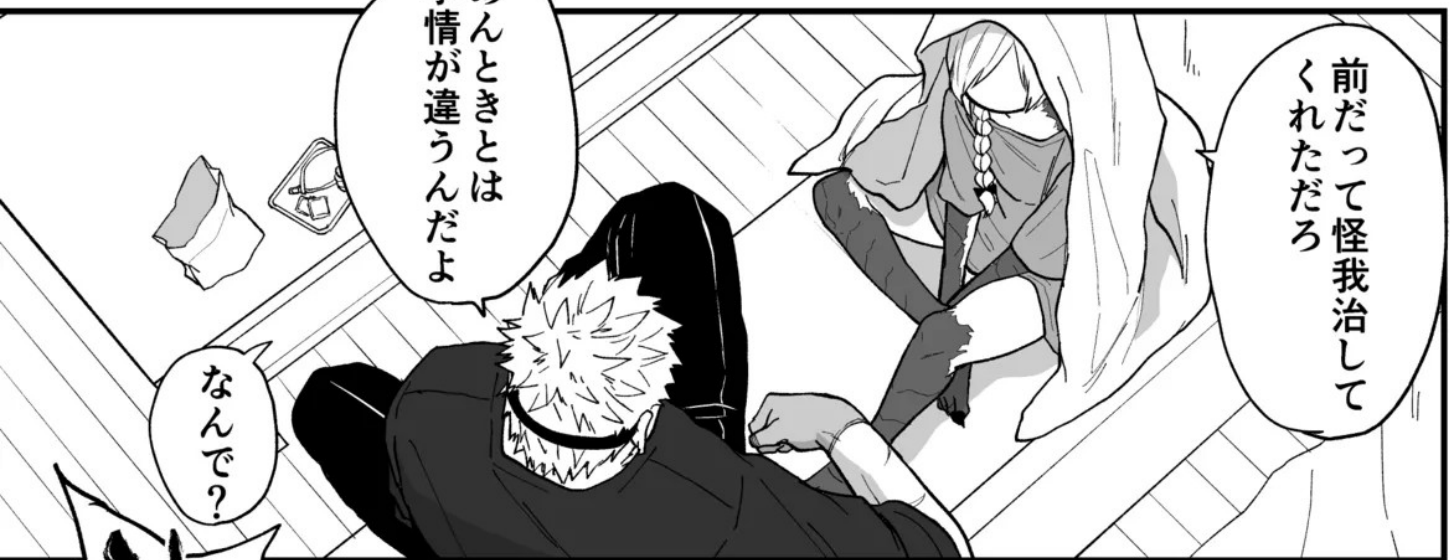
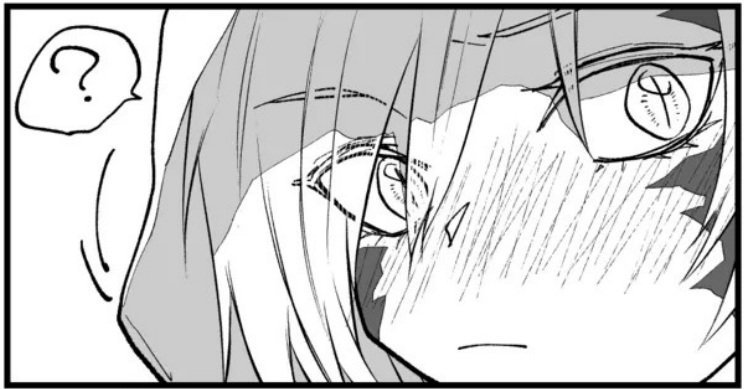
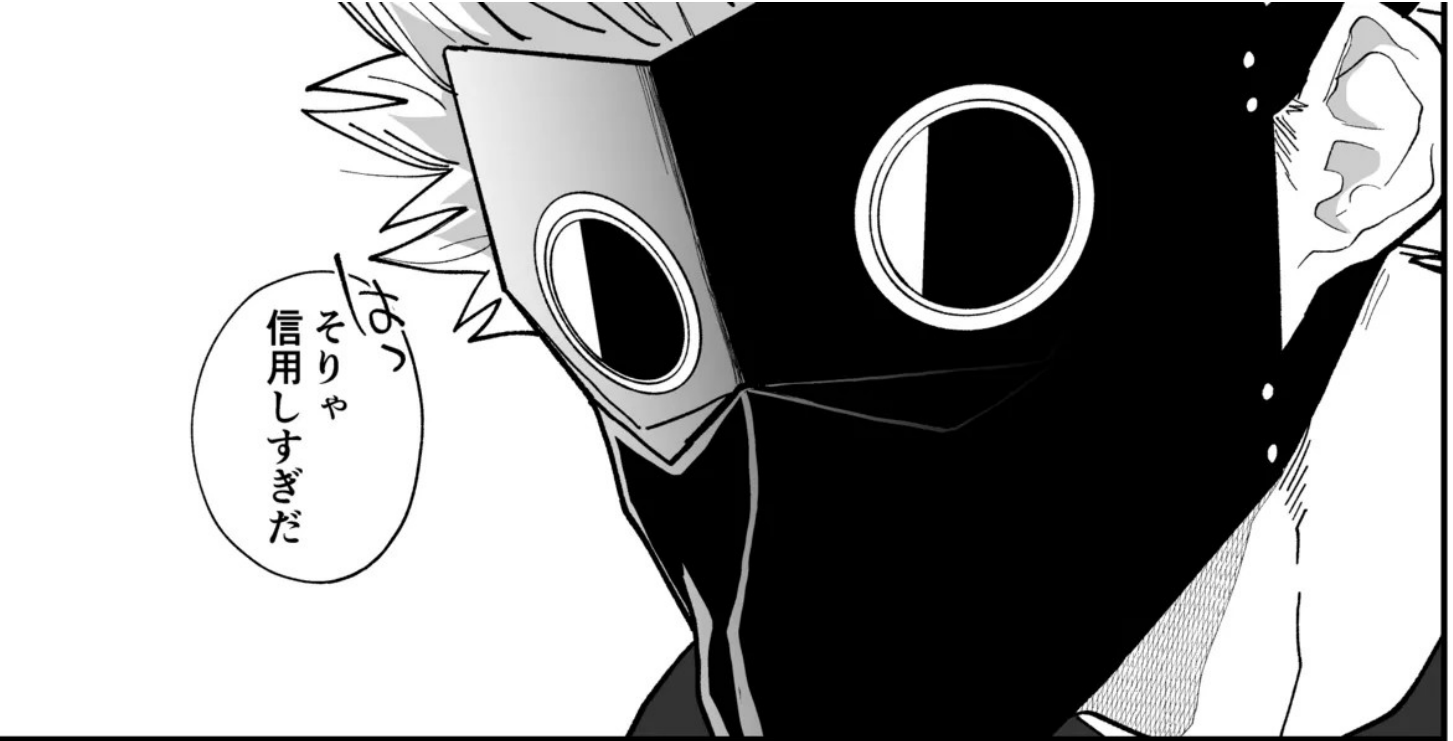
なんだ

実は少し前に
警察が聞き込み
来たんですよ

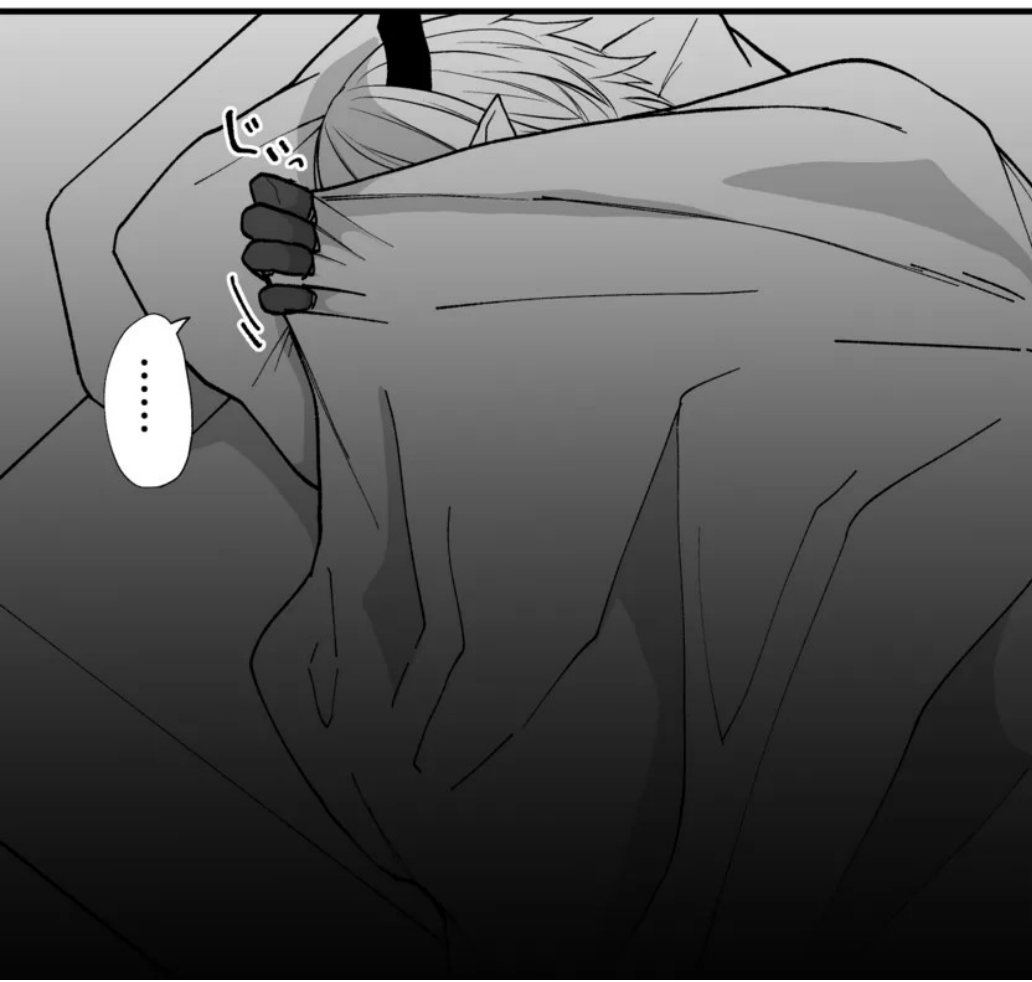
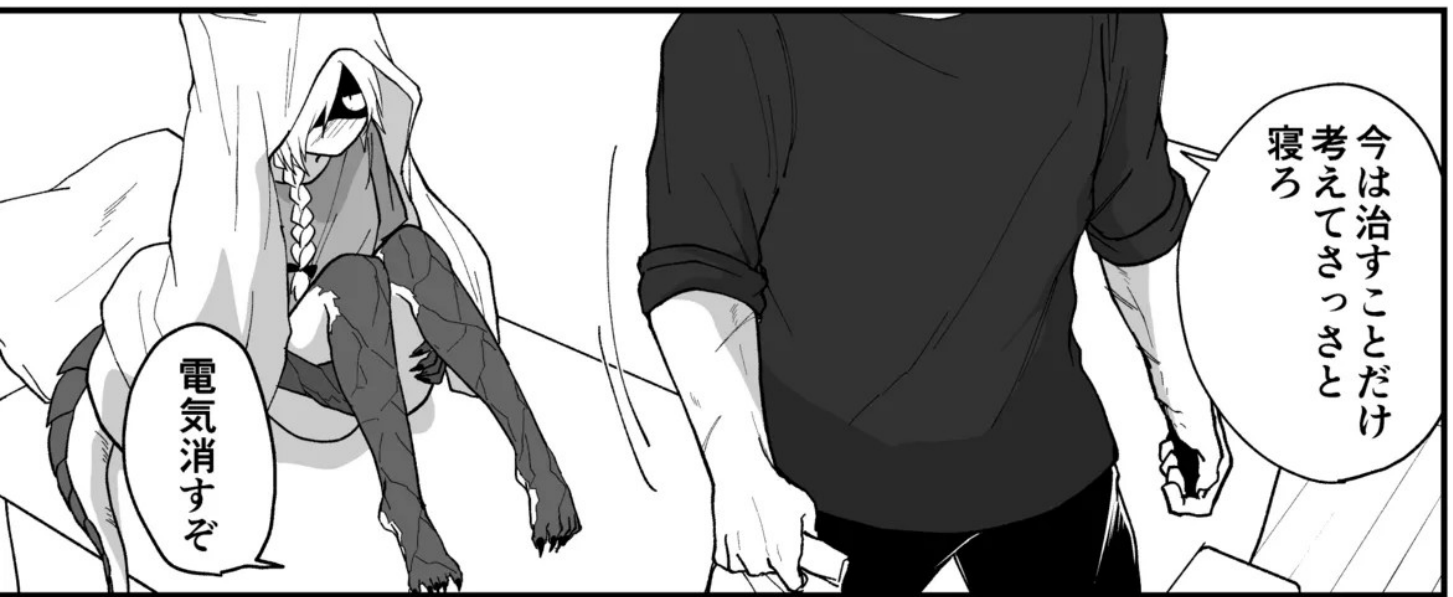
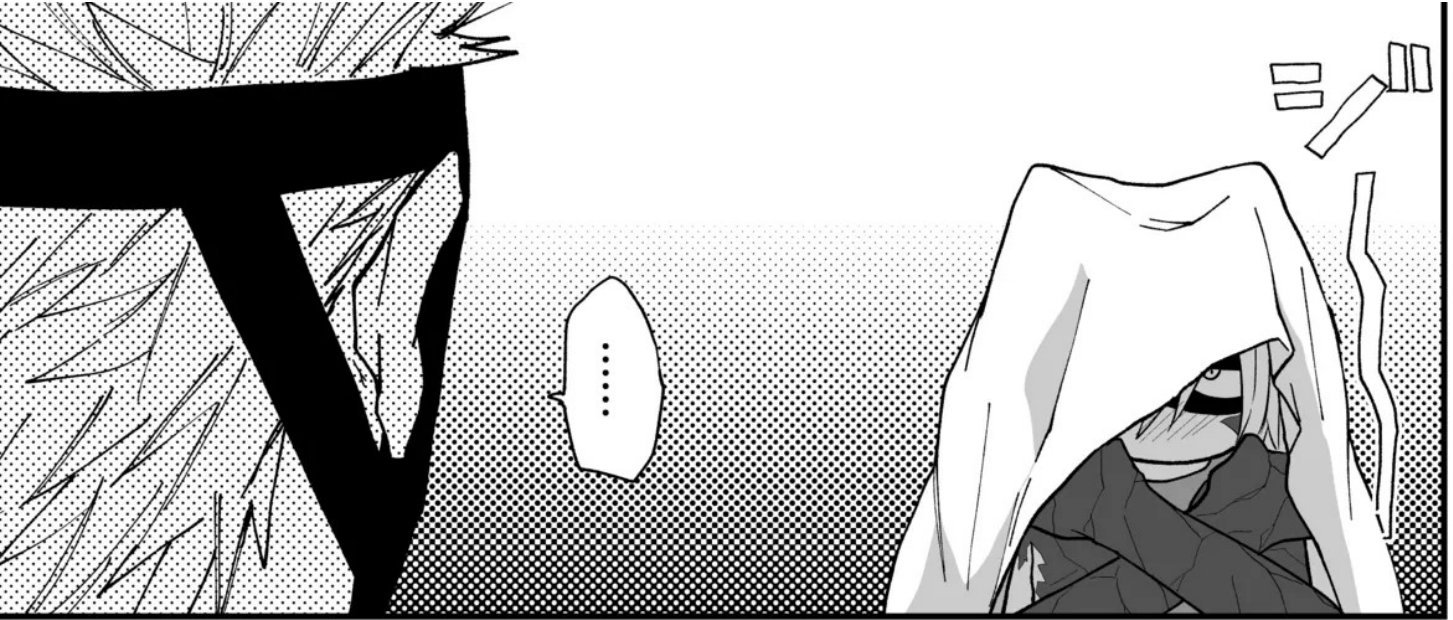


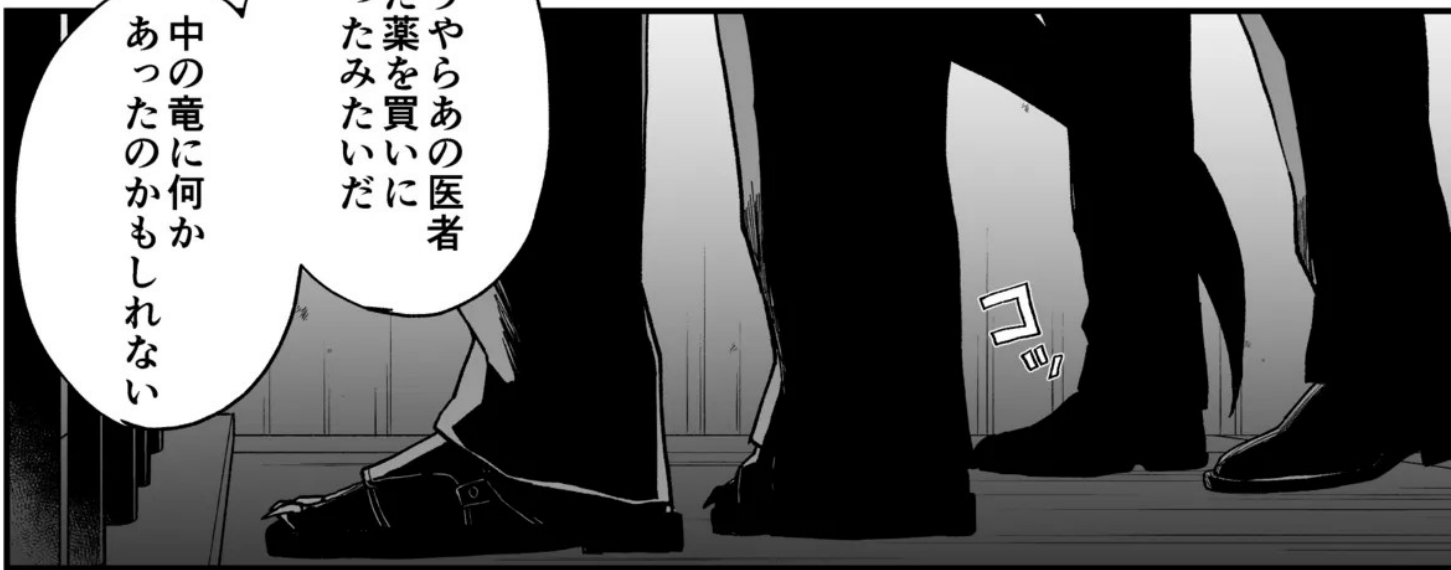
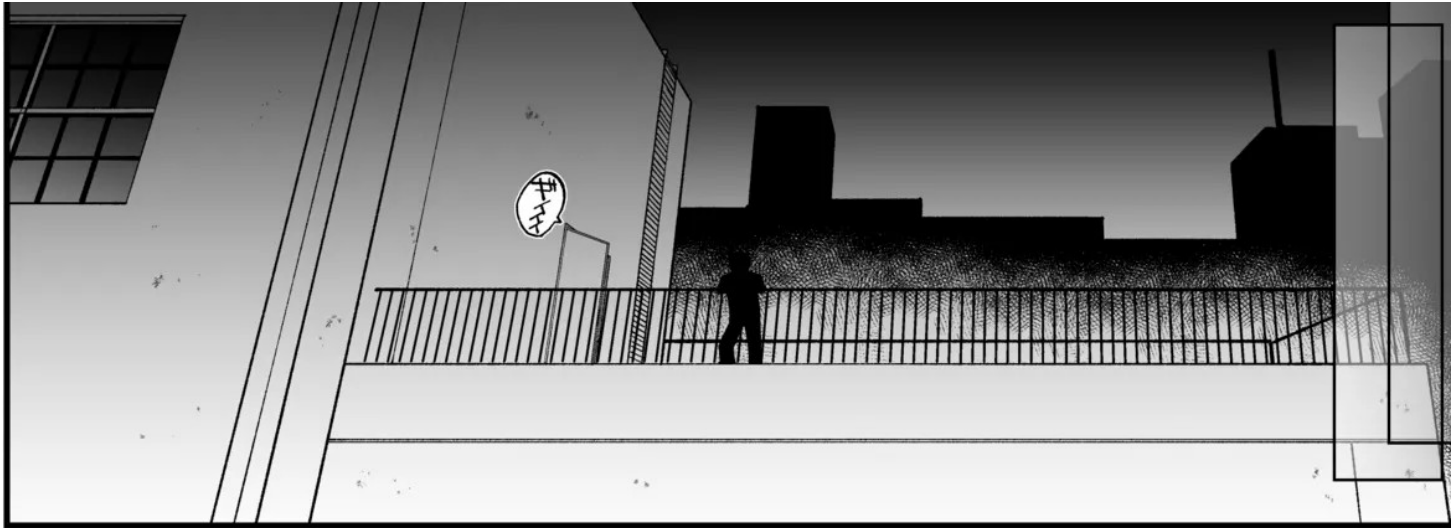


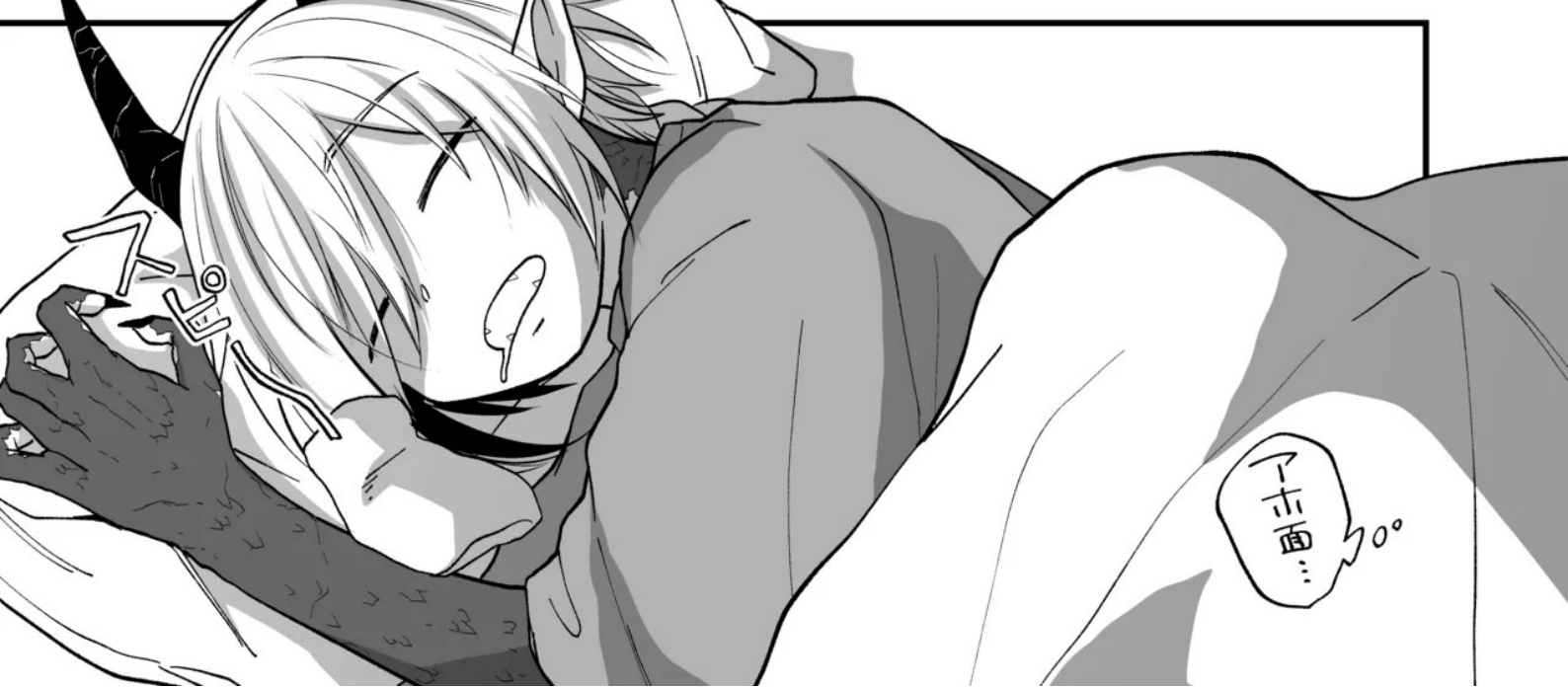








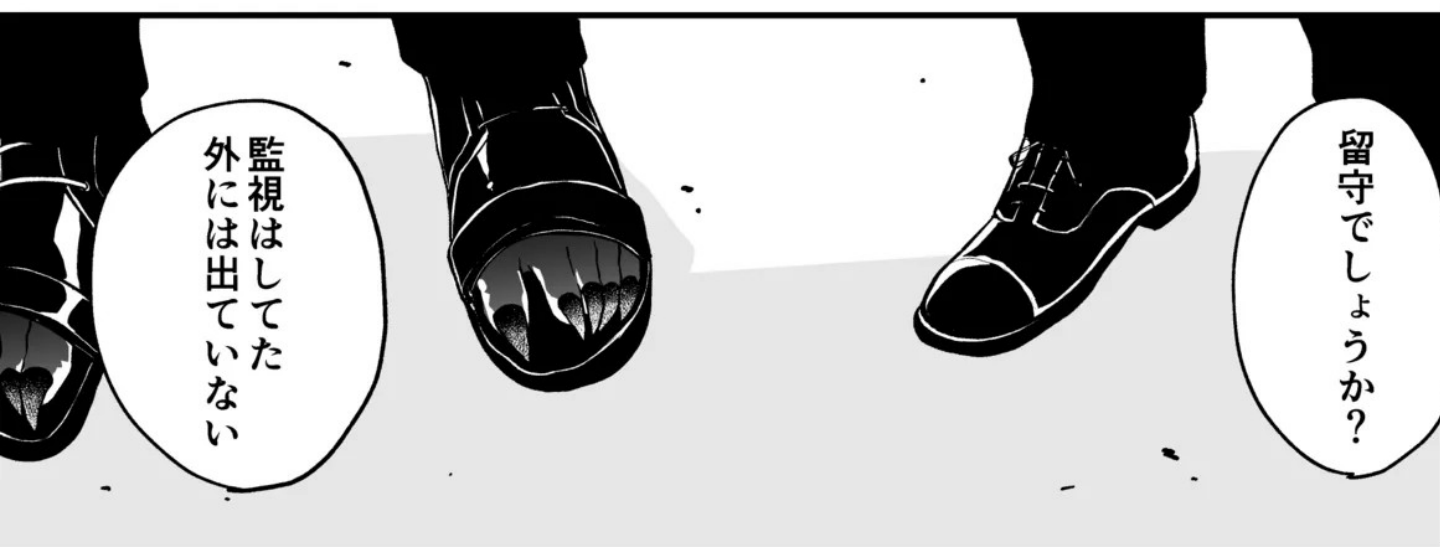






いめんどくさい



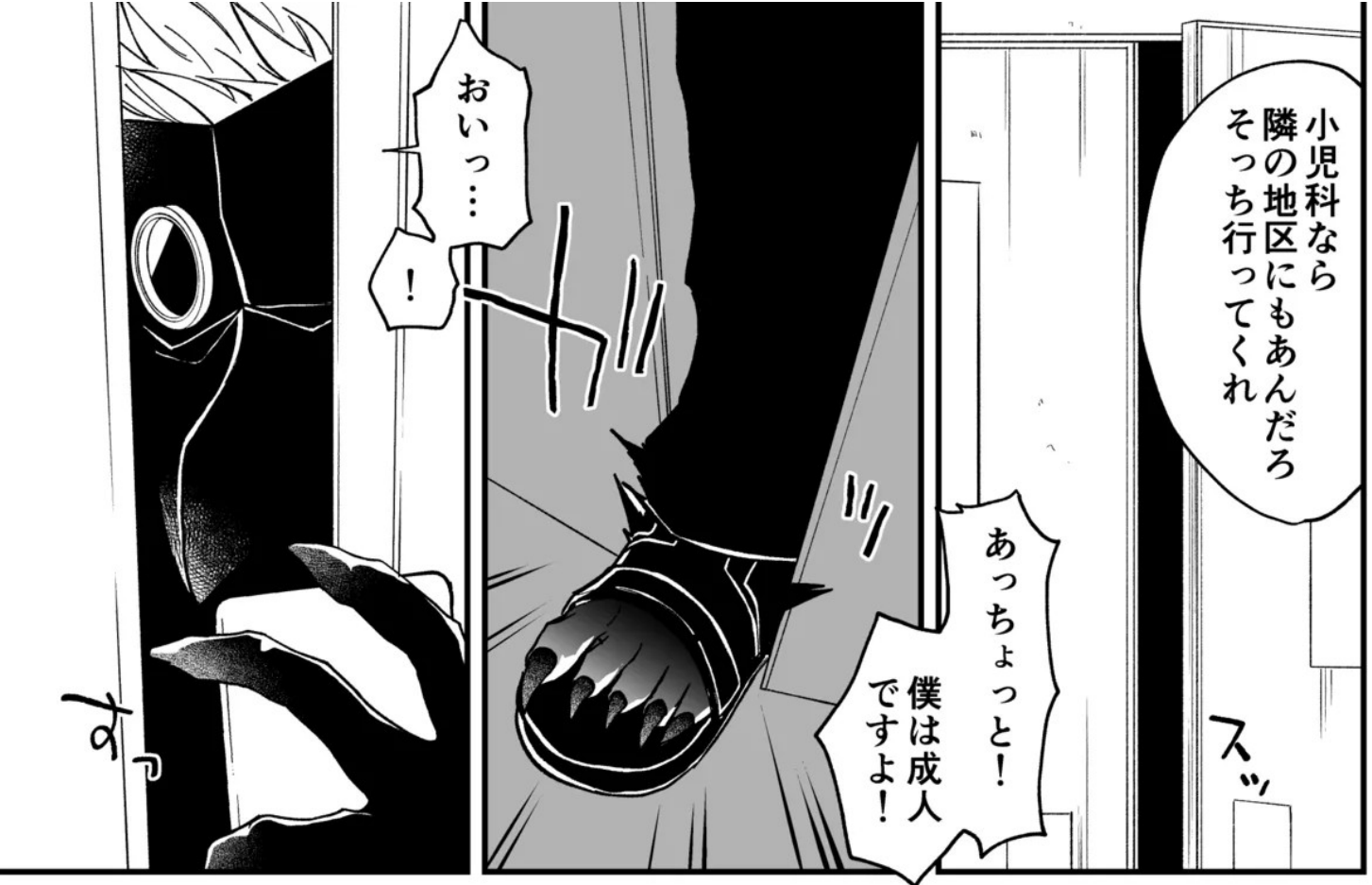




朝早くから
すみません

少しお時間
いいですか?





まったく手こずらせ
やがって

やっと静かに
なったな

人化させるなよ
依頼主はこのままの
生き胆が所望なんだ

わかってるよ



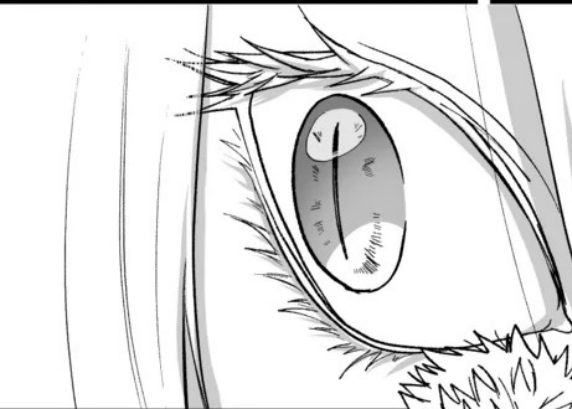




誰か来てる...？



？



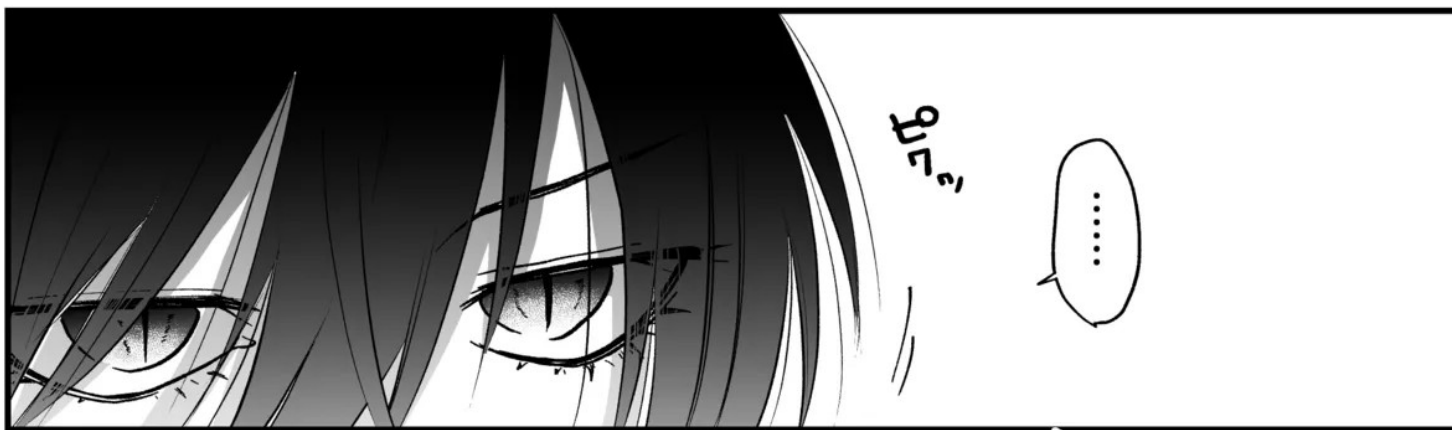
好きに
連れていけよ

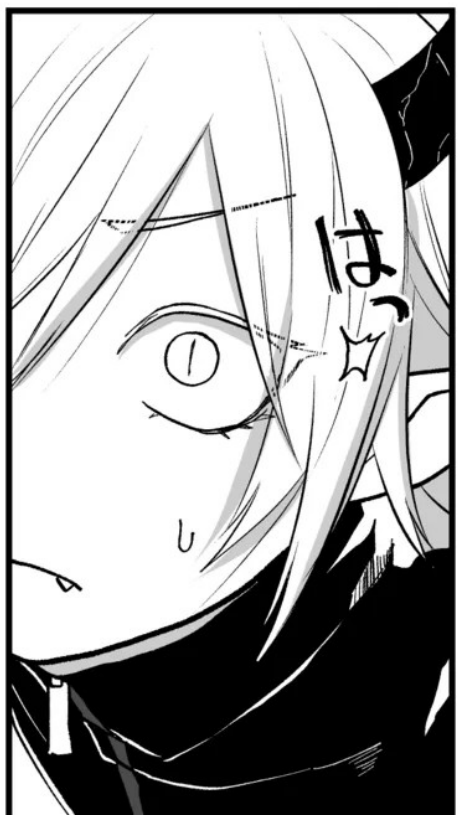
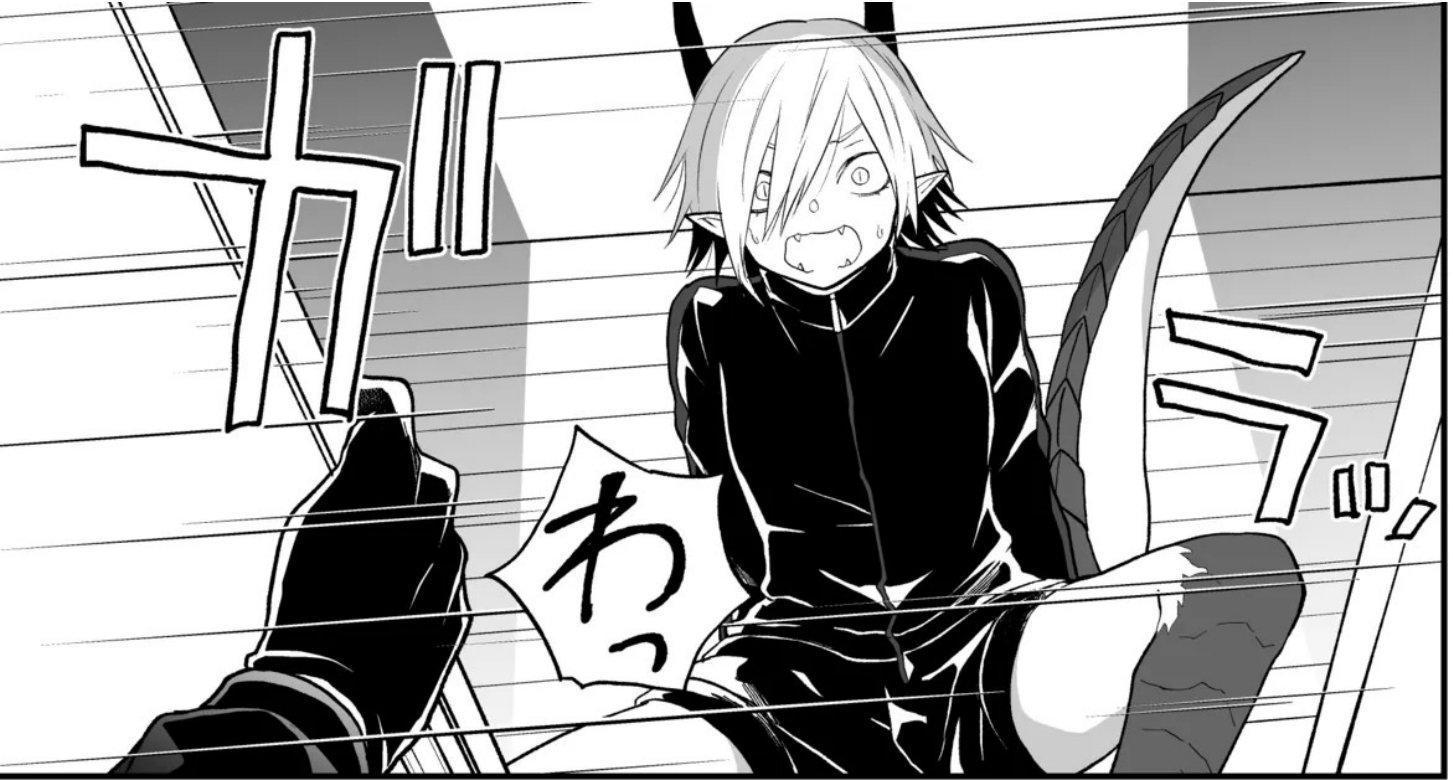


俺が反対する
理由はねえからな



へ？







なんだよそれ



立て
その人間の
了承は得ている



だけどなんで
こんな奴ら
呼ぶんだよ

こんな奴ら
。。



おれに出てって
ほしいのは
わかってるよ



先生のこと
信じてたのに







署にご同行
願えますか？
そちらでお話を
聞かせて頂きたくて



そう警戒すんなよ
ちゃんと本物
みたいだぞ
悪いようにはされ
ねえだろ



区切りつけといた
ほうがいいんじゃない
ねえの
今後のためにもな

別にそんなこと
心配してるわけじゃ…

じゃあなんだよ

…



わかったよ
行ってくるやあ
いいんだろ！

何キレてんだよ





大丈夫ですよ
無理はさせません

終わったらちゃんと
こちらに送りますので
心配しないでください
ハイ

別に心配してる
わけじゃねえよ
医者として
言ってるんだ



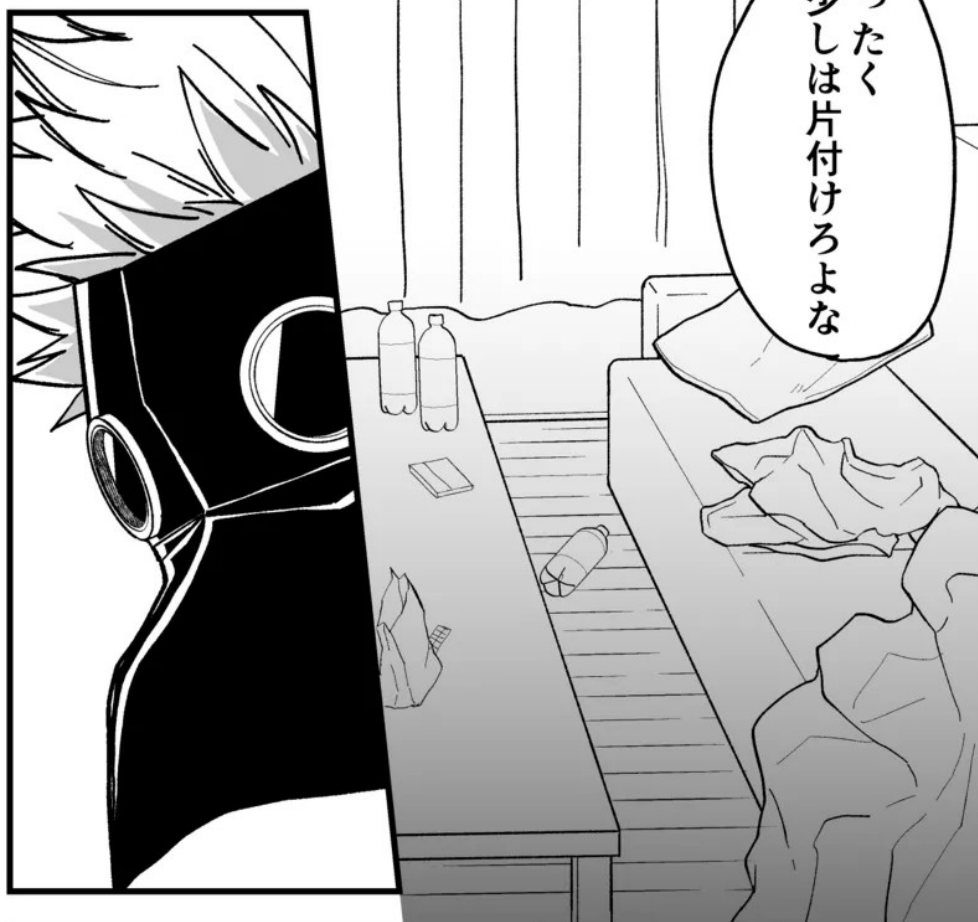
鴨四田！
早くしろ！

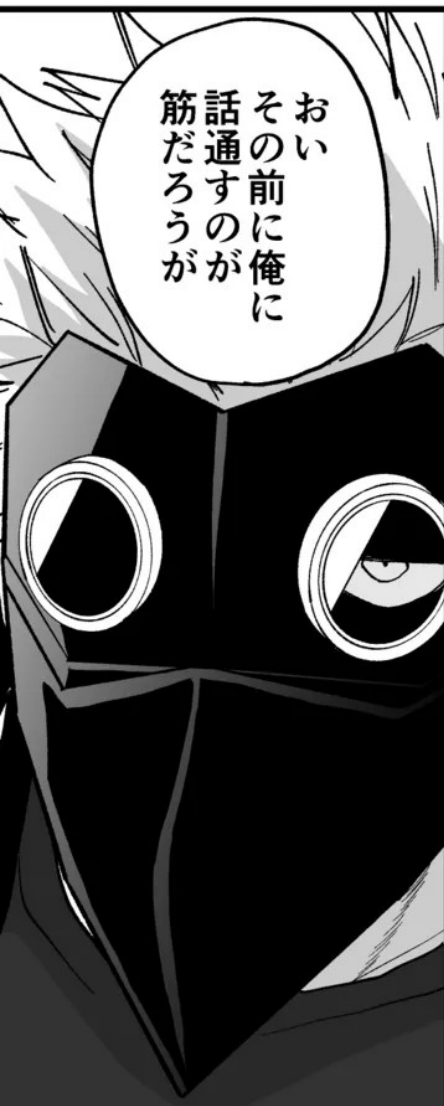


はいはい
今行きますよー

……

た-た-た







ところで
鴉谷さんは
彼女とどうい
う関係でしょう
か？

どうい
う関係
って
もな
あ…

あの馬鹿が空から
落ちてきたんだよ
怪我してたから
そのままここで
治療して

今は治療費返済
させるために
ここで働かせてる

嘘は言
つて
ねえ
よな

なる
ほど



なんだ
用なしにな
ったら
捨てるのか？

何？

でもまあソレも
最近終わってな
そろそろ出
いかせる



…スマン

僕に任せたらなら
口出ししないで
ください！



二度目ですよ！
やめてください！



こいつ
厄介だな



そこで被疑者たちの
取り調べの結果彼女の
存在がわかったんです

先日とある
犯罪組織の人間を
逮捕しました



すみません
話を元に
戻しますね

僕たちは主に
竜族の方たちが
関わる犯罪を
捜査しています



彼女は身体の売買を
目的とした組織に
捕まっていた
ようなんです



……
ああ
そりゃあな



貴様も医者なら
よくわかってるだろ

法律で禁止された今も
闇ではそういった事が
後を絶たない



竜は全身金に
なるからな



なにしろ
彼女のおかげで
事が発覚したと
言っても過言では
ないですからね

は？

組織のアジトに
捜査が入ったときには
すでに彼女は逃げ出した
後だったのでずっと
存在を探していた
んですよ



余計なことは
話すな

それで通報が
入ったことで
事件が表沙汰に

逃げ出す際に
盛大に暴れてくれた
みたいでアジトだった
建物は半壊



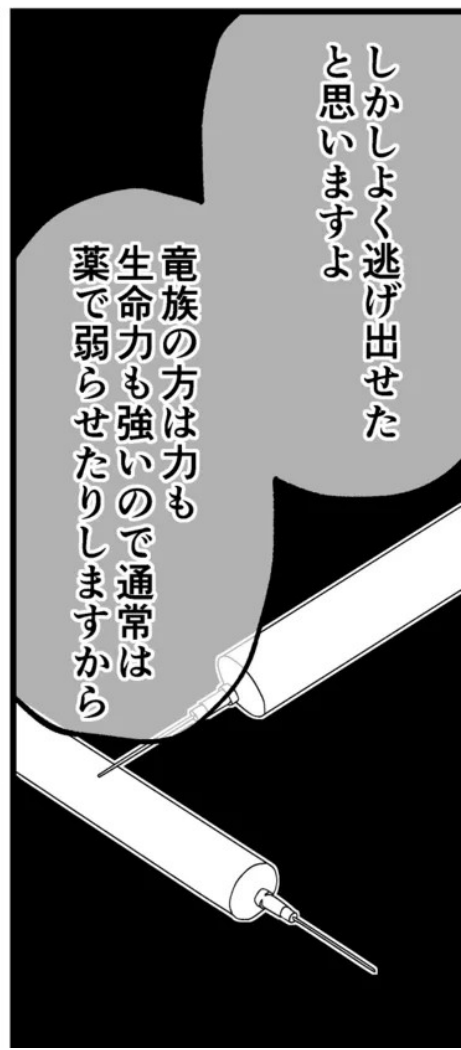
おそらく逃げ出した日に
鴉谷さんと出会った
んでしょうね



そういったわけで
今日はその件に
関してのお話を
聞きに來たんです



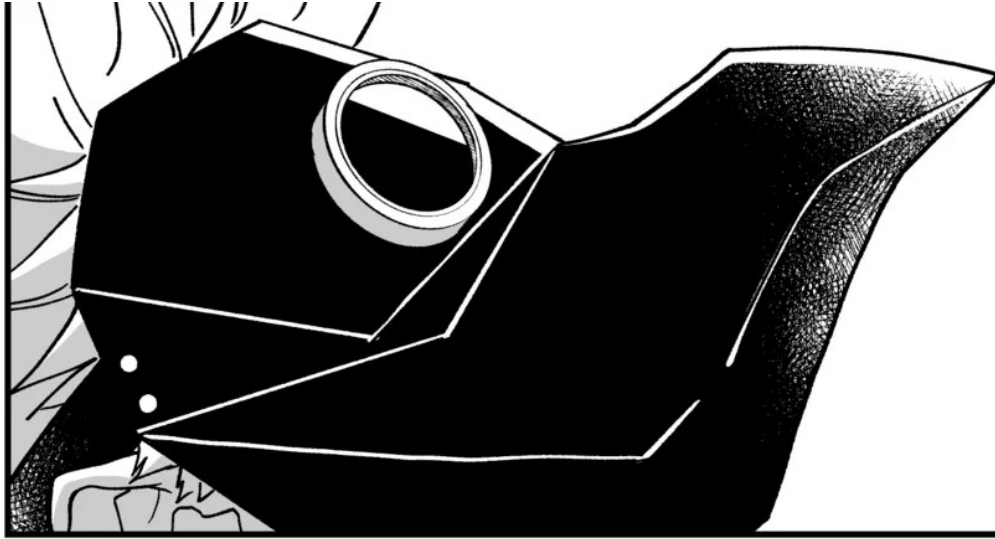
：注射の類を
嫌がるのも
その影響か？



しかしよく逃げ出せた
と思いますよ

竜族の方は力も
生命力も強いので通常は
薬で弱らせたりしますから





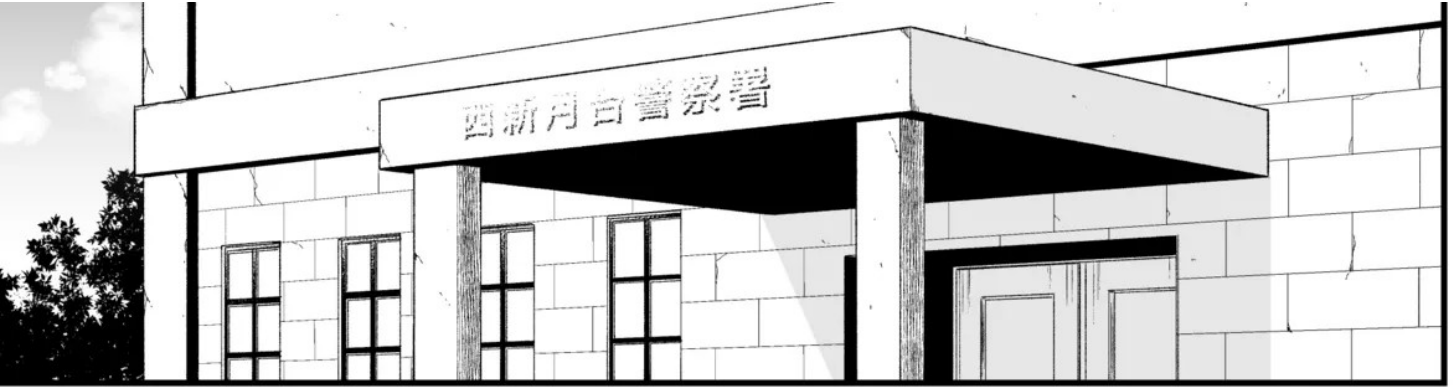
だったら尚更
こんなとこに
いるべきじゃ
ねえだろうが



先生のことに
信じてたのに



めんどくせえもん
拾っちゃったな







なんで
そうなるんだっ
誰が帰るか
あんなところ！

大体貴様は治療費の返済
という名目であの人間の元に
いたそうだがどうやって
金を稼いでいた？

す

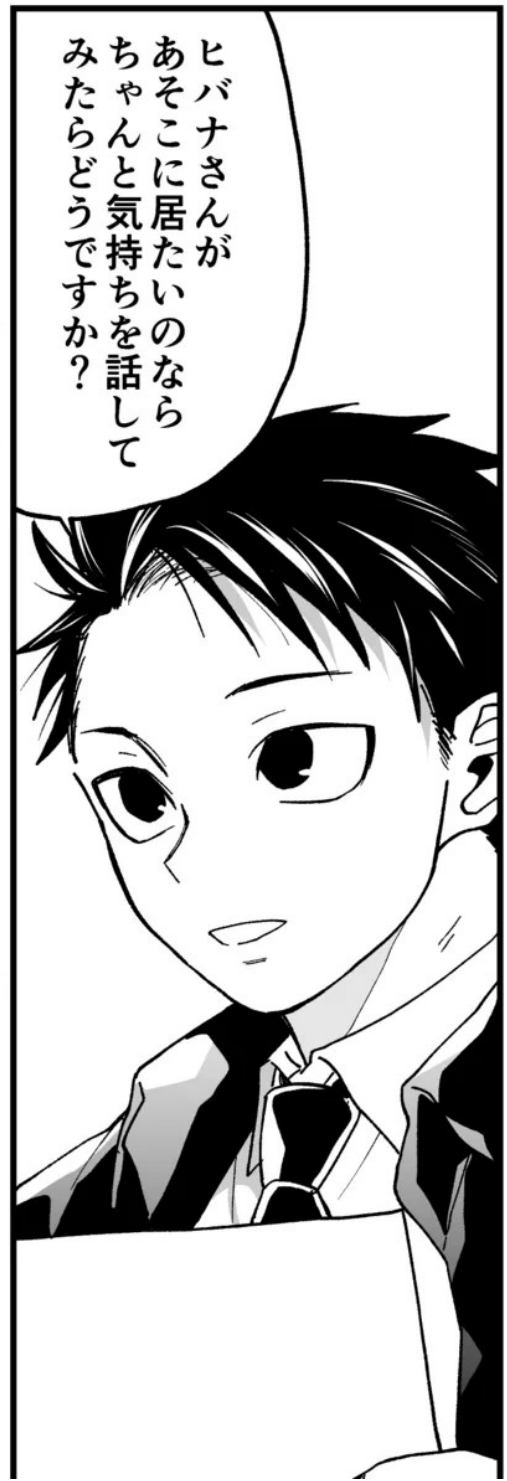
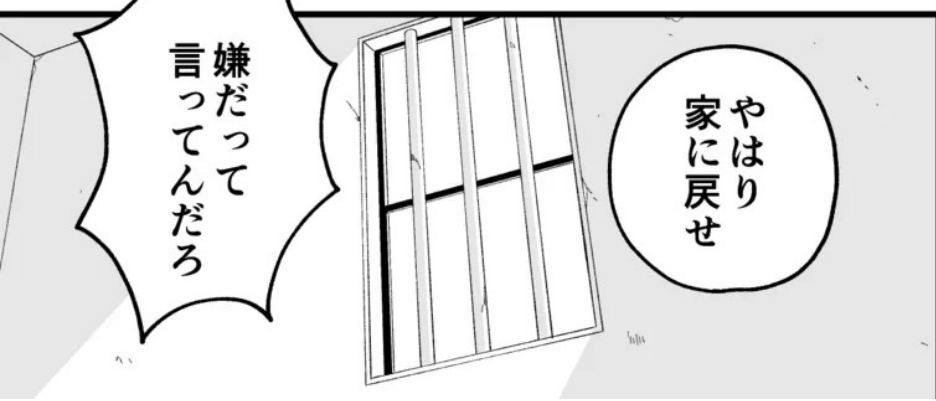
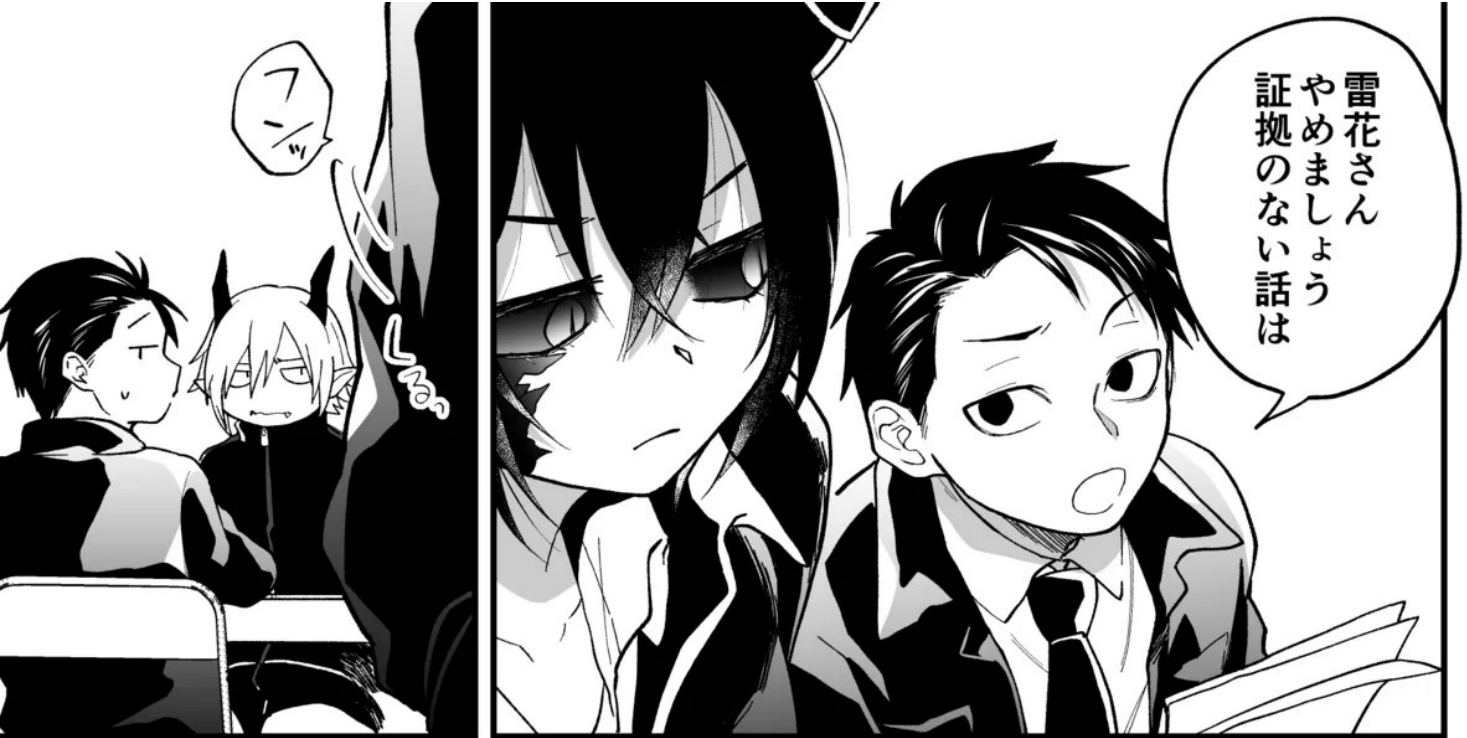
いっ

いざっ…
あ…えっと…

なんだ
言えないことか？

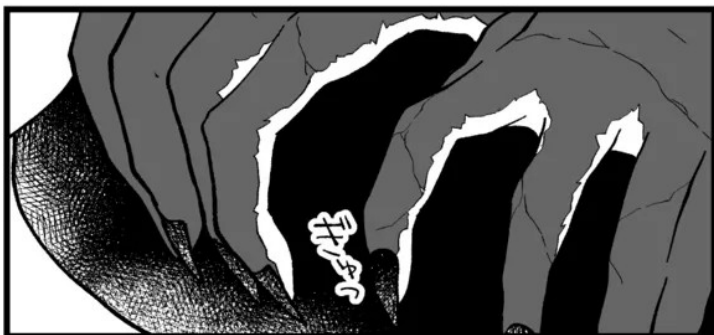
人間と深く関わっても
利用されるのがオチだぞ

先生は
そんなこと
しねーもん



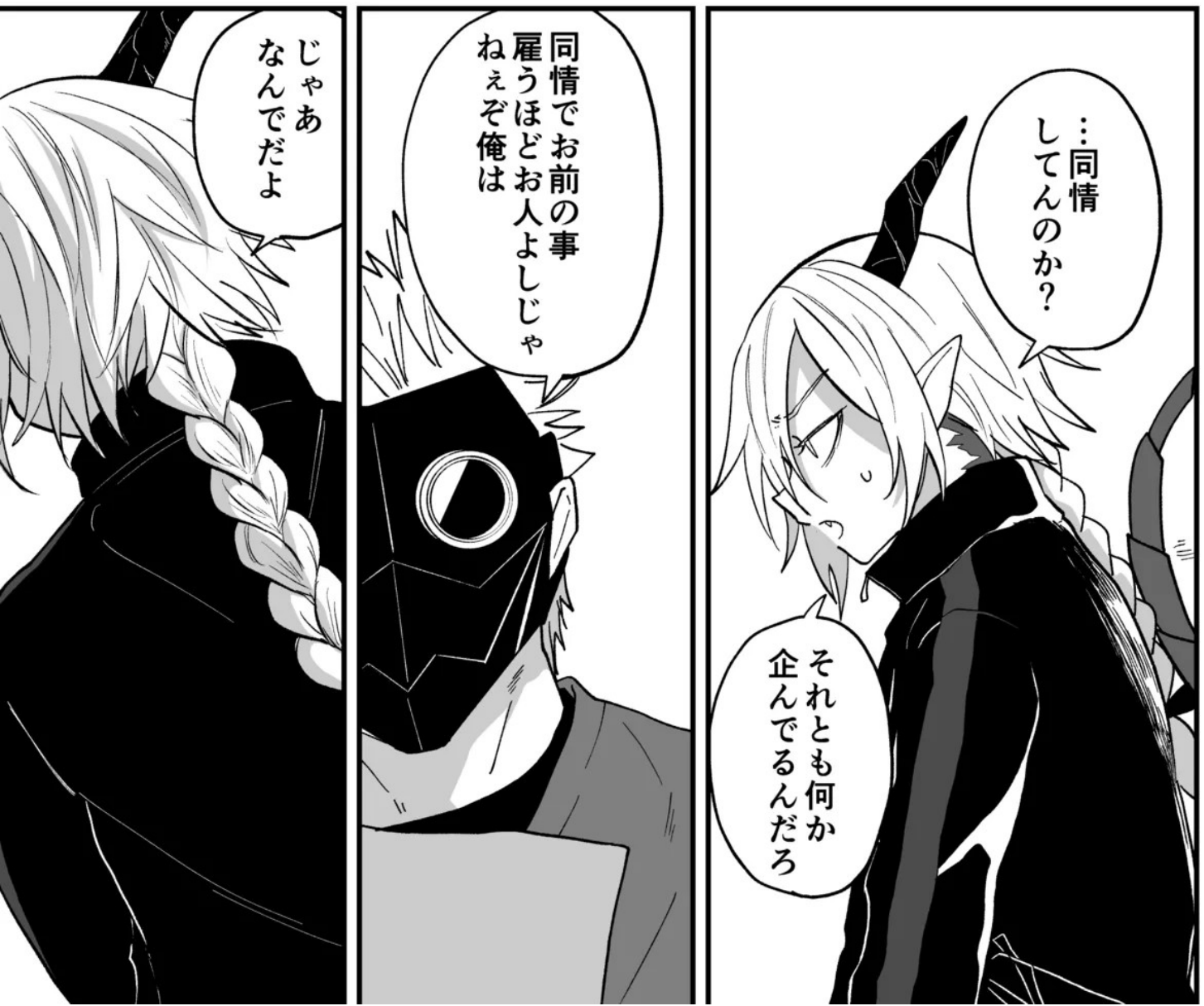
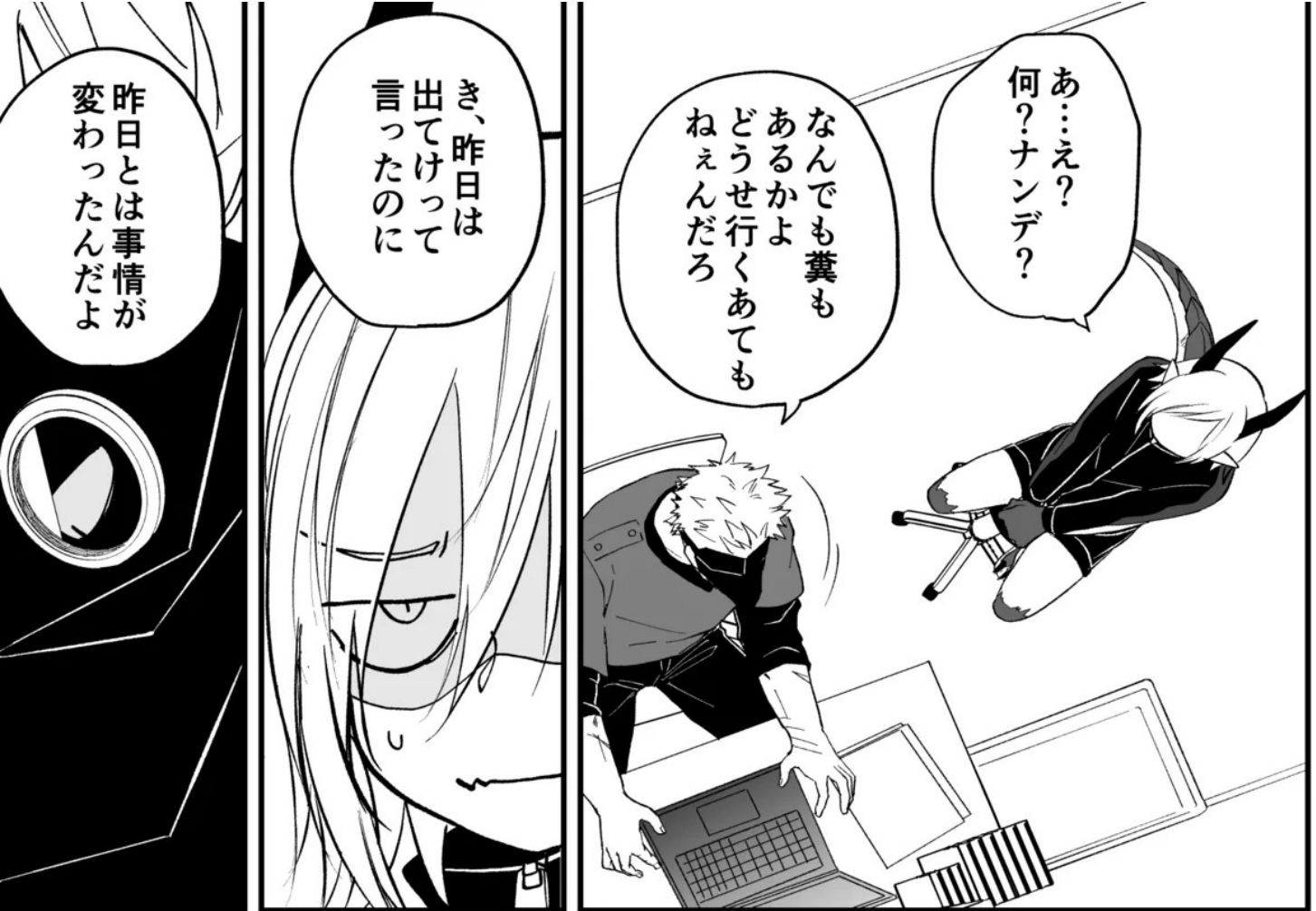












ちょうど労働力が
欲しかったんだよ

お前なら新しく
関係を構築する
手間がねえし

用心棒代わり
にもなるだろ

「二」は
治安良くねえし

ついでに遠慮なく
こぎ使える

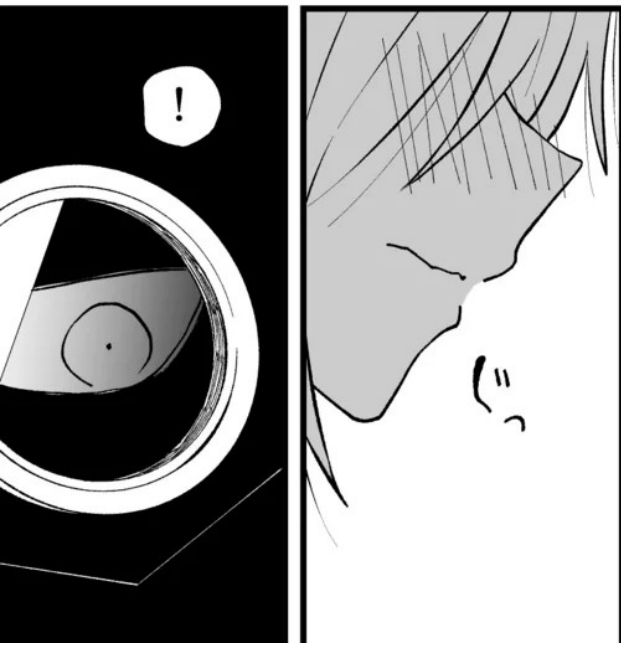
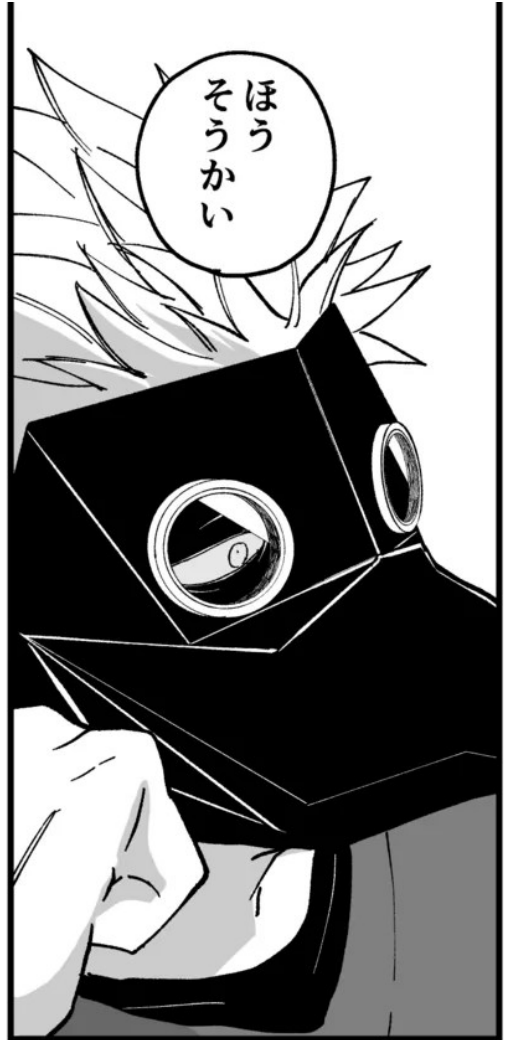
聞こえてるよ？

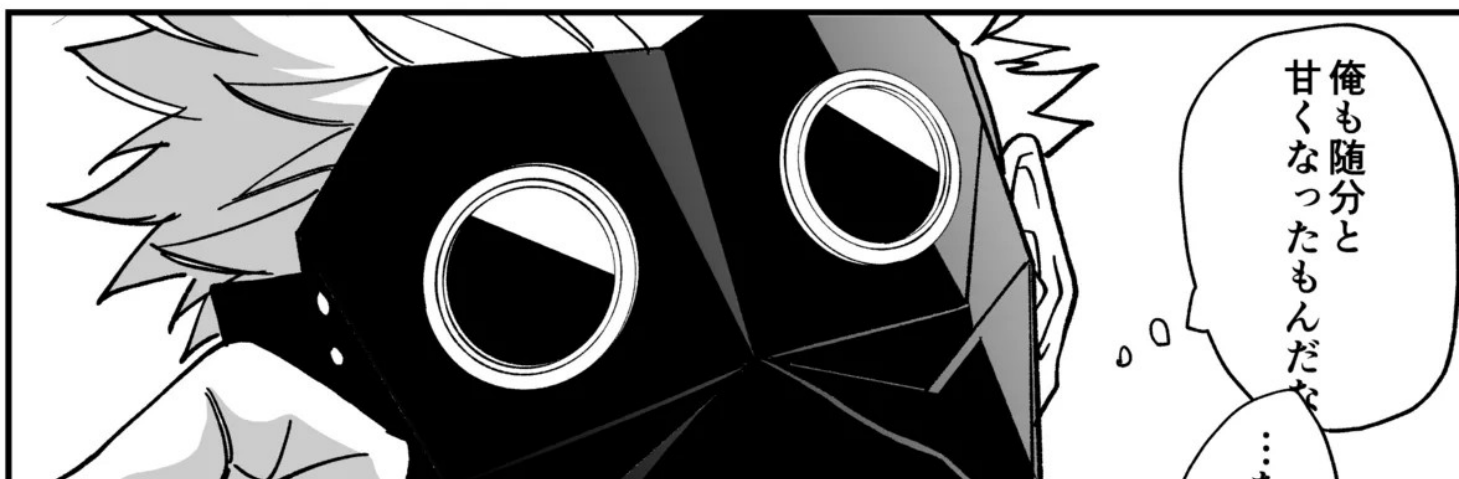
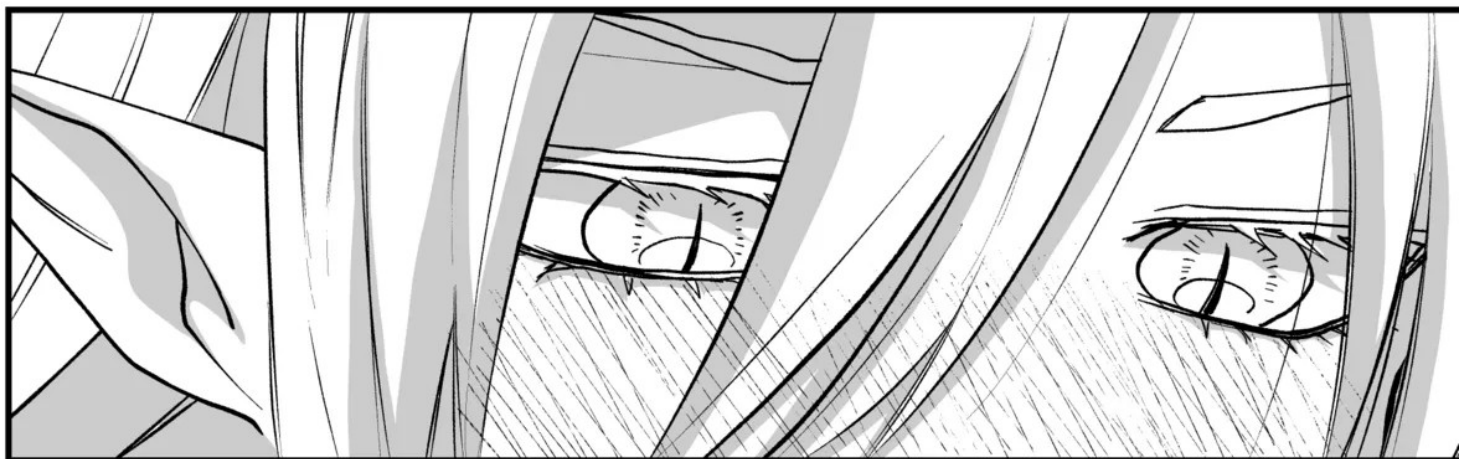
それにお前のことだ
適当に放りだしたら
また変な奴らに
捕まっちゃうだろ

てめえの命
どう使おうが
勝手だがよ

俺の苦勞が
水の泡になんのも
腹立つしな











あと昨日の薬代と
治療費のことも
あるからしばらくは
タダ働きだぞ



お前
昨日「なんでもやる」って
言ったよな

やってもらおうじや
ねえか
「なんでも」よ



おれやっぱ
出ていくよ

今までお世話に
なりました

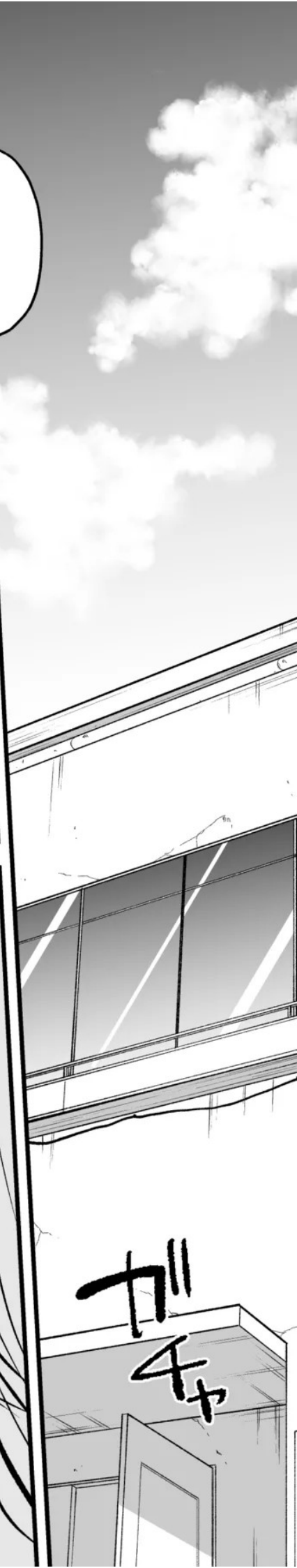
今さら
何言ってるんだ

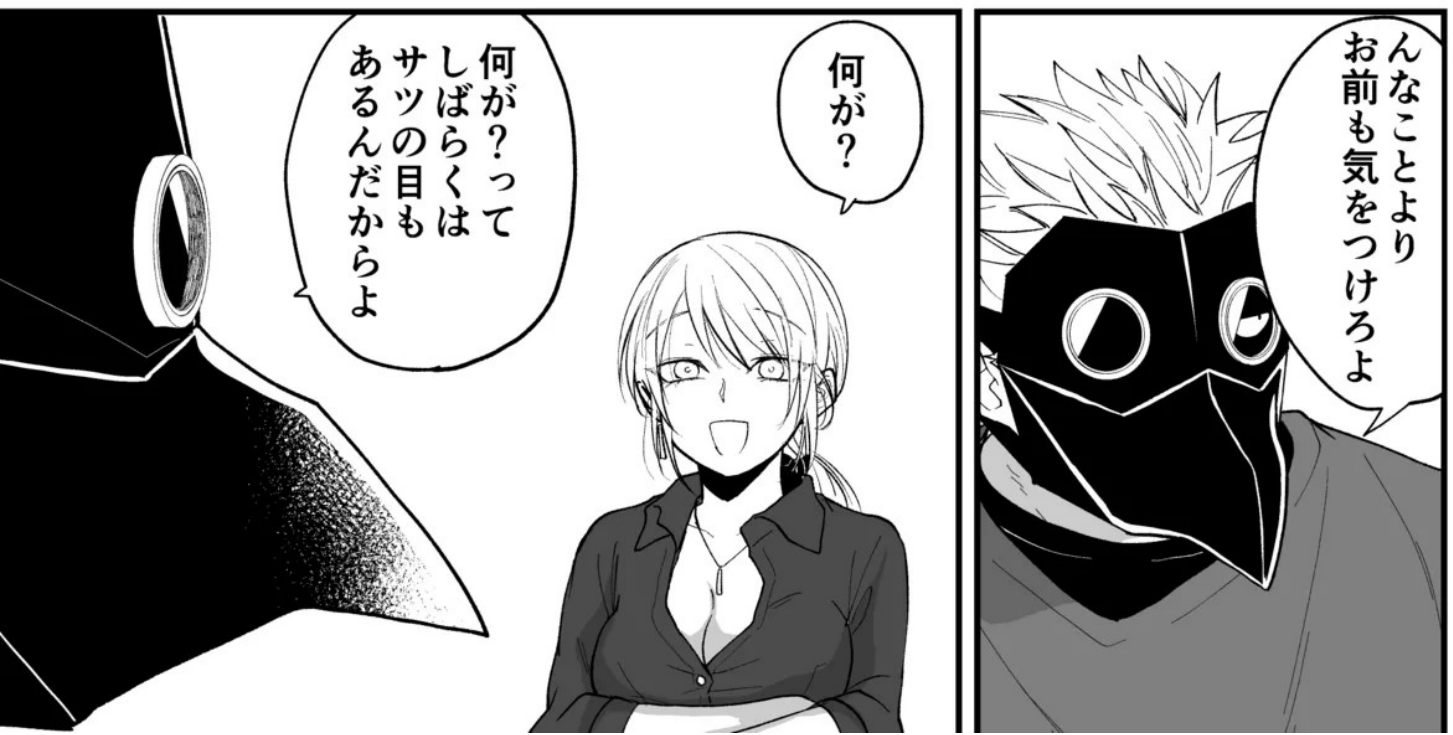
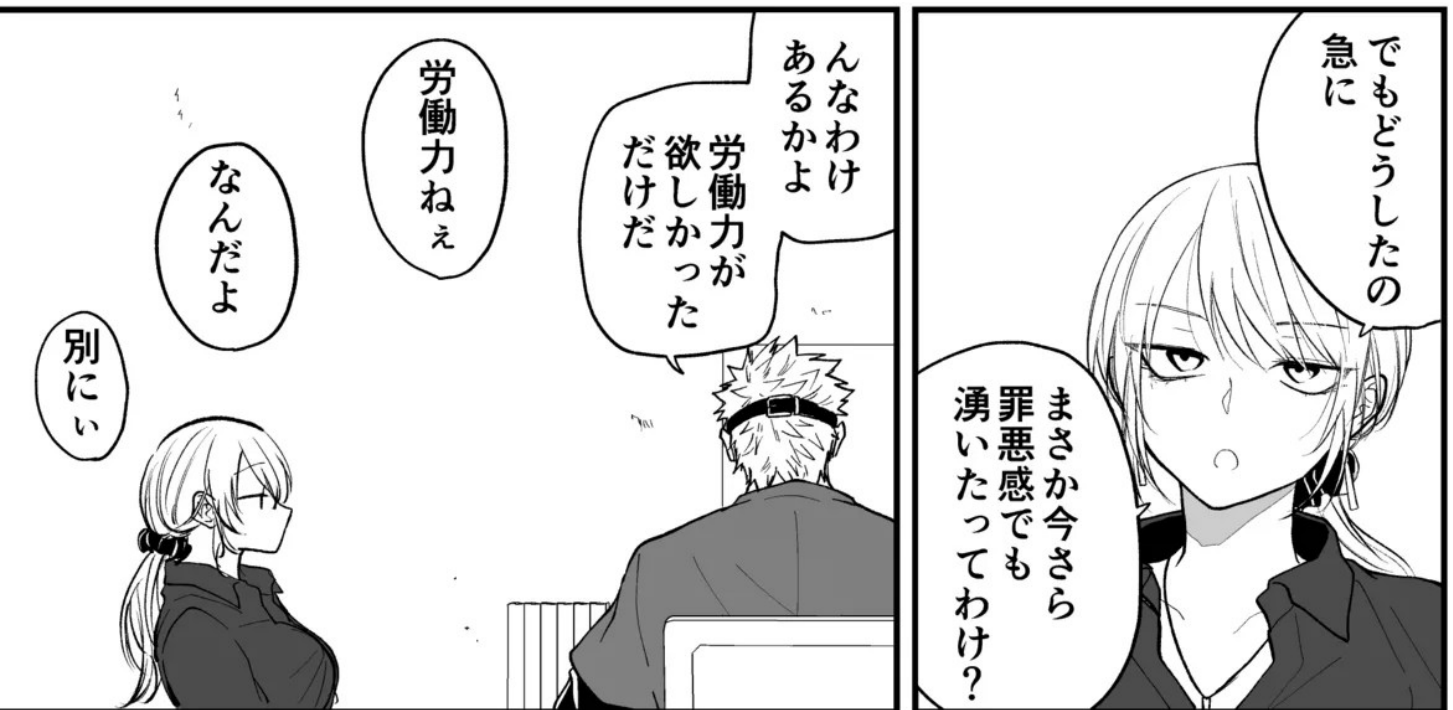
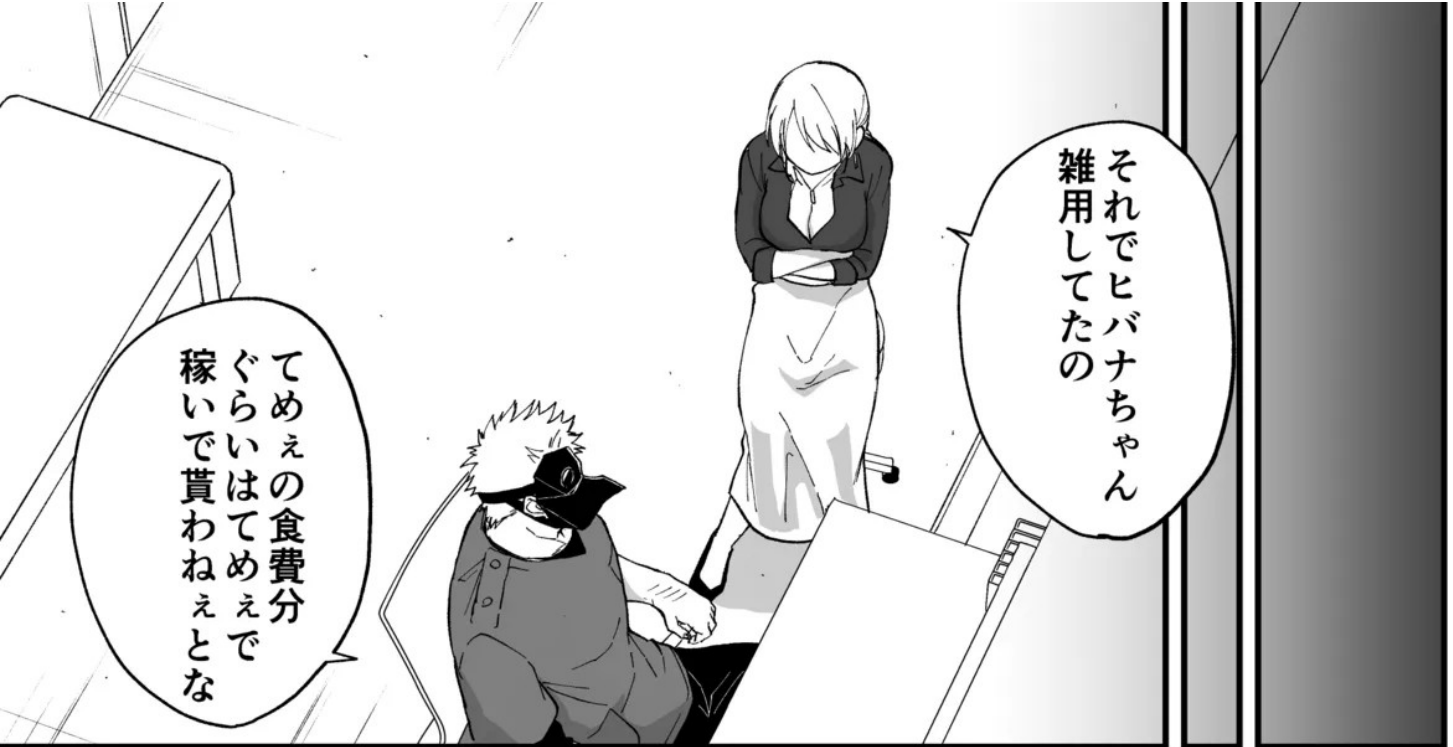
この画像
何なんだよ

これは脱出直後に
建物内の監視カメラに
映り込んでいたものを
アップにしたものです

動画のものも
ありますよ

捕まえられる
そんなら
捕まえてみな
バカ
（銃声）
キーン





足がつくような
証拠を私が残す
思う？

それに
私のお得意様はね
そんなの簡単に
握り潰せちゃう人
ばっかりなんだから

ハイハイ、でも
安心しなさい

でもアンタが
降りるっていう
んだから私も
しばらくは大人しく
してるわ

……



疲れた
ちよつと休む…

おい
何やってんだ



先生
掃除終わったよ

ザンザン













そーいやこの街
出歩いたのも
初めてだなあ
今度案内してよ

嫌だね
俺は忙しいんだ

えー
いつも暇そうに
してるくせに

うるせえ

つーか
起きたなら
降りろよ

は
なんか
いい気分

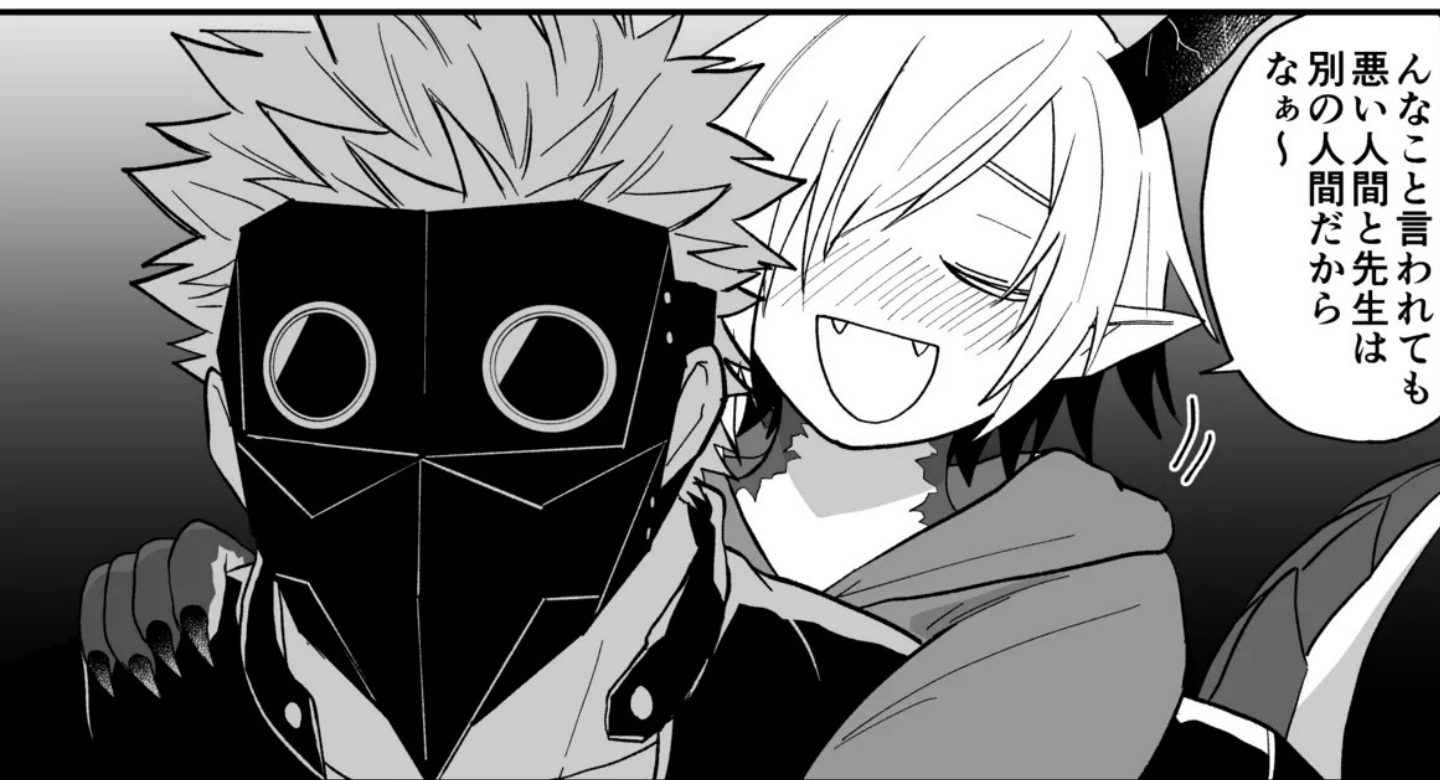
これから
毎日楽しく
なりそーだなあ

聞けよ

まったく
つくづく変な竜だよ
お前は

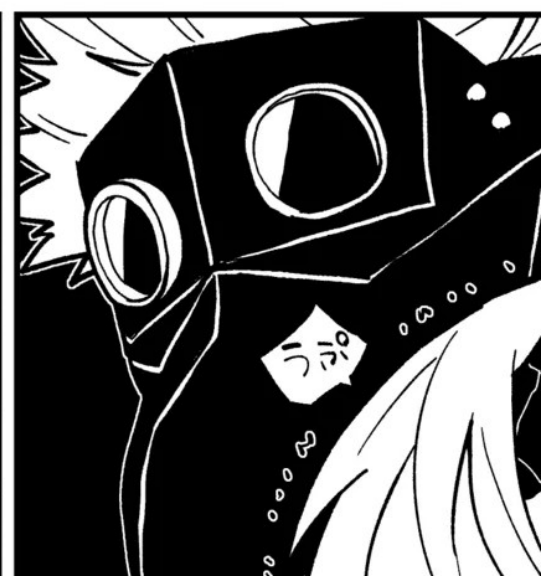
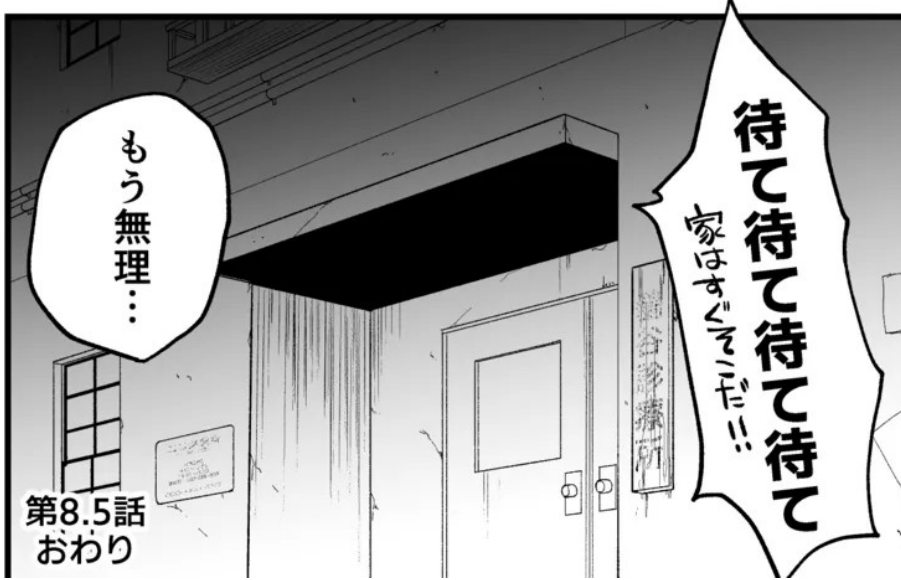
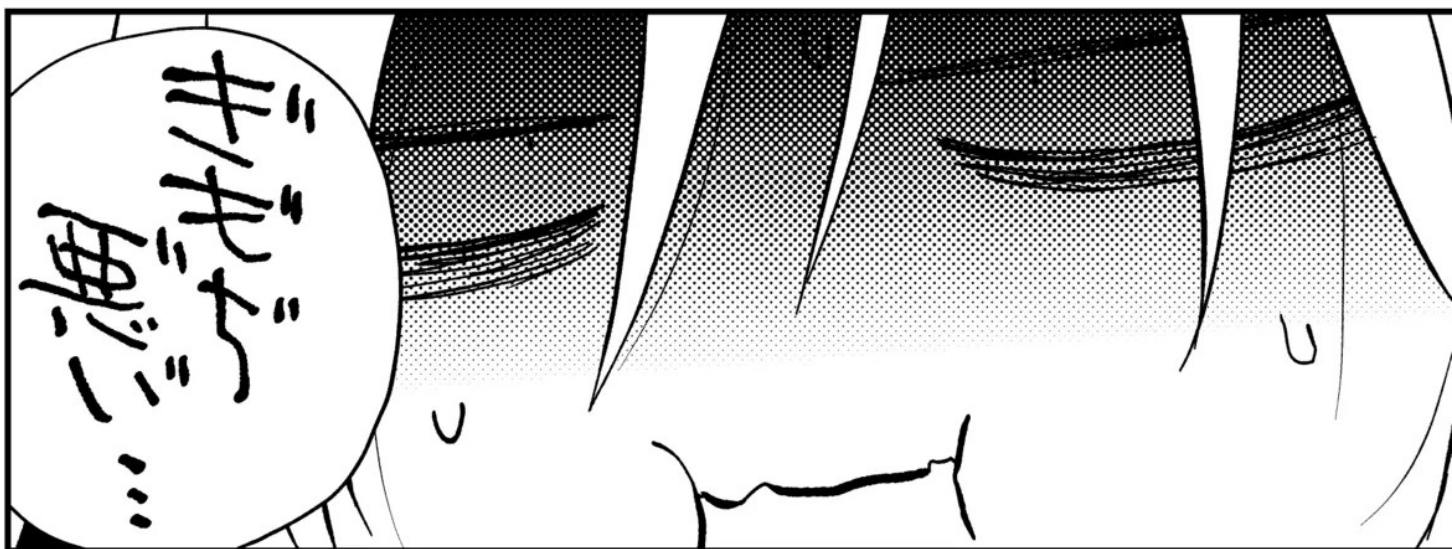
先生に言われたく
ないんですけどお

ああ？



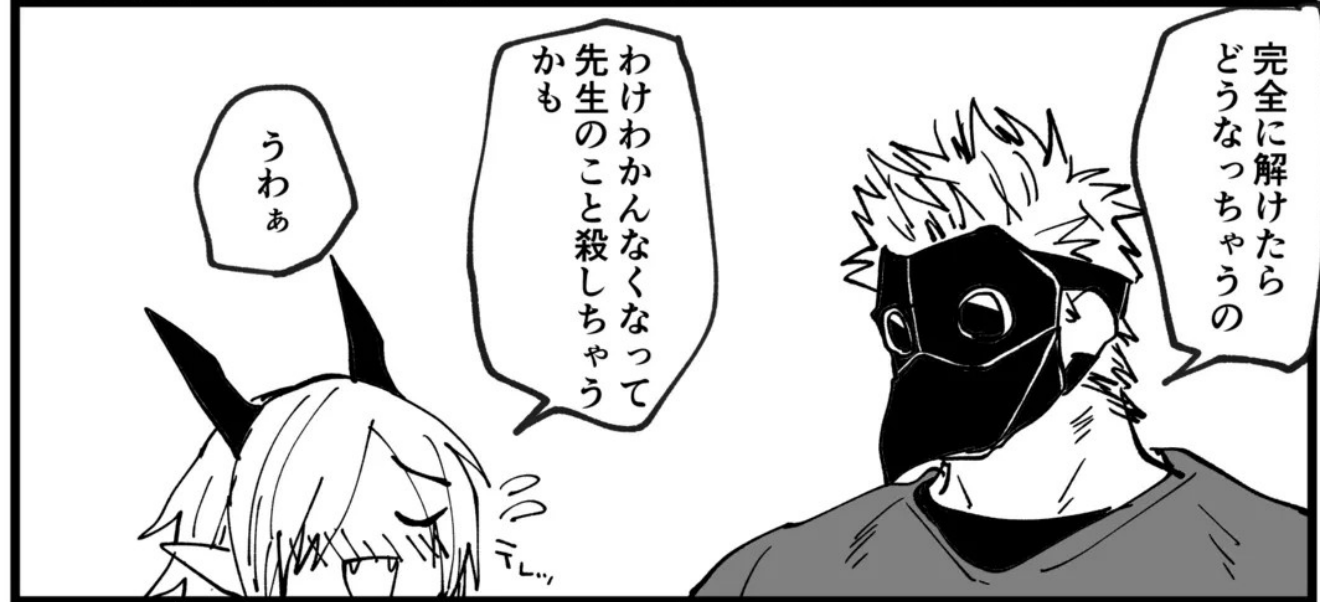


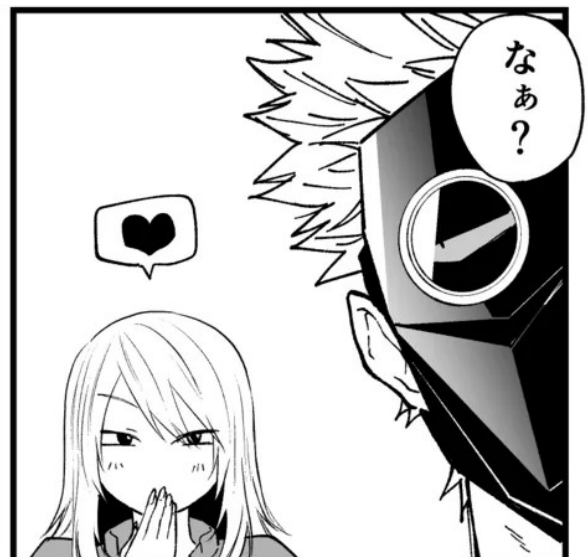
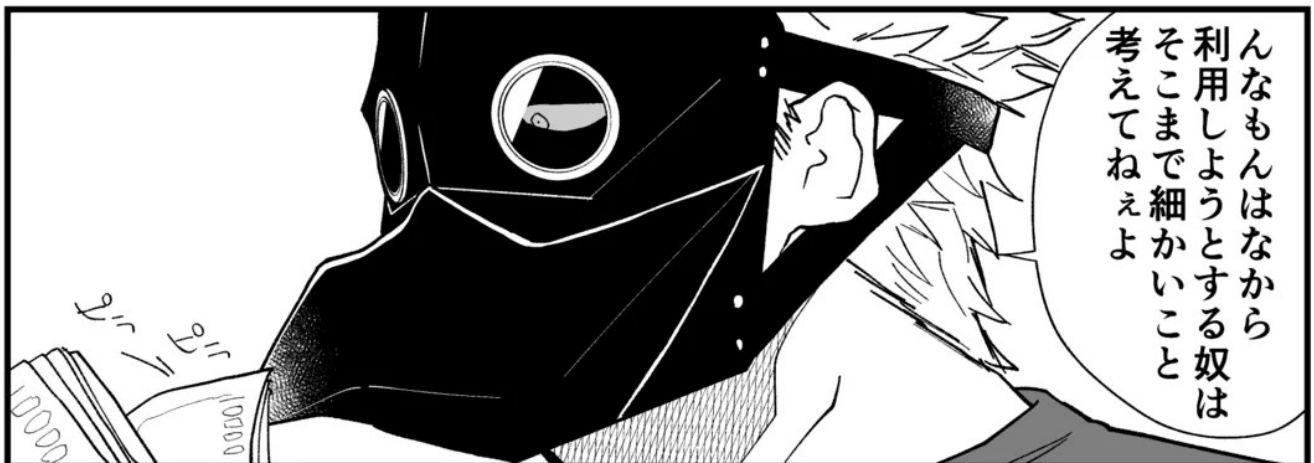




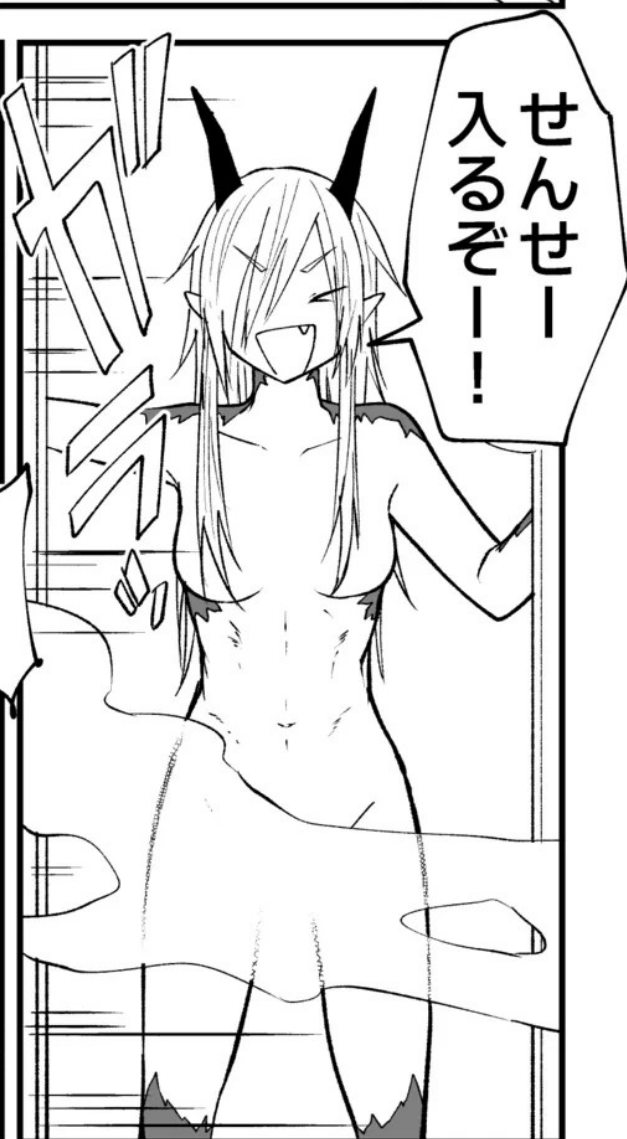
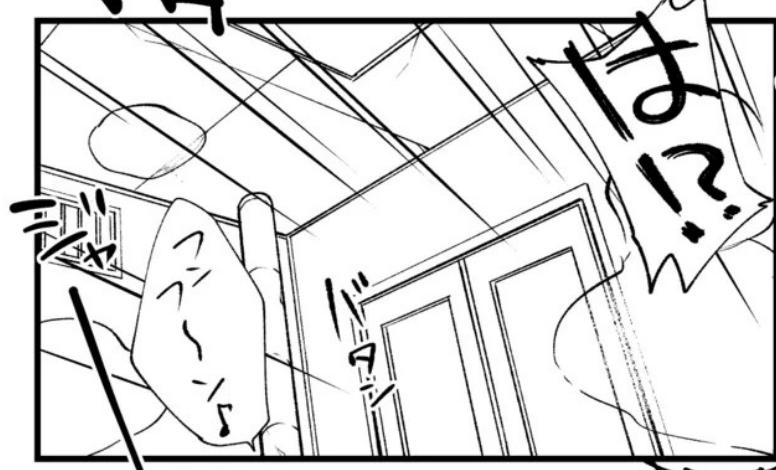




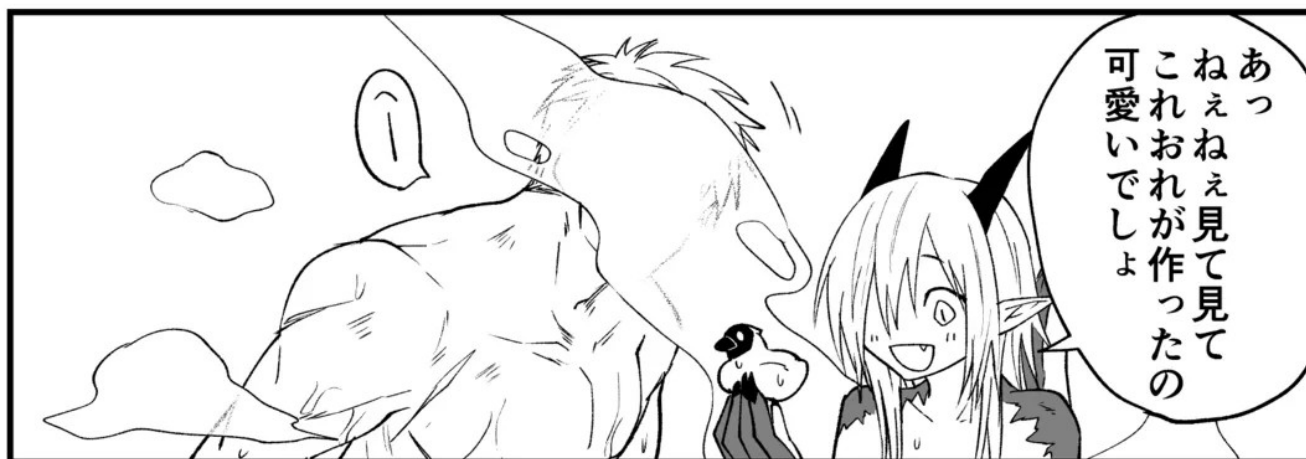


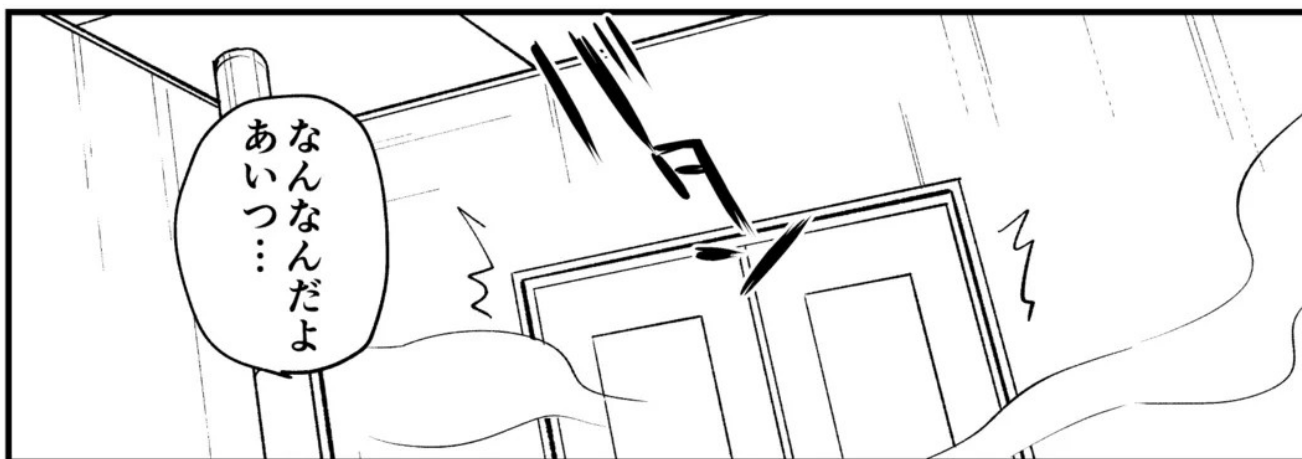






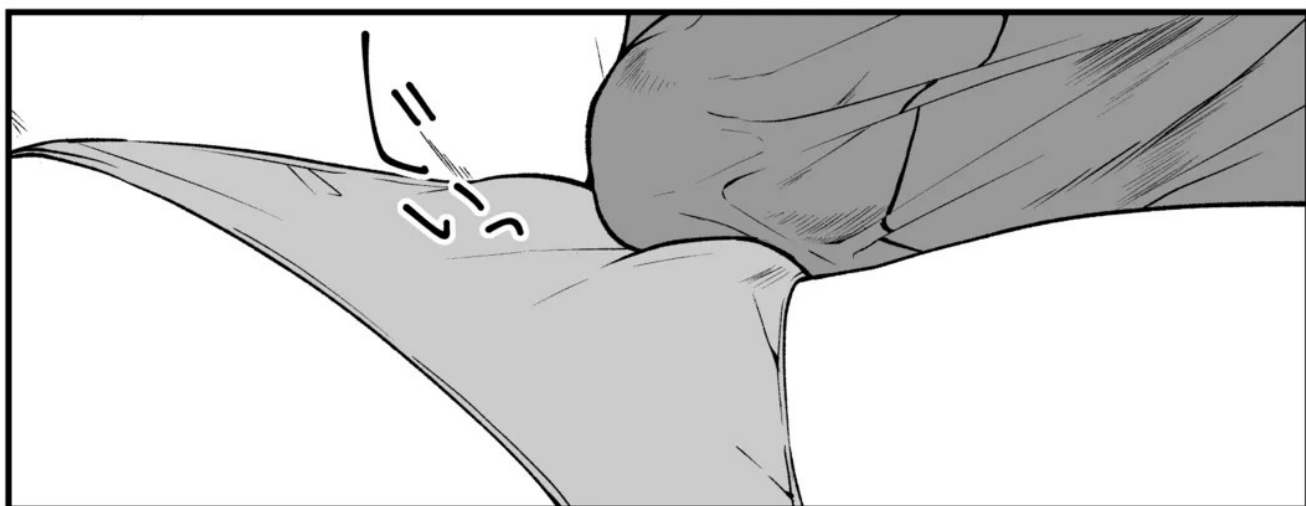
今入らないと
21時からの映画
見れないんだよ

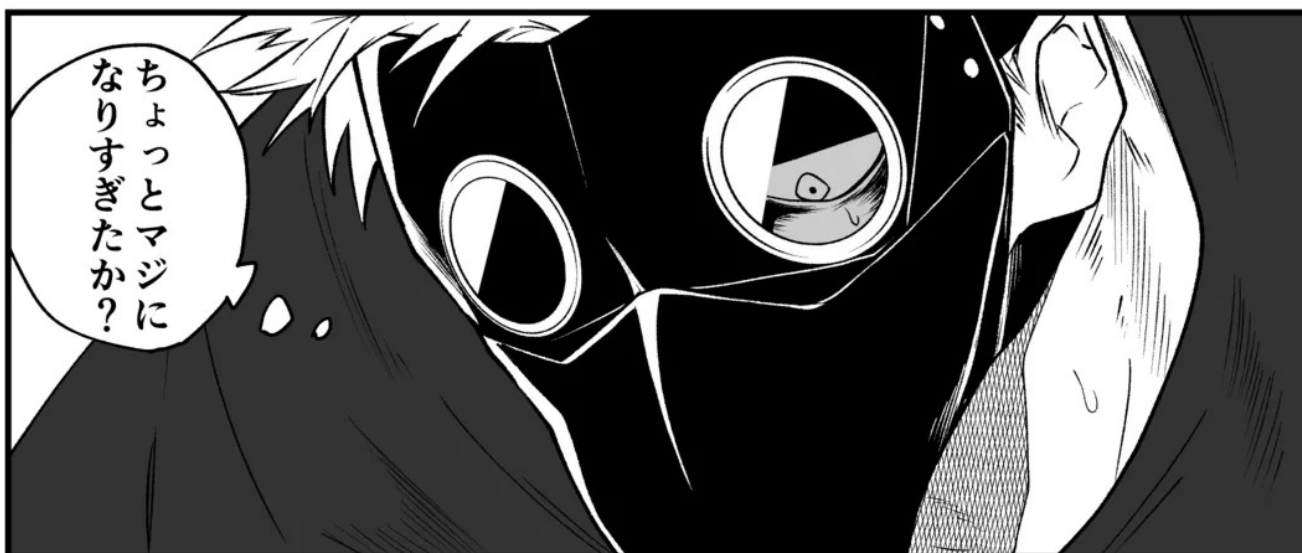






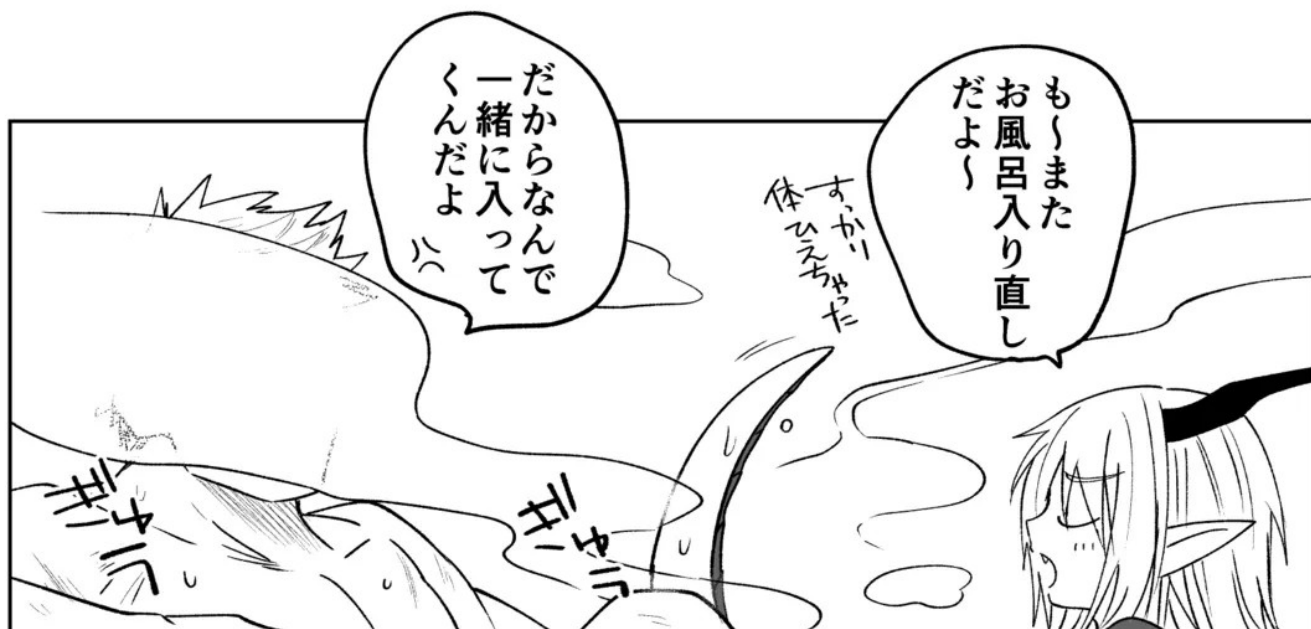






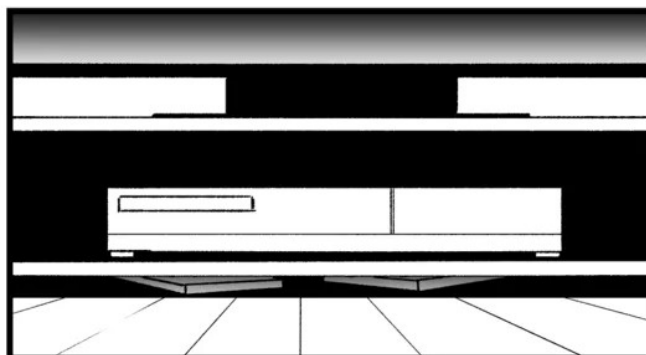
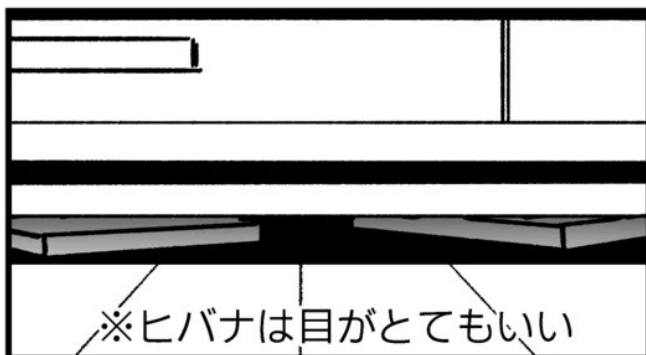




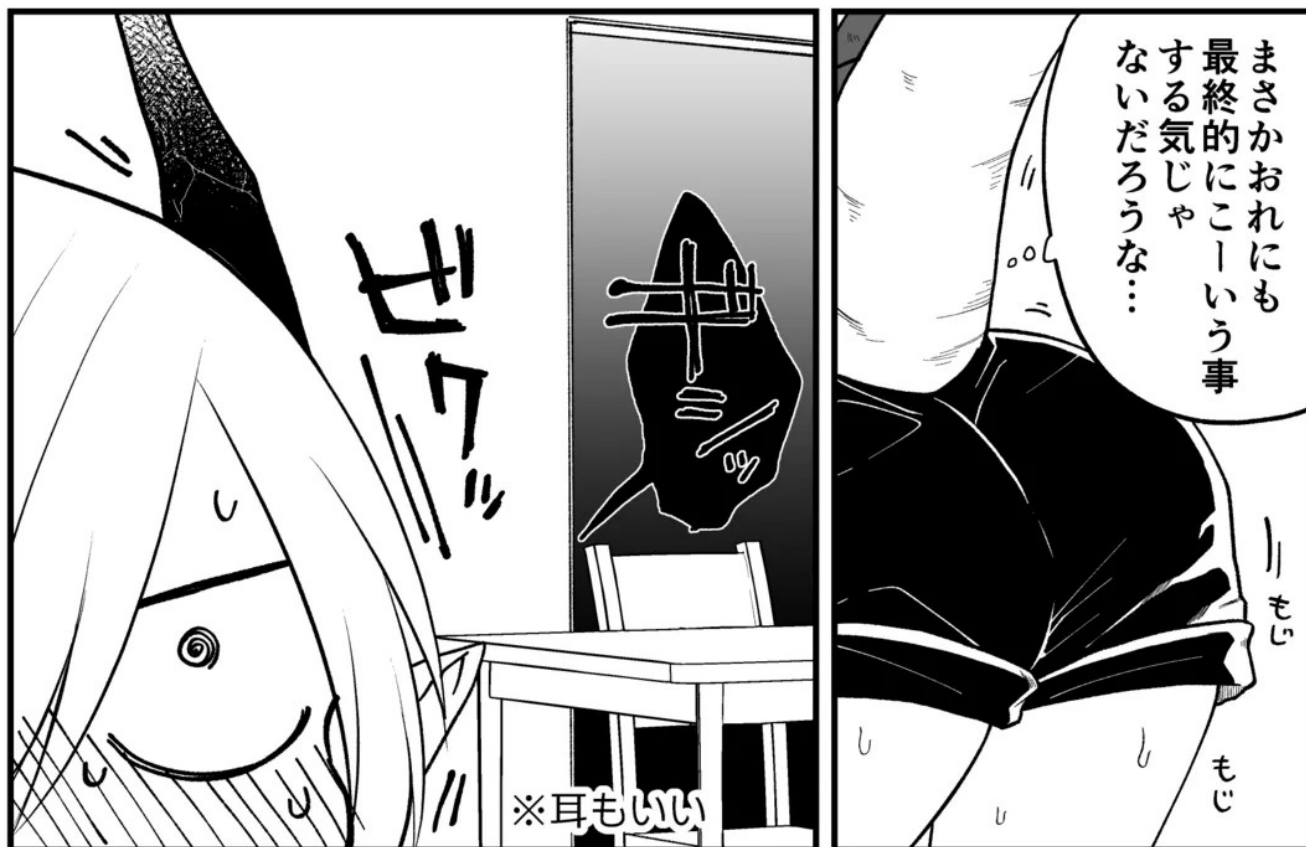
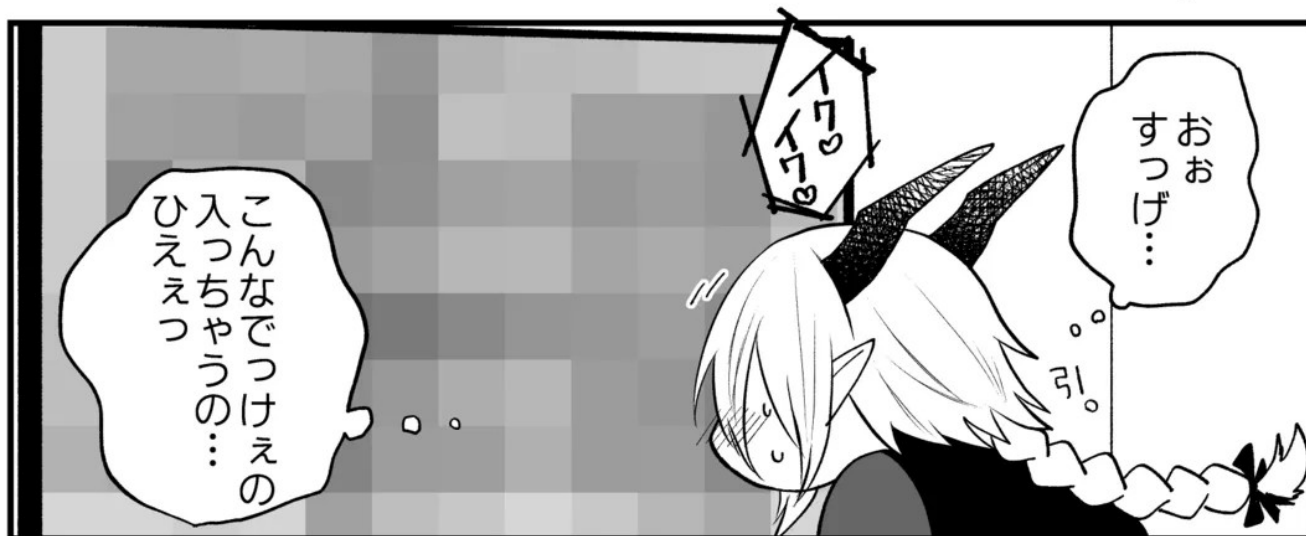


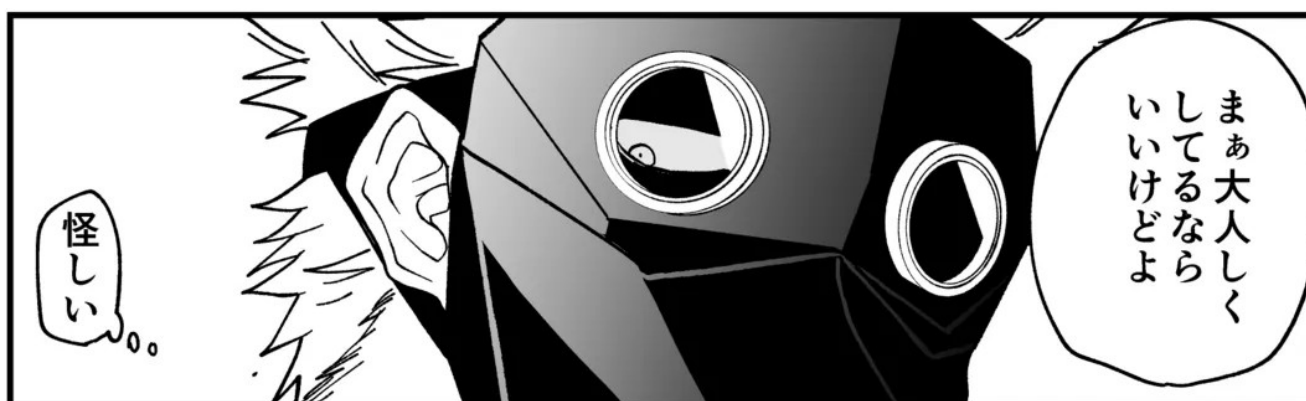
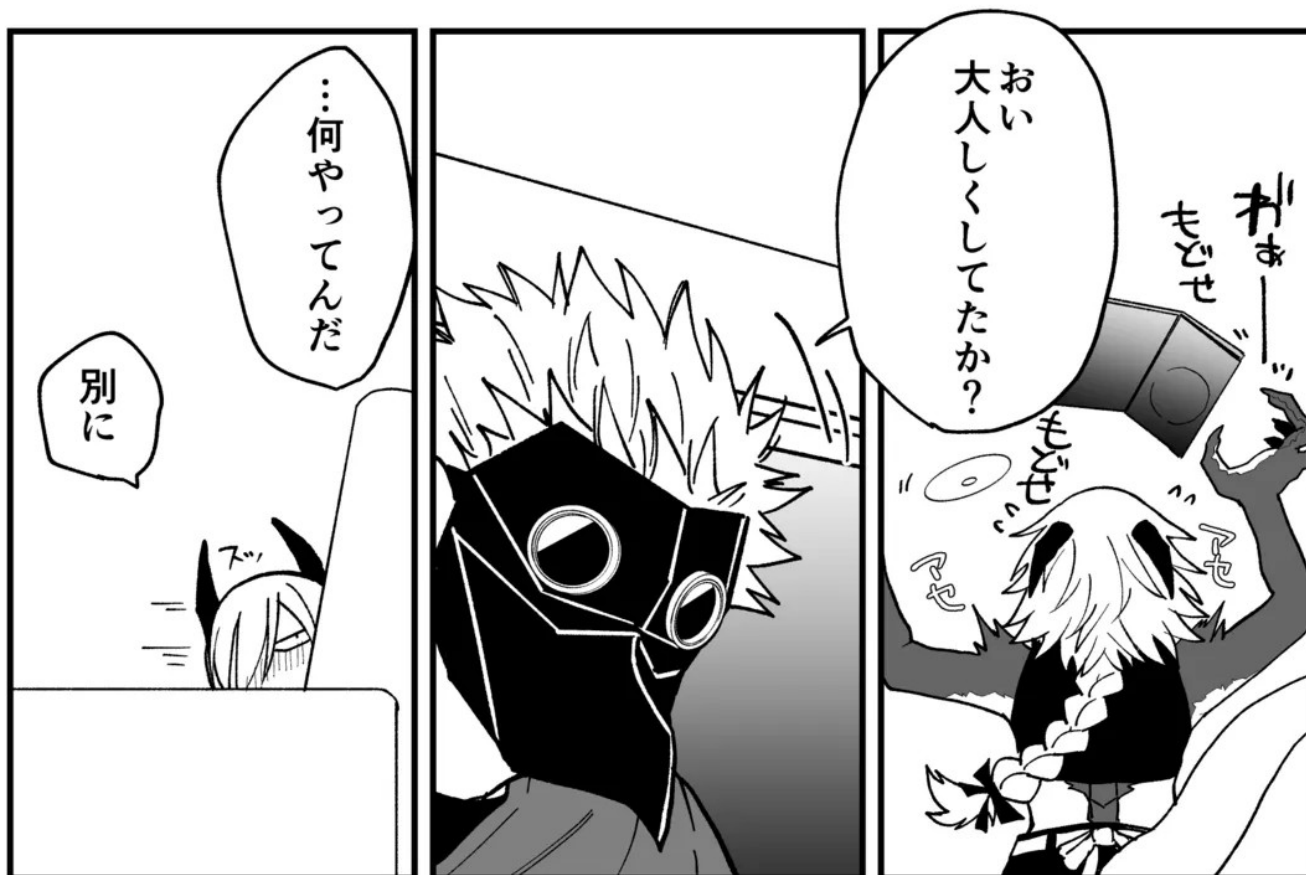
■番外編2

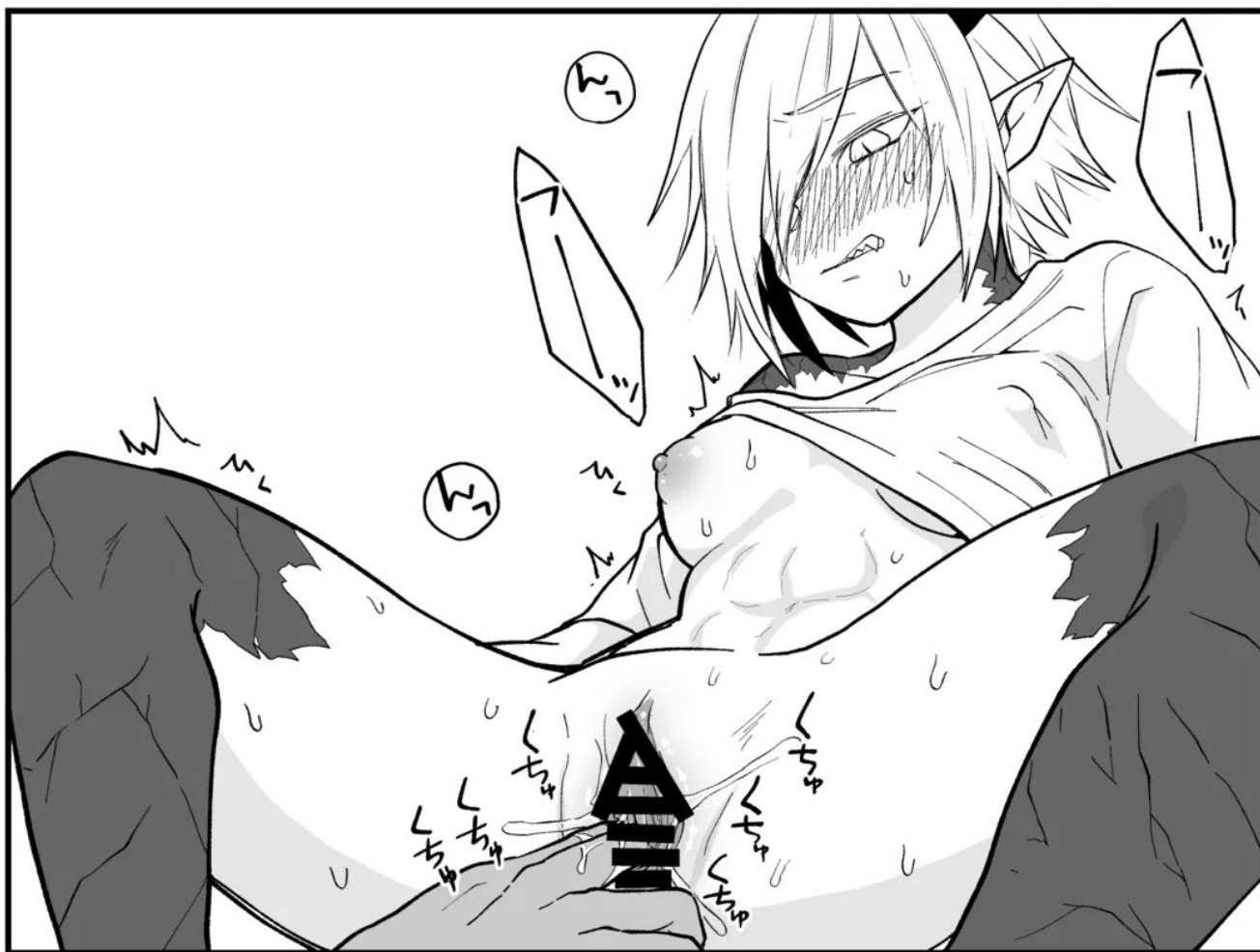
(時系列としては本編3話の前です)





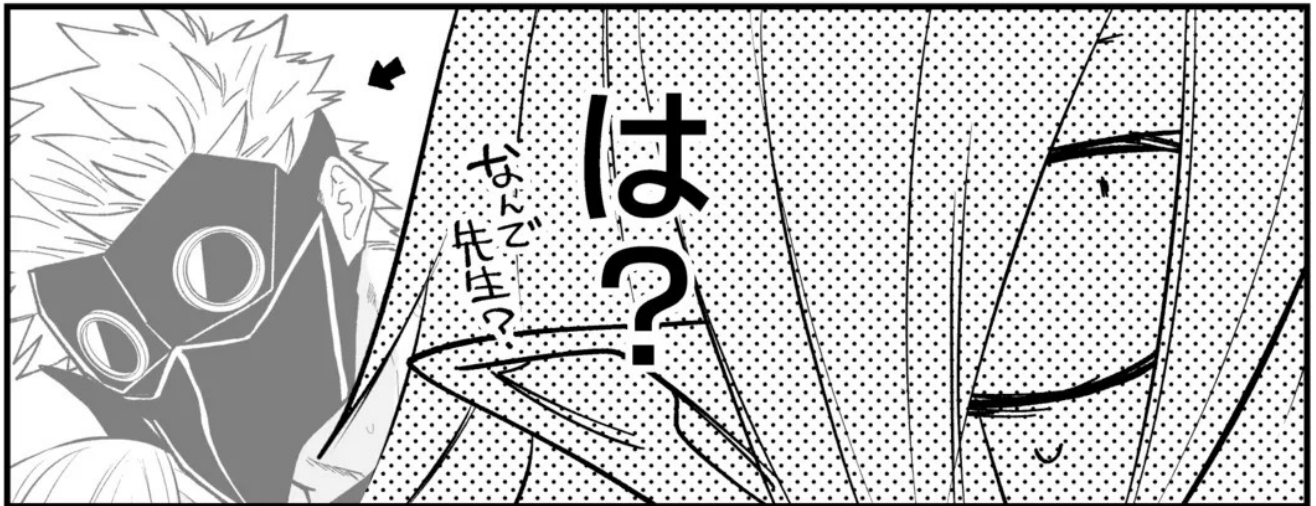












1話目描いたときは単発のつもりだったので
まさかこんなにも長く続くとは思っていませんでした。
今でも行き当たりばったりで描いてますが
ここまで続いたのも読んでくれた皆様のおかげです。

ここで物語は第一部完という感じですが
これからも話は描いていきたいと思っているので
引き続き読んで頂けると幸いです。

2024年1月 縞浦

X : @sima2000x



ともしび
燈火ヒバナ

120才(自称)

火竜

竜は長寿なため自分の歳には無頓着なので
どこまで正確かは不明
こう見えて成竜

身長：160cmぐらい
体重：見た目より重い

趣味：映画鑑賞
漫画・アニメ・ゲームも好き
身体を動かすことも好き
好きな食べ物：肉
お菓子等甘いもの全般

元気いっぱい
飽き性
マイペース
動物に好かれる

最近エッチなことにも
興味あるけど秘密
(バれてる)



からすだにしんくろう

鴉谷深九郎

36才

町医者

色々事情があり1年ほど前に
今の場所に来た

身長：200cmぐらい

体重：見た目どおり重い

趣味：読書

最近はヒバナの映画鑑賞に
付き合わされている

好きな食べ物：麺類
(短時間で食べ終える
ことができるため)

神経質、少し潔癖

筋トレはしてるけど
基本的にスポーツは苦手
動物に嫌われる

マスクは目元と口元部分で
分離可能



こにし

狐西ユカリ

職業：薬剤師

鴉谷とは旧知の仲

何やら裏で色々と小遣い稼ぎを

しており人脈も広い

敵に回したくない人

隙あらばヒバナに甘いものを

与えている

年下のセフレがいる



らいか

雷花

職業：警察官

雷竜

とっても強いので角に制御リングを付けている

任務を遂行するために無茶をしまくるので鴨四田に負担をかけていることをちょっと申し訳なく思っている

手袋は静電気対策

犬が好きなのでいつか一緒に暮らしたいと思っている



かもしだ

鴨四田

職業：警察官

雷花の相棒

雷花の制御リングを外す権限を持っている

無茶しまくる雷花の尻ぬぐいをよくさせられているが世渡り上手なおかげでうまくつきぬけている

中学生に間違えられる27才

雷花についていけるぐらい運動神経がいい



年齢は雷花＞ヒバナ＞ユカリ＞鴉谷＞鴨四田